埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第46集

立野南・八幡太神南・熊野太神南
今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢

児玉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告

—I—

(取付道路)

1985

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第46集

立野南・八幡太神南・熊野太神南
今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢

児玉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告

―Ⅰ―

（取付道路）

1985

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

児玉工業団地が所在する児玉郡市は、関越自動車道に代表される交通網の整備等に伴い、近年、都市化が急速に進行しております。こうしたなか、児玉工業団地は、埼玉県長期構想及び児玉郡市町村圏計画によって、県北地域開発の拠点として計画された、総面積110万m^2に及ぶ広大な工業用地であります。

この工業団地造成に先立って、用地内に含まれる埋蔵文化財の取り扱いについて関係諸機関と慎重に協議を重ねた結果、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになりました。

発掘調査は、埼玉県企業局の委託を受け、昭和54年度に埼玉県教育委員会が、昭和55年度以降は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が継続して実施いたしました。

本報告書は、児玉工業団地と関越自動車道本庄・児玉インターチェンジを結ぶ、延長約 3.3km の取付道路路線内にかかる埋蔵文化財の調査結果をまとめたものであります。

本書が学術研究、教育、さらに埋蔵文化財の普及・啓蒙を図る資料として、広く活用されることを念願いたしております。

末尾ながら、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大な御支援、御協力を賜わりました埼玉県企業局、本庄市教育委員会、上里町教育委員会、児玉町教育委員会、神川村教育委員会ならびに地元関係者各位に対しまして、深く感謝の意を表します。

昭 和 60 年 3 月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長　長　井　五　郎

例　　言

1. 本書は児玉工業団地建設にかかる発掘調査のうち、取付道路関係の遺跡（立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・梅沢・川越田遺跡）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は埼玉県企業局の委託により、埼玉県教育委員会が昭和54年度に着手した。翌昭和55年度からは財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が受託し、昭和58年度まで引き続き実施した。
   整理・報告書作成も当事業団が昭和59年度に実施した。調査の組織は2～4ページに示した。
3. 出土品の整理および図の作成は富田和夫、赤熊浩一が担当し、酒井和子、市川淳子の補助を受け、近江かおる、平田重之の協力を得た。
4. 発掘調査における写真は調査行程表で示した担当者が、遺物写真は富田、赤熊が撮影した。
5. 本書の執筆は富田和夫、赤熊浩一、市川淳子があたった。分担は次のとおりである。
   富田　Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ—1～5、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅻ
   赤熊　Ⅱ、Ⅵ—6、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅻ
   市川　Ⅵ—7、8
6. 本書における凡例
   ○縮尺は原則として次の通りである。遺構—住居跡・井戸跡 1/60、土壙 1/80、カマド 1/30、溝・ピットは不統一である。遺物実測図—土器・石器・瓦 1/4、須恵大甕 1/5、鉄器・石製品は 1/3。
   ○土器観察表の胎土はA赤色粒、B角閃石、C軟らかい白色粒、D石英、E長石、F金雲母、G白色針状物質、焼成の数字は4段階分類で1良好、2普通、3やや不良、4不良である。法量の（　）内の数値は推定値であり、単位はcmである。
   ○土器実測図における断面に付す「—」は土師器の場合横ナデ範囲であり、須恵器外面の場合篦削りの範囲を示す。篦削り及びハケ目は実線で、後横ナデが施される場合は破線で表現した。↑は篦削りの方向を示した。
   ○遺物出土分布状態において原則として土師器、○は供膳具・□は煮沸具・△は貯蔵具・須恵器・●は供膳具・■は煮沸具・▲は貯蔵具・その他、▼は鉄滓・★は砂岩・紡錘車・▽は硬質土師。川越田・梅沢遺跡は全て●で示した。
   ○遺物出土分布図中の番号はすべて土器実測挿図中の番号に対応させ、接合関係を線で結んだ。
   ○土層図、エレベーション図のレベル数値はすべて標高を示す。（単位m）
7. 出土土器・粘土の胎土分析は第四紀地質研究所の井上巌氏に委託した。
8. 本書の編集は埼玉県埋蔵文化財調査事業団、調査研究部第五課職員があたり、調査研究部長中島利治、同副部長小川良祐が監修を行った。
9. 本書の作成にあたり、下記の方々より御教示、御協力を賜った。（敬称略）
   長谷川勇　外尾常人　丸山修　鈴木徳雄　恋河内昭彦　岡本幸男　田村誠　篠崎潔　高木義和　大江正行　利根川章彦　谷井彪

目　　次

序

例　　言

Ⅰ　調査の概要…… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境…… 7

Ⅲ　立野南遺跡の調査……12

Ⅳ　八幡太神南遺跡の調査……40

Ⅴ　熊野太神南遺跡の調査……70

Ⅵ　今井遺跡群の調査……84

1　遺跡の概観……84

2　G地点の遺構と出土遺物……87

3　F地点の遺構と出土遺物…… 116

4　E地点の遺構と出土遺物…… 136

5　D地点の遺構と出土遺物…… 140

6　C地点の遺構と出土遺物…… 154

7　B地点の遺構と出土遺物…… 169

8　北廓遺跡の遺構と出土遺物…… 180

Ⅶ　一丁田遺跡の調査…… 200

Ⅷ　川越田遺跡の調査…… 212

Ⅸ　梅沢遺跡の調査…… 294

Ⅹ　瓦・金属製品・石製品…… 311

Ⅺ　附　　編…… 314

Ⅻ　結　　語…… 321

挿　図　目　次

第１図　周辺の遺跡（古墳時代）……8
第２図　周辺の遺跡（奈良・平安時代）… 10

立野南遺跡

第３図　立野南・八幡太神南・熊野太神南遺跡グリッド配置図……13・14
第４図　立野南遺跡全測図……15・16
第５図　１号住居跡・カマド…… 17
第６図　１号住居跡出土遺物…… 18
第７図　２号住居跡……19・20
第８図　２号住居跡遺物分布図…… 21
第９図　２号住居跡カマド（古）…… 22
第10図　２号住居跡カマド（新）…… 23
第11図　２号住居跡出土遺物（１）…… 24
第12図　２号住居跡出土遺物（２）…… 25
第13図　２号住居跡出土遺物（３）…… 27
第14図　２号住居跡出土遺物（４）…… 29
第15図　２号住居跡出土遺物（５）…… 31
第16図　２号住居跡出土遺物（６）…… 33
第17図　１号掘立柱建物跡…… 34
第18図　２号掘立柱建物跡…… 35
第19図　１号井戸跡…… 36
第20図　１号井戸跡出土遺物…… 37
第21図　１号溝跡…… 38
第22図　１・２号土壙…… 38

八幡太神南遺跡Ａ地点

第23図　八幡太神南遺跡（Ａ・Ｂ）地点全測図……41・42
第24図　１号住居跡…… 43
第25図　１号住居跡カマド…… 44
第26図　１号住居跡出土遺物分布図(1)…… 45
第27図　１号住居跡出土遺物分布図(2)…… 46
第28図　１号住居跡出土遺物(1)…… 47
第29図　１号住居跡出土遺物(2)…… 49
第30図　１号住居跡出土遺物(3)…… 51
第31図　１号住居跡出土遺物(4)…… 53
第32図　１号住居跡出土遺物(5)…… 55
第33図　大溝出土遺物…… 56
第34図　大溝、１・２号溝跡…… 57
第35図　３・４号溝跡…… 58
第36図　竪穴状遺構、５・６号溝跡…… 59

八幡太神南遺跡Ｂ地点

第37図　１・２号住居跡…… 60
第38図　２号住居跡カマド…… 61
第39図　２号住居跡出土遺物…… 61
第40図　１号掘立柱建物跡…… 62
第41図　２号掘立柱建物跡・３号溝跡…… 63
第42図　２号掘立柱建物跡東側須恵甕出土状況…… 64
第43図　２号掘立柱建物跡東側出土遺物… 65
第44図　３号掘立柱建物跡…… 66
第45図　４号掘立柱建物跡…… 67
第46図　１・２号溝跡、２号溝跡出土遺物…68
第47図　１・２号土壙、ピット…… 69

熊野太神南遺跡Ａ地点

第48図　熊野太神南遺跡全測図……71・72
第49図　大溝跡…… 73
第50図　大溝跡出土遺物(1)…… 74
第51図　大溝跡出土遺物(2)…… 75
第52図　１～11号土壙…… 77
第53図　12号土壙…… 78
第54図　１～４・６号土壙出土遺物…… 79

熊野太神南遺跡Ｂ地点

第55図　１号住居跡出土遺物…… 79
第56図　１号住居跡…… 80

第57図　1～4号土壙…… 81
第58図　1～4号土壙、ピット1出土遺物…82
第59図　トレンチ出土遺物…… 83

今井遺跡群G地点

第60図　今井遺跡群E～G地点グリッド配置図……85・86
第61図　今井遺跡群G地点全測図……85・86
第62図　1号住居跡…… 87
第63図　1号住居跡出土遺物…… 88
第64図　2号住居跡・カマド…… 89
第65図　2号住居跡出土遺物分布図…… 90
第66図　2号住居跡出土遺物(1)…… 91
第67図　2号住居跡出土遺物(2)…… 93
第68図　2号住居跡出土遺物(3)…… 95
第69図　3号住居跡出土遺物…… 97
第70図　3号住居跡…… 97
第71図　3号住居跡カマド…… 98
第72図　4号住居跡…… 99
第73図　4号住居跡カマド……100
第74図　4号住居跡出土遺物……101
第75図　5号住居跡……102
第76図　5号住居跡カマド……103
第77図　5号住居跡出土遺物分布図……104
第78図　5号住居跡出土遺物(1)……105
第79図　5号住居跡出土遺物(2)……107
第80図　1号掘立柱建物跡……109
第81図　2号掘立柱建物跡(1)……110
第82図　2号掘立柱建物跡(2)……111
第83図　3号掘立柱建物跡……111
第84図　1号粘土採掘壙……112
第85図　1号粘土採掘壙出土遺物……112
第86図　2号粘土採掘壙・2号溝跡……113
第87図　2号粘土採掘壙出土遺物……114
第88図　3号粘土採掘壙……115
第89図　1号溝跡……116

今井遺跡群F地点

第90図　今井遺跡群F地点全測図……117・118
第91図　1号住居跡・カマド……119
第92図　1号住居跡出土遺物分布図……120
第93図　1号住居跡出土遺物……121
第94図　2号住居跡……123
第95図　2号住居跡カマド……124
第96図　2号住居跡出土遺物……125
第97図　3号住居跡・カマド……127
第98図　3号住居跡出土遺物……128
第99図　4号住居跡・カマド……129
第100図　5号住居跡…… 129
第101図　5号住居跡出土遺物…… 130
第102図　6号住居跡・カマド…… 131
第103図　6号住居跡出土遺物…… 132
第104図　1～4号溝跡…… 133
第105図　5～9号溝跡…… 134
第106図　1～10号土壙…… 135

今井遺跡群E地点

第107図　1号住居跡…… 136
第108図　今井遺跡群E地点全測図…… 137
第109図　1号住居跡カマド…… 138
第110図　1号掘立柱建物跡…… 139
第111図　1号土壙…… 139
第112図　1号溝跡…… 140

今井遺跡群D地点

第113図　今井遺跡群D地点全測図… 141・142
第114図　今井遺跡群C・D地点グリッド配置図…… 143
第115図　1号住居跡…… 144
第116図　2号住居跡…… 144
第117図　3号住居跡…… 145
第118図　4号住居跡…… 145
第119図　5号住居跡…… 146
第120図　5号住居跡カマド…… 147
第121図　6・7号住居跡・カマド…… 148

第122図　8号住居跡…… 149
第123図　9号住居跡・カマド…… 150
第124図　1号掘立柱建物跡…… 151
第125図　1～8号土壙…… 151
第126図　2～5・7～9号住居跡・6号土壙出土遺物…… 153

今井遺跡群C地点

第127図　今井遺跡群C地点全測図… 155・156
第128図　1・3号住居跡…… 157
第129図　1・3号住居跡カマド…… 158
第130図　1号住居跡出土遺物…… 159
第131図　2号住居跡…… 160
第132図　2号住居跡出土遺物…… 160
第133図　3号住居跡出土遺物…… 161
第134図　4号住居跡…… 161
第135図　4号住居跡カマド…… 162
第136図　4号住居跡出土遺物…… 162
第137図　5号住居跡…… 163
第138図　5号住居跡出土遺物…… 163
第139図　6号住居跡…… 164
第140図　6号住居跡出土遺物…… 164
第141図　1号井戸跡…… 166
第142図　1号井戸跡出土遺物…… 167
第143図　1～4号溝跡・1号土壙…… 168
第144図　2号溝跡出土遺物…… 169

今井遺跡群B地点

第145図　今井遺跡群B地点・北廓遺跡グリッド配置図…… 170
第146図　今井遺跡群B地点全測図… 171・172
第147図　1号住居跡・カマド…… 174
第148図　1号住居跡出土遺物…… 175
第149図　2号住居跡…… 175
第150図　2号住居跡出土遺物…… 176
第151図　1～9号溝跡…… 177
第152図　1～24号土壙…… 179
第153図　25～35号土壙…… 180

北廓遺跡

第154図　北廓遺跡全測図…… 181・182
第155図　1号住居跡…… 183
第156図　2・3号住居跡…… 184
第157図　2号住居跡出土遺物分布図・カマド…… 185
第158図　2号住居跡出土遺物…… 186
第159図　3号住居跡出土遺物…… 187
第160図　4号住居跡・カマド…… 188
第161図　4号住居跡出土遺物…… 189
第162図　5号住居跡…… 190
第163図　5号住居跡出土遺物…… 191
第164図　6号住居跡・カマド…… 192
第165図　6号住居跡出土遺物…… 193
第166図　1号溝跡…… 194
第167図　2・3号溝跡…… 195
第168図　4～14号溝跡…… 196
第169図　12号溝跡出土遺物及び出土遺物分布図…… 197
第170図　1・2・7・11号溝跡出土遺物… 198
第171図　1号掘立柱建物跡…… 199

一丁田遺跡

第172図　一丁田遺跡全測図…… 201・202
第173図　A区土層図…… 203
第174図　1号溝跡…… 204
第175図　2号溝跡出土遺物…… 204
第176図　2号溝跡…… 205
第177図　B区土層図…… 206
第178図　1号溝跡出土遺物…… 207
第179図　1号溝跡…… 208
第180図　2号溝跡…… 209
第181図　C区土層図…… 210

川越田遺跡

第182図　川越田遺跡全測図…… 213・214
第183図　川越田・梅沢遺跡グリッド配置図…… 215

第184図　1号住居跡カマド…… 216
第185図　1・27・31号住居跡…… 217・218
第186図　1号住居跡出土遺物(1)…… 219
第187図　1号住居跡出土遺物(2)…… 221
第188図　1号住居跡出土遺物(3)…… 223
第189図　1号住居跡出土遺物(4)…… 224
第190図　1号住居跡出土遺物(5)…… 225
第191図　1号住居跡出土遺物(6)…… 227
第192図　1号住居跡出土遺物(7)…… 228
第193図　2号住居跡・カマド…… 230
第194図　2号住居跡出土遺物…… 231
第195図　3号住居跡…… 231
第196図　3号住居跡出土遺物…… 232
第197図　3号住居跡出土遺物(1)…… 232
第198図　3号住居跡出土遺物(2)…… 233
第199図　4号住居跡…… 235
第200図　4号住居跡カマド…… 236
第201図　4号住居跡出土遺物…… 236
第202図　5号住居跡出土遺物…… 237
第203図　5号住居跡…… 237
第204図　6号住居跡…… 238
第205図　6号住居跡出土遺物…… 239
第206図　7号住居跡…… 240
第207図　7号住居跡出土遺物…… 241
第208図　8号住居跡…… 242
第209図　8号住居跡カマド…… 243
第210図　8号住居跡出土遺物…… 244
第211図　9・21号住居跡、21号住居跡カマド…… 245
第212図　10号住居跡…… 246
第213図　10号住居跡カマド…… 247
第214図　10号住居跡出土遺物…… 248
第215図　11号住居跡出土遺物…… 249
第216図　11号住居跡…… 250
第217図　12号住居跡・カマド…… 251
第218図　12号住居跡出土遺物…… 251
第219図　13号住居跡・カマド…… 253
第220図　13号住居跡出土遺物(1)…… 254
第221図　13号住居跡出土遺物(2)…… 255
第222図　14・16・17号住居跡…… 256
第223図　14号住居跡カマド…… 257
第224図　14号住居跡出土遺物(1)…… 258
第225図　14号住居跡出土遺物(2)…… 259
第226図　16・17号住居跡出土遺物…… 260
第227図　18・19号住居跡…… 262
第228図　18号住居跡出土遺物…… 263
第229図　19号住居跡出土遺物…… 263
第230図　20号住居跡…… 264
第231図　20号住居跡出土遺物…… 265
第232図　21号住居跡出土遺物…… 266
第233図　23号住居跡…… 267
第234図　24号住居跡…… 268
第235図　24号住居跡出土遺物…… 269
第236図　25号住居跡…… 271
第237図　25号住居跡出土遺物(1)…… 272
第238図　25号住居跡出土遺物(2)…… 273
第239図　26・28号住居跡・15号溝跡…… 274
第240図　29号住居跡・カマド…… 275
第241図　30号住居跡…… 276
第242図　30号住居跡出土遺物…… 276
第243図　31号住居跡出土遺物…… 277
第244図　1号井戸跡…… 278
第245図　1号井戸跡出土遺物…… 279
第246図　7号溝跡…… 280
第247図　7号溝跡出土遺物…… 281
第248図　11号溝跡…… 282
第249図　11号溝跡出土遺物(1)…… 283
第250図　11号溝跡出土遺物(2)…… 285
第251図　16号溝跡…… 286
第252図　土壙(1)…… 288
第253図　土壙(2)…… 289
第254図　土壙(3)…… 290

第255図　土壙出土遺物…… 290
第256図　グリッド出土遺物…… 292
梅　沢　遺　跡
第257図　B区遺物分布図(1)…… 296
第258図　B区遺物分布図(2)…… 297
第259図　B区遺物分布図(3)、A区1・2号住居跡…… 298
第260図　4・6号住居カマド…… 299
第261図　8・9・14号住居跡カマド…… 300
第262図　18号住居跡カマド…… 301
第263図　B区出土遺物(1)…… 301
第264図　B区出土遺物(2)…… 302
第265図　B区出土遺物(3)…… 303
第266図　B区出土遺物(4)…… 304
第267図　B区出土遺物(5)…… 305
第268図　B区出土遺物(6)…… 306
第269図　A区出土遺物…… 307
第270図　瓦実測図…… 312
第271図　金属製品・石製品…… 313
第272図　三角・菱形ダイヤグラム、Qt-Pl相関図…… 317
第273図　胎土分析試料…… 320

附　図　目　次

附図1　児玉工業団地関係遺跡周辺地形図

表　目　次

第1表　取付道路関係遺跡調査工程表……6
第2表　今井F地点土壙計測表……135
第3表　今井D地点土壙計測表……152
第4表　川越田遺跡土壙計測表……287
第5表　胎土性状表……315
第6表　螢光X線諸元表……319
第7表　胎土分析試料一覧表……320

図　版　目　次

図版1　立野南全景
図版2　立野南1号住居跡
図版3　立野南2号住居跡
図版4　立野南井戸1
八幡太神南A1号住居跡(1)
図版5　八幡太神南A1号住居跡(2)、大溝
図版6　八幡太神南B全景、掘立1
図版7　八幡太神南B掘立2・3
図版8　熊野太神南A全景、大溝
図版9　熊野太神南B全景、1号住居跡
図版10　今井G全景、1号住居跡
図版11　今井G2・4号住居跡
図版12　今井G4号住居跡カマド
今井G5号住居跡(1)
図版13　今井G5号住居跡(2)・カマド
図版14　今井G掘立1～3全景、粘土採掘壙3

図版15　今井F１号住居跡
図版16　今井F２・３号住居跡
図版17　今井F６号住居跡・カマド
図版18　今井F土壙６、１号住居跡
図版19　今井D４号住居跡
図版20　今井D５・６・７号住居跡
図版21　今井D７号住居跡カマド、９号住居跡
図版22　今井D掘立１、土壙３
図版23　今井C全景、１・３号住居跡
図版24　今井C４号住居跡・カマド
図版25　今井C６号住居跡、井戸
図版26　今井B１・２号住居跡
図版27　北廓２・３・４号住居跡
図版28　北廓４号住居跡カマド、５号住居跡
図版29　北廓６号住居跡
図版30　北廓掘立１、溝11
図版31　一丁田A区溝２、B区溝１
図版32　一丁田B区溝２、C区全景
図版33　川越田１号住居跡(1)・(2)
図版34　川越田１号住居跡貯蔵穴
　　川越田１号住居跡(3)
図版35　川越田３号住居跡・カマド
図版36　川越田４・５号住居跡
図版37　川越田６・８号住居跡
図版38　川越田10・11号住居跡
図版39　川越田12・14号住居跡
図版40　川越田23・25号住居跡
図版41　川越田溝７・11
図版42　川越田溝16、井戸１
図版43　梅沢A区全景、B区３号住居跡
図版44　梅沢B区４・５号住居跡
図版45　立野南２号住居跡出土遺物その１
図版46　立野南２号住居跡出土遺物その２
図版47　八幡太神南A１号住居跡出土遺物その１
図版48　八幡太神南A１号住居跡出土遺物その２
図版49　八幡太神南A１号住居跡出土遺物その３、熊野太神南A大溝出土遺物
図版50　今井G２号住居跡出土遺物
図版51　今井G４・５号住居跡出土遺物
図版52　今井F１・２・３・６号住居跡出土遺物
図版53　今井F６・D４・７・C１・４号住居跡出土遺物
図版54　今井C５・６・井戸１・B１・２・３・４号住居跡出土遺物
図版55　北廓4・6号住居跡、一丁田A区溝２、川越田１号住居跡出土遺物その１
図版56　川越田１号住居跡出土遺物その２
図版57　川越田１号住居跡出土遺物その３
図版58　川越田３・６・７・10・13号住居跡出土遺物
図版59　川越田13・14・21・24号住居跡出土遺物
図版60　川越田24・25号住居跡出土遺物
図版61　川越田25号住居跡、溝７・11出土遺物
図版62　川越田溝11、井戸１、土壙39、梅沢３号住居跡出土遺物
図版63　梅沢３・４・５号住居跡出土遺物
図版64　梅沢５号住居跡、N—35G、O—37G、A区出土遺物
図版65　土器（部分）　暗文・墨書土器
図版66　鉄器、青銅製品、石製品

Ⅰ　調査の概要

1.　発掘調査に至るまでの経過

埼玉県では、良好な生活環境と職場を確保するため県土に合った土地利用計画を策定し、その計画に沿って各種の施策を進めている。県企業局では工場誘致と適切な工場配置を行うため、児玉地区においては児玉工業団地が計画された。県教育局文化財保護課ではこのような開発事業に対応するため開発関係部局と事前協議を実施し、文化財保護について遺漏がないよう調整を進めてきた。

昭和49年、県企業局宅地造成課長から「児玉工業団地造成事業地内における埋蔵文化財の所在とその取扱いについて」文化財保護課長あて照会がなされた。文化財保護課では、本庄市、上里町、神川村教育委員会の協力を得て現地調査を実施し宅地造成課長あて大旨下記のとおり回答した。

1、事業地内には縄文時代、奈良～平安時代の集落跡３遺跡が所在すること。

2、これら埋蔵文化財包蔵地の取扱いは、できるだけ現状保存することが望ましいこと。

3、計画上やむを得ず現状変更する場合は文化財保護法第57条の３の規定に従って、事前に記録保存の発掘調査を実施すること。

これを受け宅地造成課では事業計画の具体化を進めつつ、文化財の取扱いについて検討を重ねた。

昭和53年、事業実施計画が決定し最初に取付道路の建設から始まることになった。昭和53年２月９日付け企局開第1292号を以って宅地造成課長から「児玉工業団地取付道路地内における文化財の包蔵の有無について」文化財保護課長あて照会がなされた。文化財保護課では取付道路内において、現地調査を実施したところ、上里町内に古墳時代集落跡３遺跡、本庄市内に古墳時代集落、奈良～平安時代条里跡２遺跡の所在が確認された。また、工業団地内の遺跡については、範囲等を明確に把握するために、昭和53年９月に試掘調査を実施した。その結果、№１遺跡、№２遺跡については、おおよその範囲が把握され、№３遺跡については遺構が存在しないことが確認された。

文化財保護課では、現地調査及び試掘調査結果を検討し、「児玉工業団地造成事業地内及び取付道路地内における埋蔵文化財の所在について」宅地造成課長あて、昭和53年10月５日付け教文第754号・教文第1538号を以って下記の通り通知した。

1、団地内には　1号（古井戸遺跡）２号（将監塚遺跡）が所在すること。

2、取付道路地内には、上里１号（立野南遺跡）上里２号（八幡太神南遺跡）上里３号（熊野太神南遺跡）本庄１号（北郭遺跡、今井遺跡群Ｂ～Ｇ）本庄２号（川越田遺跡、一丁田遺跡、梅沢遺跡）が所在すること。

その後、取扱いについて文化財保護課と宅地造成課において協議を重ねたが、計画変更は不可能となったため、やむを得ず記録保存の発掘調査を実施することとなった。その実施について文化財保護課と宅地造成課とで協議した結果、取付道路の上里町内から調査を実施することが決定した。

法的手続きを済ませた後、昭和54年９月から発掘調査は開始された。　（宮崎朝雄）

発掘調査の組織

1. 発　掘（昭和54年度）

主体者	埼玉県教育委員会	教育長	石田正利
事務局	埼玉県教育局文化財保護課	課長	杉山泰之
		課長補佐(兼)庶務係長	奥泉　信
		課長補佐	木戸一恵
			持田まり子
庶務経理	埼玉県教育局文化財保護課	庶務係	畔上敦志
			太田和夫
			千村修平
企画調整	埼玉県教育局文化財保護課	文化財第二係長	栗原文蔵
			柿沼幹夫
			駒宮史朗
			井上尚明
発　掘	埼玉県教育局文化財保護課	文化財第三係長	横川好富
			大和　修
			宮　昌之

2. 発　掘（昭和55年度）

主体者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理事長	関根秋夫
		副理事長	本郷春治
		常務理事	渡辺澄夫
庶務経理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管理部長	伊藤悦光
			関野栄一
			本庄朗人
発　掘	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	横川好富
		調査研究第二課長	小久保　徹
			今井　宏
			曽根原裕明

3. 発　掘（昭和56年度）

主体者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理事長	長井五郎
			(前)関根秋夫
		副理事長	沼尻和也
			(前)本郷春治
		常務理事	渡辺澄夫

庶務経理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管理部長	伊藤悦光
			関野栄一
			福田　浩
			本庄朗人
発　掘	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	横川好富
		調査研究第二課長	小久保　徹
			今井　宏
			曽根原裕明
			富田和夫
			小暮広史
			西口正純
			高橋好信
			山本　禎

4. 発　掘（昭和57年度）

主体者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理事長	長井五郎
		副理事長	岩上　進
			(前)沼尻和也
		常務理事	渡辺澄夫
庶務経理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管理部長	佐野長二
			関野栄一
			江田和美
			福田啓子
			福田　浩
			本庄朗人
発　掘	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	横川好富
		調査研究第二課長	小久保　徹
			今井　宏
			井上尚明
			曽根原裕明
			富田和夫
			小暮広史
			高橋好信
			岩瀬　譲
			赤熊浩一

5. 発掘及び整理（昭和58年度）

主体者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理事長	長井五郎

		副理事長	岩上　進
		常務理事	石川正美
庶務経理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管理部長	佐野長二
			関野栄一
			江田和美
			福田啓子
			福田　浩
			本庄朗人
発掘・整理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	横川好富
		調査研究副部長(兼) 調査研究第五課長	小川良祐
		調査研究第二課長	小久保　徹
			井上尚明
			富田和夫
			高橋好信
			石塚和則
			岩瀬　譲
			赤熊浩一
			書上元博

6. 整　理（昭和59年度）

主体者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理事長	長井五郎
		副理事長	岩上　進
		常務理事	石川正美
庶務経理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管理部長	小宮秀男
			関野栄一
			江田和美
			岡野美智子
			福田　浩
			本庄朗人
整　理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	中島利治
		調査研究副部長(兼) 調査研究第五課長	小川良祐
			富田和夫
			赤熊浩一

7. 協力者

本庄市教育委員会、上里町教育委員会、児玉町教育委員会、神川村教育委員会、地元区長及び地元住民。

2. 調査の経過

児玉工業団地取付道路用地内に所在する遺跡群の発掘調査は、昭和54年11月、県文化財保護課による立野南遺跡の調査を嚆矢とする。翌昭和55年からは、埼玉県埋蔵文化財調査事業団がこれを引き継ぎ、昭和58年11月までの5ヶ年に亘って断続的に実施された。

調査対象遺跡には、本庄市、上里町、児玉町の1市2町に跨がる7遺跡が含まれ、また調査期間も多年に亘るため、遺跡毎の細かい調査経過は省略し、年度を追ってその経過概要を記載する。

昭和54年度　11月下旬、事務所の設営等の準備とともに調査対象地の表土剝ぎを行う。本年度調査予定の3遺跡は、取付道路上里1号～3号遺跡と呼称し、それぞれ立野南・八幡太神南A地点・熊野太神南遺跡に対応する。

12月、立野南遺跡から調査開始。出土遺物の多い2号住居跡や井戸跡の調査は期間を要し、全景写真撮影の終了は2月中旬となった。引き続き、八幡太神南遺跡A地点の調査に移る。1号住居跡の精査に取りかかるが、膨大な量の土器の出土で調査は手間どる。一段落すると大溝跡の発掘を開始。土量が多いため、多くの労力を要した。3月にはいると、1号住居跡の遺物分布図作成と併行して熊野太神南遺跡の調査に着手。幅10mを越える大溝跡を検出。砂礫が多く調査は難航するが、急ピッチで掘り進める。中旬より他の遺構の掘り下げに移る。八幡太神南、熊野太神南両遺跡の測量と写真撮影を経て、3月末日までに全ての調査を終えた。

昭和55年度　女堀条里遺跡の一角に含まれる一丁田遺跡の調査を実施する。水田地帯にあるため、水位の低下する12月より調査を開始。B区、A区、C区の順にトレンチをあける。条里水田の確認に努めたが、土層観察からは畦畔等の遺構面は明瞭に把えられない。B区では溝2条を検出し、2月上旬より掘り下げを行なう。その間A区の調査を実施し、溝2条を確認。3月上旬までにA区、B区を終了した。続いてC区の調査に移る。C区では遺構の検出はなく、土層図の作成、写真撮影を実施し、3月27日全ての作業を終了した。

昭和56年度　4月～5月、川越田遺跡の表土除去（重機による）と遺構確認を行う。女堀川を挟んだ一丁田遺跡とは様相が異なり、多数の住居跡群を確認。水位が高いため、本調査は年度後半に行うことを決めて埋め戻す。7月、用地買収問題が解決した八幡太神南遺跡の残された部分（八幡太神南遺跡B地点）の調査にはいる。遺構確認後西側から順に遺構の掘り下げを始める。8月にはいると掘り下げの終了した遺構の測量を併行して行い、12日の全景撮影を以て調査を終了した。

11月より川越田遺跡の調査を開始。住居跡は重複が激しく、プランの把握は容易ではない。出土遺物も多く慎重に掘り進める。1月、梅沢遺跡の調査も併行して開始。黒色土中に土器とカマドが点在する状況で、しかも湧水が激しく遺構確認は困難を極めた。土層観察ベルトを残しつつ掘り下げるが遺構把握は難しい。3月、主力を梅沢遺跡に移し、月内に調査終了。川越田は翌年に継続。

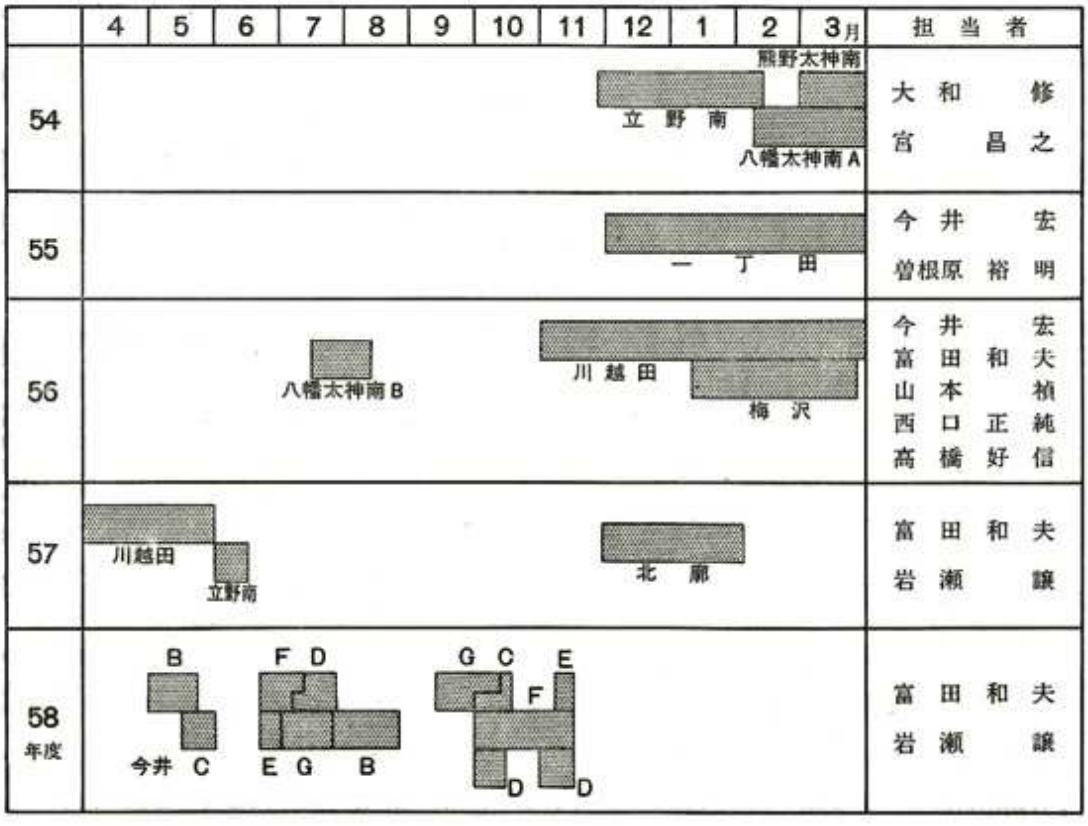
昭和57年度　4月、川越田遺跡の調査を続行。24・25号住等で五領期の叩き目土器を検出。また1号住から多量の土器が出土し、調査は難航するが、水田に水を引く直前の5月末日調査終了。

引き続き用地買収の解決した立野南遺跡の二次調査にはいるが、遺構が少なく6月中旬に終了。

11月下旬、今井遺跡群A地点の調査開始。北廓遺跡と呼称する。道路敷内も調査するため、交通確保の必要上、片側ずつ3工程に分割して実施。自動車の往来も多く、作業の安全にも留意して調査を進め、2月上旬までに住居跡6軒と14条の溝跡を検出し、調査を終える。

昭和58年度　4月、本年度調査される今井遺跡群B～G地点も道路敷下を調査対象に含めたため道路工事と併行して実施せざるを得ず、本庄市役所建設課と工事を受注した上野組を交え、期間、方法等を協議。道路の通行確保のため、道路片側ずつ調査することに決定。5月、B地点より発掘開始。調査区の幅が狭いうえ、ガス管及び水道管が埋設されているため、検出遺構の多くは寸断され、遺存状態はよくない。土壙群、溝等を検出し23日終了。一部併行してC地点の道路北側部分の調査にはいる。1号住は攪乱が激しく潰滅状態。6月1日終了。工事のため一時中断し6月20日よりE、F、G、Dの各地点を2～3箇所同時に調査を進める。F地点1・2号住はほぼ完掘でき、遺存状態は良好。7月26日終了。相前後してB地点の南側部分の調査に着手。大雨による冠水のため、やや遅れ8月25日終了。工事のため一時中断し、9月12日再開。G地点南側より開始。2号、5号住から多量の遺物を検出。引き続き10月上旬よりC、D、F地点を同時に調査。作業員を適宜集合、分散させて対応する。11月、最後に残ったD～F地点の一部の調査を進め、17日全て終了。

第1表　取付道路関係遺跡調査工程表



Ⅱ　遺跡の立地と環境

ここに報告する立野南・八幡太神南・熊野太神南は児玉郡上里町大字嘉美地区、今井遺跡群・一丁田遺跡は本庄市大字今井・大字一丁田地区、川越田・梅沢遺跡は児玉郡大字高関地区に所在し、埼玉県を南北に縦断する関越自動車道の本庄・児玉インターチェンジに近接する位置である。

これら7遺跡が位置する児玉地方の地形を概観すると、西方は埼玉県と群馬県との県境をなす神流川、これが合流する利根川を北方に望み、南方は秩父山地から連なる上武山地、そこから張り出すように児玉丘陵・松久丘陵が伸び、北東部には利根川の氾濫原に形成された妻沼底地が広がる。

これらによって囲まれた本庄台地は関東ロームをのせた洪積世と沖積世の扇状地からなる神流川扇状地と、関東ローム層が厚い礫層を被覆しているとされる身馴川扇状地とからなり、北東方向へ漸移的な傾斜をもつ。両者は、山崎山・浅見山・生野山といった第三紀層の独立丘陵を境に隣接する。この台地を開析して流れる中小河川は、金鑽川・赤根川水系、身馴川・志戸川水系の他、新田川・五明川水系が考えられる。遺跡はこれら河川に沿って列状に分布し、周辺には現在でも水田地帯が広がり一大穀倉地帯を形成している。弥生から古墳時代の農耕社会の発展はこうした地理的状況に大きく左右され耕作地・居住区・墓域・共同用益地等が形成されていたであろう。本地域周辺は古代東国文化の中心であった上毛野国に隣接しており県内では古墳・奈良・平安時代を通して遺跡が多数形成された地域である。加えて、最近では縄文時代の資料も増加している。神流川扇状地の洪積地上に位置するが将監塚遺跡・古井戸遺跡から縄文時代中期の集落対峙した状況で検出された、若宮台遺跡からも中期の遺物が少量出土し、天神林遺跡では縄文後期の遺物が報告されている。

〔古墳時代の主な遺跡〕

1．川越田遺跡　2．梅沢遺跡　3．一丁田遺跡　4．古井戸遺跡　5．後張遺跡　6．諏訪遺跡　7．愛宕遺跡　8．夏目遺跡　9．西富田新田遺跡　10．下田遺跡　11．雷電下遺跡　12．東谷遺跡　13．村後遺跡　14．前畑遺跡　15．樋之口遺跡　16．宮下遺跡　17．上耕地遺跡　18．下道堀遺跡　19．北谷戸遺跡　20．畑中遺跡　21．北貝戸遺跡　22．瓶藝神社前遺跡　23．枇杷橋遺跡　24．ミカド遺跡　25．倉林後遺跡　26．西北原遺跡　27．精神場遺跡　28．東猿御堂遺跡　29．高野谷戸遺跡　30．天神林遺跡　31．臺遺跡　32．若宮台遺跡　33．原遺跡　A．七ッ塚古墳群　B．東富田古墳群　C．塚本山古墳群　D．生野山古墳群　E．下町古墳群　F．大久保古墳群　G．長沖古墳群　H．高柳古墳群　I．飯倉古墳群　J．秋山古墳群　K．広木大町古墳群　L．南塚原古墳群　M．植竹古墳群　N．関口古墳群　O．元阿保古墳群　P．四軒在家古墳群　Q．大御堂古墳群　R．長沖古墳群　S．帯刀古墳群　T．東堤古墳群　U．本郷南古墳群　V．旭・小島古墳群　W．八幡山埴輪窯跡　X．蛭川埴輪窯跡　Y．宥勝寺北裏埴輪窯跡

〔奈良・平安時代の主な遺跡〕

1．立野南遺跡　2．八幡太神南遺跡　3．熊野太神南遺跡　4．今井遺跡群　5．一丁田遺跡　6．将監塚・古井戸遺跡　7．後張遺跡　8．久城前遺跡　9．諏訪遺跡　10．下廓遺跡　11．夏目遺跡　12．下田遺跡　13．大久保山Ⅰ遺跡　14．雷電下遺跡　15．御林下遺跡　16．阿知越遺跡　17．宮下遺跡　18．上耕地遺跡　19．下道堀遺跡　20．北谷戸遺跡　21．畑中遺跡　23．北貝戸遺跡　23．瓶藝神社前遺跡　24．枇杷橋遺跡　25．十二天遺跡　26．中道遺跡　27．精神場遺跡　28．皂樹原遺跡　27．檜下遺跡　30．女堀遺跡　31．油免遺跡　32．本郷東遺跡　33．田中前遺跡　34．東猿御堂遺跡　35．若宮台遺跡　36．高野谷戸遺跡　37．金久保内出遺跡　38．石神境遺跡　39．五明廃寺遺跡　40．児玉窯跡群

第１図　周辺の遺跡（古墳時代）

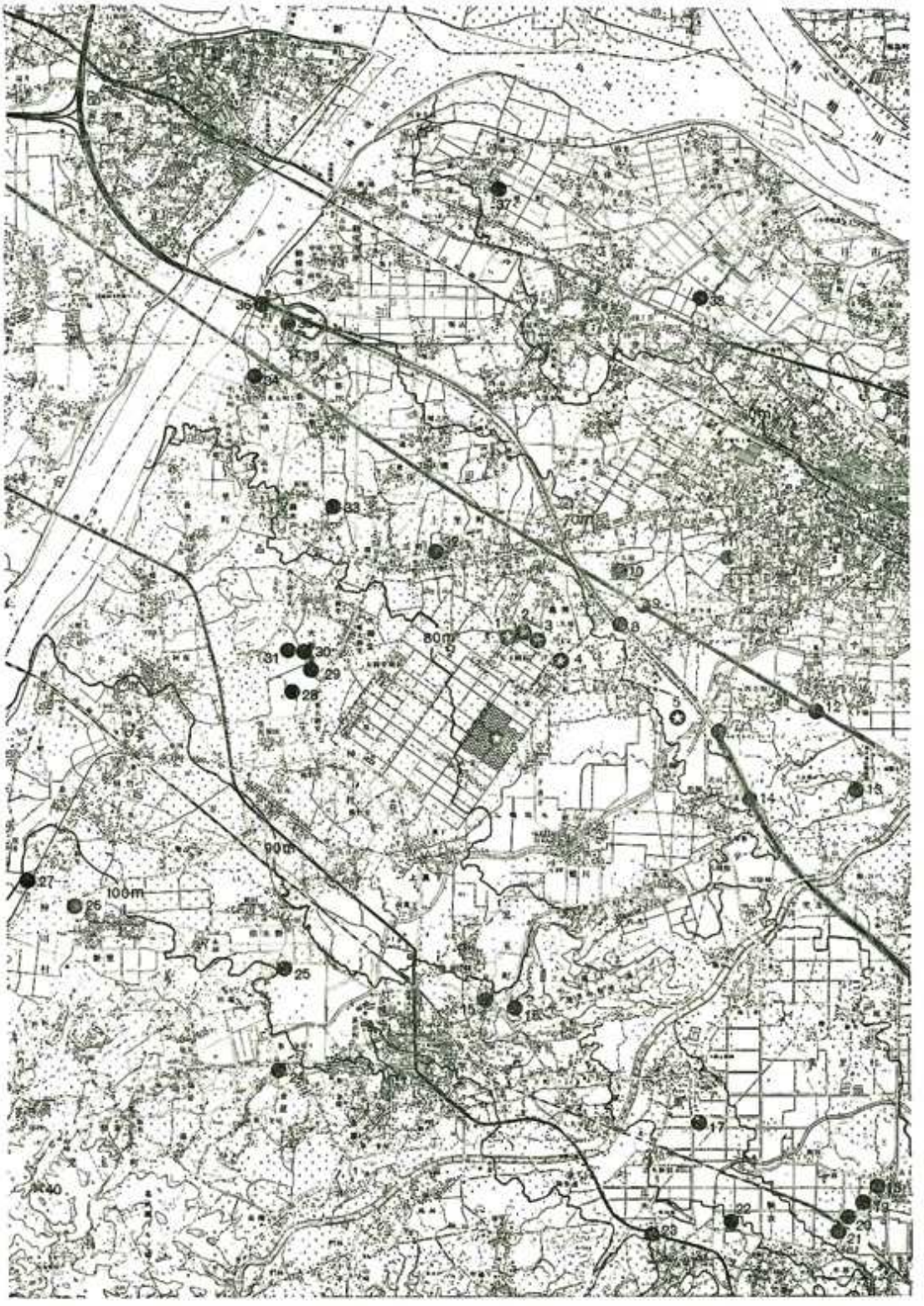
〔古墳時代〕

古墳時代の遺跡は、神流川扇状地や身馴川扇状地に形成される。両者は対峙し、身馴川扇状地上に早くから遺跡が形成され農耕集落として定着する様相を示す。

川越田遺跡・梅沢遺跡は、女堀川中流域右岸（金鑽川・赤根川水系）の自然堤防状の微高地に形成され、後張遺跡の南西に位置する同一集落と考えられる。横刷毛をもつS字状口縁甕や叩き調整の甕を出土し五領期後半から鬼高Ⅱ期の大集落である。東側1kmの所には同時期の下田遺跡、南側1kmの所に五領期後半の雷電下遺跡が所在する。一方左岸の一丁田遺跡からは、五領期・和泉期に構築された水路跡が検出され後張遺跡からも同時期の水路跡が検出されていることから、五領期後半には自然堤防上への積極的な進出と、開墾が始まったと考えられる。更に、女堀川中流域左岸には、沖積扇状地の水田地帯の大規模な開墾によって西側に広がる比高差5m以下の洪積扇状地の扇端部に古井戸遺跡、愛宕遺跡、夏目遺跡、西富田新田遺跡、二本松遺跡等の和泉期単一集落が形成され社会共同体の変化が示唆される。女堀川上流域右岸には、枇杷橋遺跡・倉林後遺跡が五領期から和泉期にかけて形成される。左岸微高地に鬼高期の大集落ミカド遺跡が形成され、丘陵上では和泉期の真鏡寺後遺跡が最近調査された。身馴川扇状地の右岸自然堤防上には、瓶蓋神社前遺跡、北貝戸遺跡、宮下遺跡、上耕地遺跡等が五領期から和泉期にかけて形成され、最近調査された村後遺跡からはS字状口縁甕を出土する前方後方形周溝墓が検出され、前方後方形周溝墓は、扇状地先端に位置する後榛沢遺跡、石蒔B遺跡、志戸川南遺跡において集中的に検出されている。神流川扇状地では、扇状地形特有の伏流水現象によって湧水地域が見られ扇端部にあたる下野堂遺跡が五領期から和泉期に形成されている。しかし概して扇状地には鬼高期以後の集落が集中して形成される。上越新幹線により調査された天神林遺跡、高野谷戸遺跡をはじめ、臺遺跡、若宮台遺跡、東猿御堂遺跡、原遺跡等がある。神流川上流域には、精神場遺跡、中道・西北原遺跡がある。

古墳の成立は、これまで仿製の方格規矩鏡を出土した5世紀前半に構築年代が求められる志戸川流域の長坂聖天塚古墳とされていたがこれより一段階古い古墳として女堀川中流域の鷺山古墳が位置付けられ、女堀川流域に広がる水田地帯を背景としてその系譜を金鑽神社古墳—生野山銚子塚古墳としてとらえている。(註1) 又女堀川下流域の前山2号墳、公卿塚古墳の系譜が、生野山丘陵では、将軍塚古墳が各々古式の様相をもつ。古墳時代後期になっても前方後円墳を含む古墳群が形成される。女堀川中流域では生野山古墳群、下流域では、東富田古墳群、塚本山古墳群があり、後者は170基を数え、古墳時代末期まで続く群集墳である。身馴川上流域では、高柳・長沖古墳群、秋山古墳群、広木大町古墳群が形成される。神流川扇状地においても古墳時代後期の集落の形成に伴って、南塚原古墳群、植竹古墳群、関口古墳群、元阿保古墳群、四軒在家古墳群、大御堂古墳群、長浜古墳群、帯刀古墳群があり、いずれも6世紀以降の築造とされ、所謂後期古墳が神流川扇状地に分布する。

本庄台地を中心として児玉地方の古墳時代の遺跡を概観したが、浅見山地域に形成される古式古墳と相俟って西側は川越田・梅沢・一丁田遺跡が位置する女堀川流域の沖積地帯、東側は身馴川流域の沖積地帯を控える。集落跡・古墳群の関連性をとらえる一方、こぶヶ谷戸遺跡に代表される祭祀遺跡、八幡山・蛭川・宥勝寺北裏埴輪窯跡等の生産遺跡との関連性も踏え検討してゆく必要性がある。



第2図　周辺の遺跡（奈良・平安時代）

〔奈良・平安時代〕

7世紀代に入ると、古墳時代から集落が形成されていた自然堤防上の微高地は、遺跡が減少傾向を示す。代わって集落は、神流川扇状地の沖積地水田地帯を臨む女堀川左岸の洪積扇状地や丘陵緩斜面にその占地を移す。この背景には、律令制度に沿った新しい政治機構の存在を示唆させる。

立野南遺跡、八幡太神南遺跡、熊野太神南遺跡、今井遺跡群は、扇央部に形成された真間期初頭から国分期にわたる遺跡である。特に真間期の遺構からは、非在地的要素を持つ遺物が出土し遺跡成立の背景を暗示させる。又、八幡太神南遺跡と熊野太神南遺跡から大溝跡が各々検出された。本遺跡の北東300mの地点に最近調査された往来北遺跡(註2)や久城前遺跡、諏訪遺跡からも大溝が検出された。一方南側では、児玉工業団地造成に先がけ調査された将監塚・古井戸遺跡からは、真間期から国分期の大集落跡に伴い、大溝跡が検出された。このことは、自然の中小河川だけの依存から、大規模な灌漑用水の開鑿や、本遺跡の東側を北流する九郷用水の開鑿が問題となる。九郷用水は、開鑿時期は明らかでないが、神流川から引水し児玉郡を北流する新田川と新里で分水する。これらの用排水路の整備は、一丁田遺跡の位置する条里水田の拡大や施行時期とも大きな関連性をもつ。

奈良・平安時代の周辺の集落として扇端部には夏目遺跡・下郭遺跡、扇央部には皂樹原遺跡(註3)や連続する檜下、女堀遺跡、油免遺跡がある。神流川沿いには、東猿御堂遺跡、若宮台遺跡、高野谷戸遺跡、金久保内出遺跡があり、丘陵緩斜面に甑蘊神社前遺跡、阿知越遺跡、大久保山Ⅰ遺跡、枇杷橋遺跡等があり、この時期の集落が多数知られる。また、律令制度の定着により児玉地方においても従来からの古墳祭祀による支配機構から氏寺的性格をもつ寺院造営が着手される。これは在地勢力と律令社会の関係性を示唆させる。五明廃寺、また児玉窯跡と供給関係にある城戸野廃寺、皂樹原遺跡、馬騎の内廃寺、岡廃寺、西別府廃寺が建立され、その背景には上野国との関連も見のがせない。

註1　古式古墳の年代的位置・系譜は、菅谷浩之「北武蔵における古式古墳の成立」による。
註2　上里町教育委員会で最近調査され、外尾常人氏の御教示を得た。
註3　神川村教育委員会で現在発掘調査が進められており、篠崎潔氏の御教示を得た。

引用・参考文献

菅谷浩之ほか（1973）「青柳古墳群発掘調査報告書」埼玉県遺跡調査会報告第19集
水島治平・長谷川勇ほか（1976）『本庄市史』資料編　本庄市史編集室
坂本和俊ほか（1976）「大御堂檜下・女堀遺跡発掘調査報告」埼玉県遺跡調査会報告第28集
宮崎朝雄ほか（1978）「中堀・耕安地・久城前」埼玉県遺跡発掘調査報告書第15集
柿沼幹夫ほか（1978）「東谷・前山2号墳・古川端」埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集
増田逸朗ほか（1980）「甘粕山」埼玉県遺跡発掘調査報告書第30集
増田逸朗ほか（1932）「後張」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第15集
鈴木徳雄ほか（1933）「阿知越遺跡Ⅰ」児玉町文化財調査報告書第3集
昼間孝志ほか（1983）「天神林・高野谷戸」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第22集
細田勝ほか（1984）「向田・権現塚・村後」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第38集
菅谷浩之（1984）「北武蔵における古式古墳の成立」児玉町史編纂委員会
鈴木徳雄ほか（1984）「阿知越遺跡Ⅱ」児玉町文化財調査報告書第4集

Ⅲ　立野南遺跡の調査

1.　遺跡の概観

立野南遺跡は児玉郡上里町嘉美1533—1他に所在する。標高は約75mを測り、神流川扇状地の扇央部に相当する平坦な洪積台地上に立地する。工業団地内の将監塚遺跡からは直線距離にして約700m程北方に位置する。

発掘調査は用地買収の関係で昭和54年度（主体者県文化財保護課）と昭和57年度の二度に亘って実施された。

調査方法としては、約40～70cmの厚さで堆積する表土をローム面まで重機で除去した後、10×4mのグリッドを狭長な調査区に平行して設定するというグリッド方式を採った（全測図には第Ⅸ系の国家座標の数値を示してある）。なお、方位は全て座標北を示す。

調査により検出された遺跡には、竪穴住居跡2軒、井戸跡1基、掘立柱建物跡2棟、土壙2基、溝跡1条があり、いずれもローム層を掘り込んで構築されていた。

遺構は調査区中央附近から北西側にかけて分布し、南西部には認められない。また各遺構の分布傾向は散在的で、遺構相互の重複もない。

2軒の住居跡は調査区中央部で約9m離れて位置し、主軸方位も近似した値を示す。特に2号住居跡はカマドを2基もち、一辺7mを越える大型の住居跡である。出土遺物も豊富で土師器坏・甕、須恵器坏、蓋等、奈良時代初頭頃の良好な資料が検出された。

井戸跡は2号住居跡より北西約30mの位置にあり、出土遺物から2軒の住居跡とほぼ同時期に比定される。

掘立柱建物跡は調査区西側より2棟検出されたが、両者共調査区域外にかかるため正確な規模は不明である。住居跡と同一時期とも考えられるが出土遺物が少ないため即断できない。その他土壙、溝跡がある。いづれも時期不詳である。

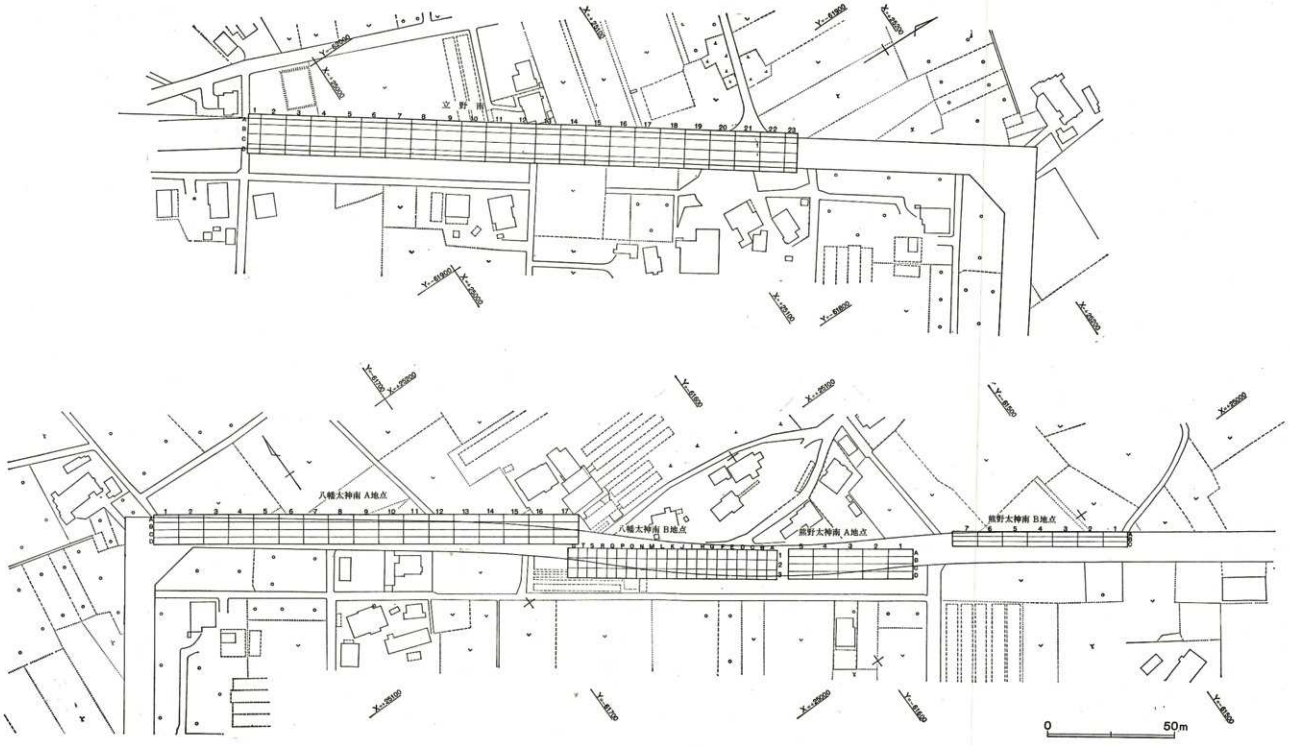
2.　遺構と出土遺物

1号住居跡（第5図）

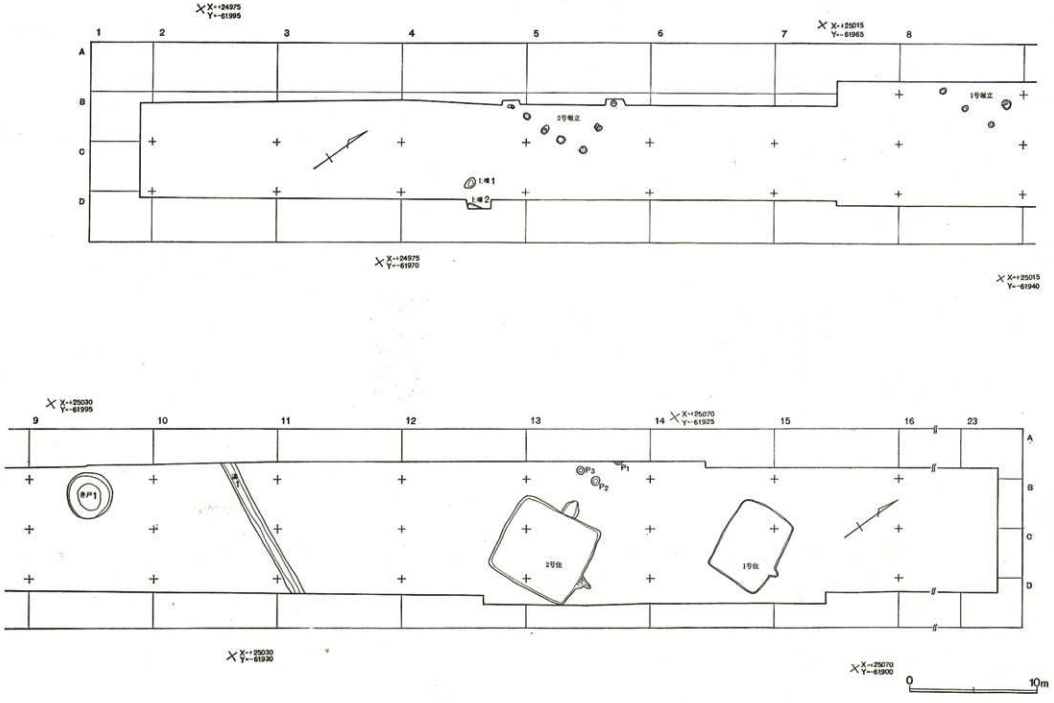
14B、14C区を中心に位置する。6.52×5.05mの規模をもち形態は長方形を呈する。床面の深さは10～15cm程であるが、住居廃棄後に穿たれた深さ50cm弱の皿状の落ち込みにより、その大半は失われていることが土層観察から確認された。主軸方位はN—69°—Eを測る。

カマドは東壁南寄りに設けられ、壁外に約50cm張り出す。形態は半円形を呈し、舟底状の底面をなす。ピットは11個検出されたが、住居に伴う柱穴であるか否かは不明確である。

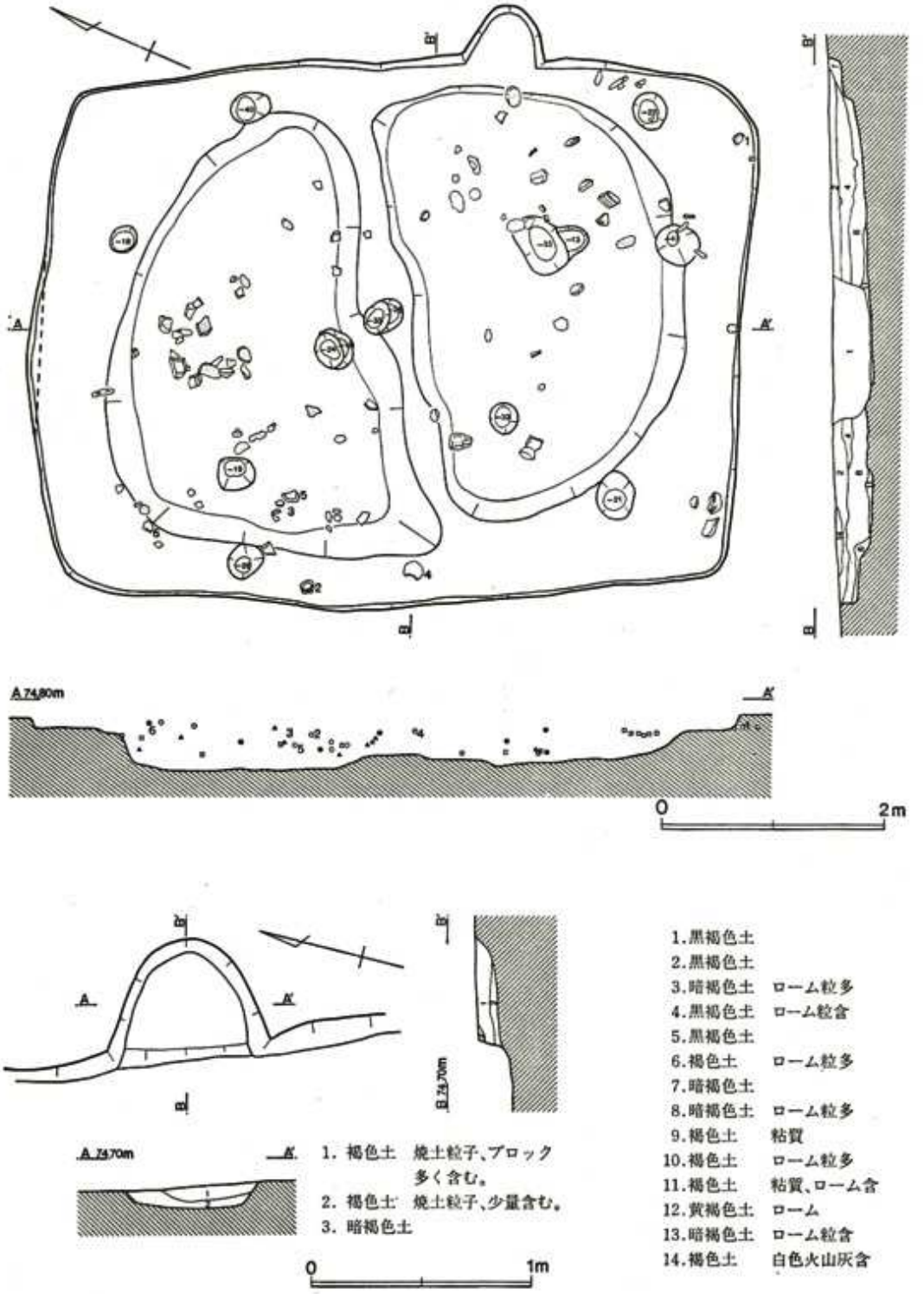
遺物は覆土上位から出土するものが殆どで、土師器坏、皿、高坏（？）須恵器坏等が出土した。



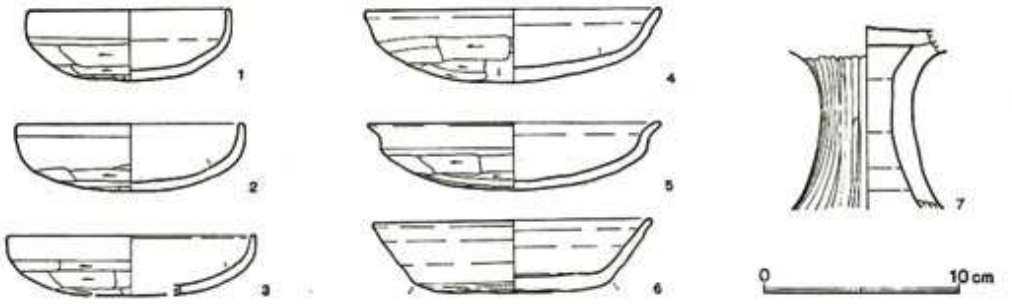
第3図　立野南・八幡太神南・熊野太神南遺跡グリッド配置図



第4図　立野南遺跡全測図



第5図　1号住居跡・カマド



第6図　1号住居跡出土遺物

1号住居跡出土遺物（第6図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	10.5		3.7	BC	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	No.9。3/5。磨滅が著しい。
坏	2	11.8		3.5	BCF	茶褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	No.97。ほぼ完。
坏	3	(12.8)		(3.2)	BCF	茶褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	No.68。1/8。
皿	4	15.4		3.8	BCDF	茶褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	No.98。ほぼ完。
皿	5	15.2		3.5	ABC	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	No.69。1/8。
須恵坏	6	(14.5)	10.4	3.7	DE	灰色 1	口縁～体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り、内面ロクロナデ。	No.91。1/8。ロクロ右回り。
土師高坏	7			(9.6)	ACE	橙褐色 1	脚部外面ロクロナデ後、筆撫き。脚内面上方へラナデ後、全体をロクロナデ。	床面。脚部3/5。器表平滑。ロクロ使用と思われる。

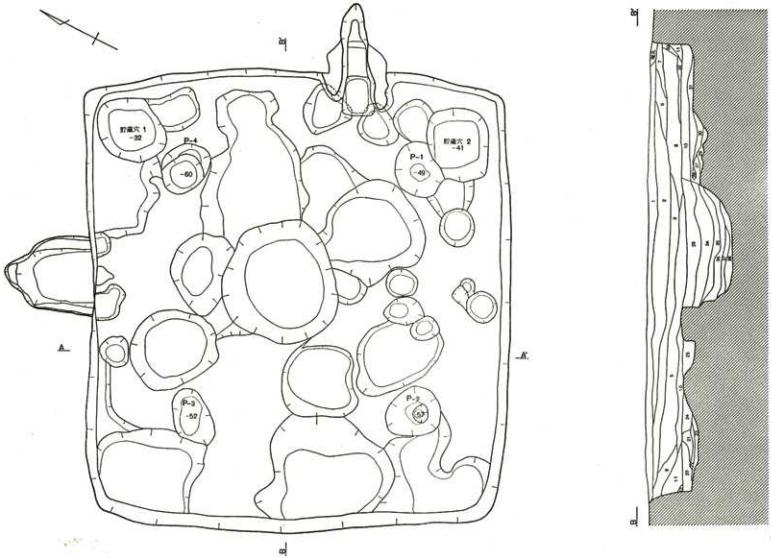
2号住居跡（第7～10図）

13C区を中心に位置する。規模は7.82×7.40m、床面までの深さ約50cmを測る大型の住居跡で、ほぼ正方形の平面プランを呈する。主軸方位はN—64°—Eを示す。

床面の状況はやや軟弱で、ローム、焼土混りの粘質土を貼っている。掘り方は凹凸が激しく、土壙状の落ち込みがみられる。住居中央に存在する土壙は所謂床下土壙とも考えられよう。

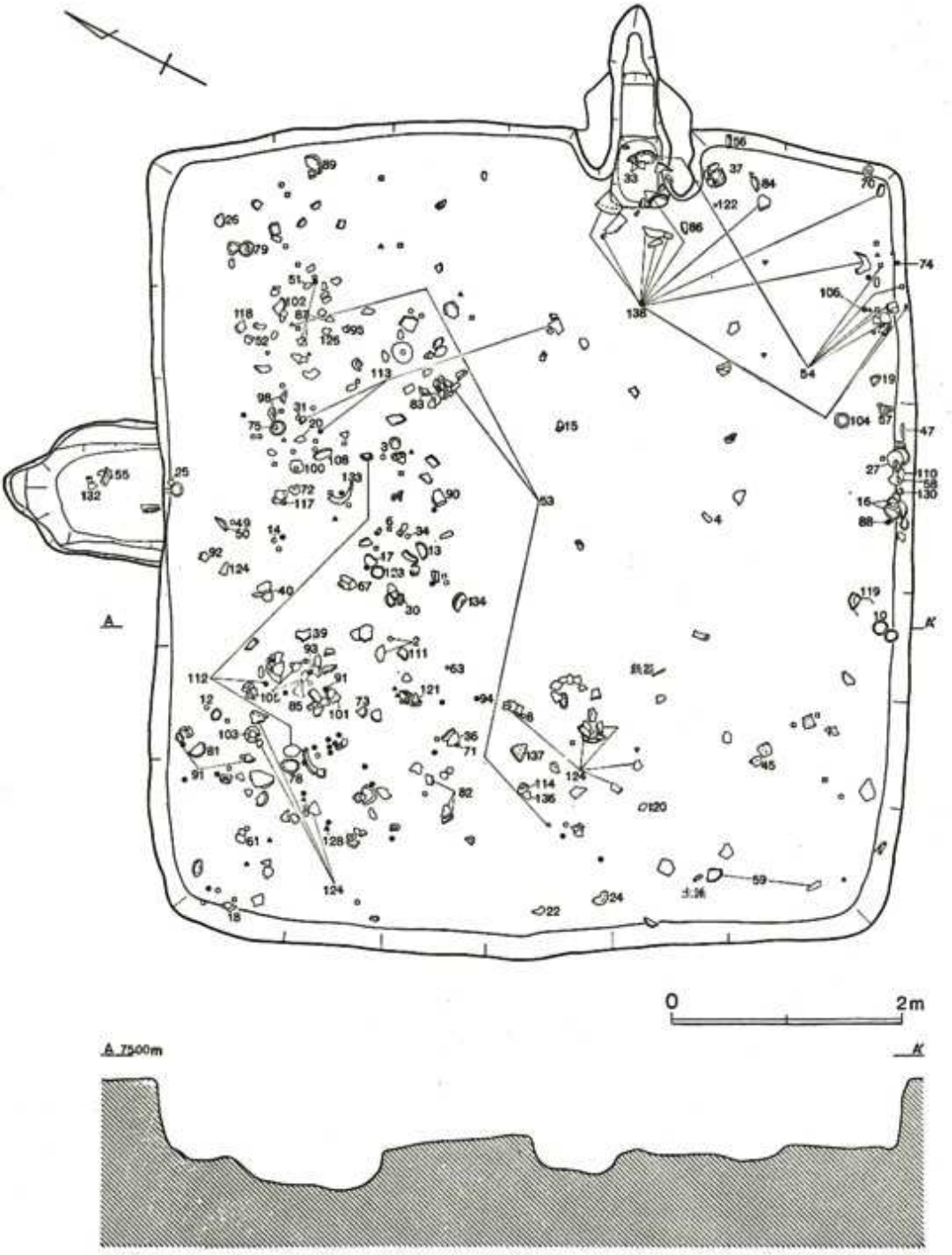
カマドは2基付設されていた。北壁に設けられたカマドは壁内側の施設は残存しないのに対し、東壁のそれは、袖部も残されていた。これは前者→後者というカマドの付け替えによる現象と考えられる。なお、北カマドには石製支脚が残存していた。主柱穴は住居跡対角線上に4本規則的に配置される。貯蔵穴は2基のカマドに対応し、右側コーナー付近にそれぞれ設置されていた。

遺物は覆土上層から床面まで多量に検出され、器種も豊富である。特に土師器坏類や須恵器坏、かえりをもつ蓋等とともに螺旋暗文を施す坏、ロクロ使用の土師器蓋のような類例の少ない土器も出土しており、注目に値しよう。

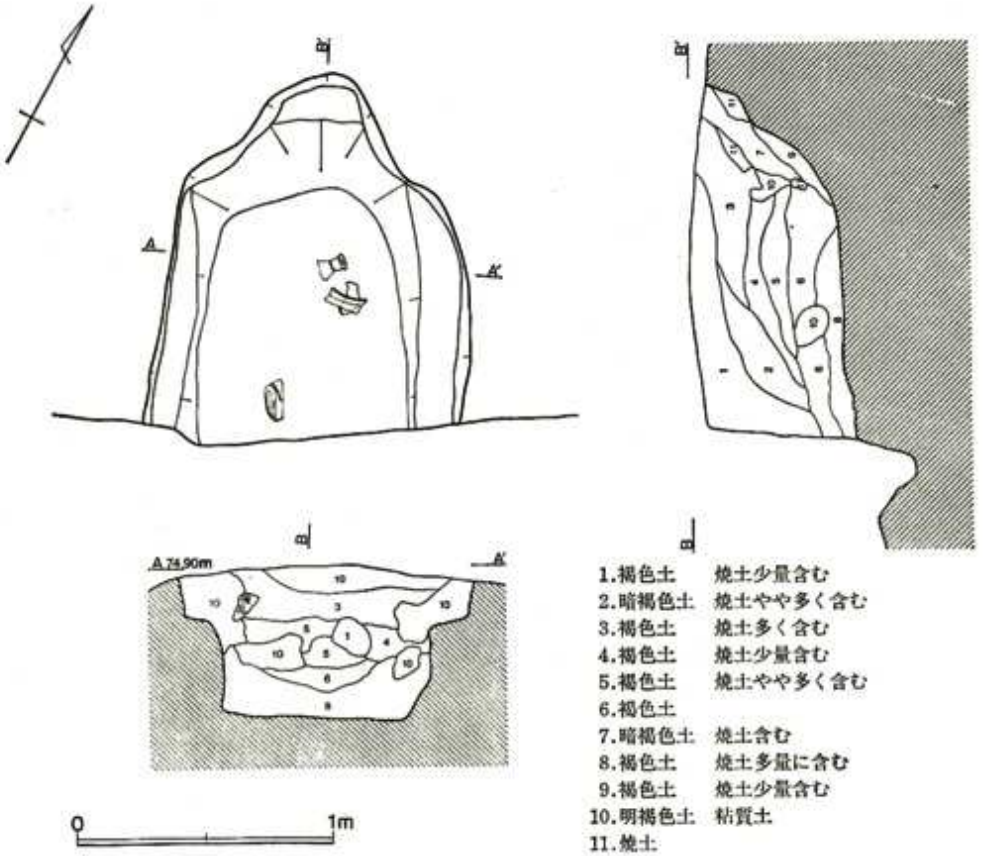


1.黒褐色土、炭化粒、焼土粒多
2. 〃
3.褐色土、ローム粒、焼土粒少量含
4.明褐色土、ローム少量含
5.褐色土
6.暗褐色土、ローム粒、焼土粒少量含
7.褐色土、 〃
8.明褐色土、 〃
9.暗褐色土、焼土多
10.黄褐色土、粘土、ローム、ブロック含
11.暗褐色土、ローム粒、焼土粒含
12.暗褐色土
13.黒褐色土、ローム、焼土粒含
14.黒褐色土
15.暗褐色土、ローム、焼土含
16.黄褐色土、ローム、ブロック主体
17.黄褐色土、
18.黒褐色土、ローム、焼土含
19.暗褐色土、しまり弱い
20.暗褐色土、ローム少量含
21.暗褐色土、ローム、ブロック多
22.暗褐色土、ローム、ブロック少
23.黄褐色土、ローム、ブロック多
24.褐色土、ローム粒多
25.褐色土、ローム、ブロック含
26.暗褐色土、
27.黒褐色土
28.黄褐色土、ローム多
29.黄褐色土、ローム多
30.黒褐色土、ローム少
31.黄褐色土、ローム主体、暗褐色土混在
32.褐色土、ローム粒多
33.暗褐色土
34.暗褐色土、ロームブロック多、焼土少
35.黒褐色土、ロームブロック含
36.暗褐色土、ロームブロック多、焼土粒少
37.黒褐色土、暗褐色土、ローム混在
38.暗褐色土、ロームブロック少

第7図　2号住居跡



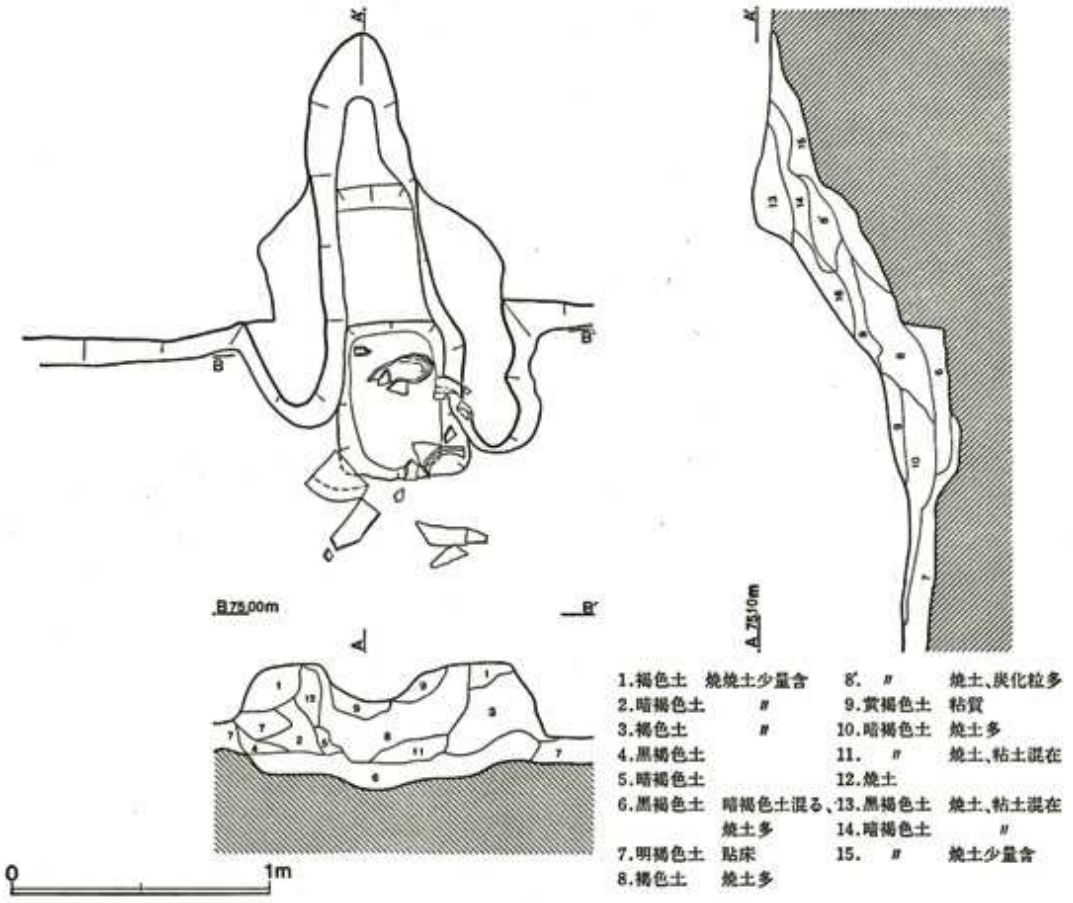
第8図　2号住居跡遺物分布図



第9図　2号住居跡カマド（古）

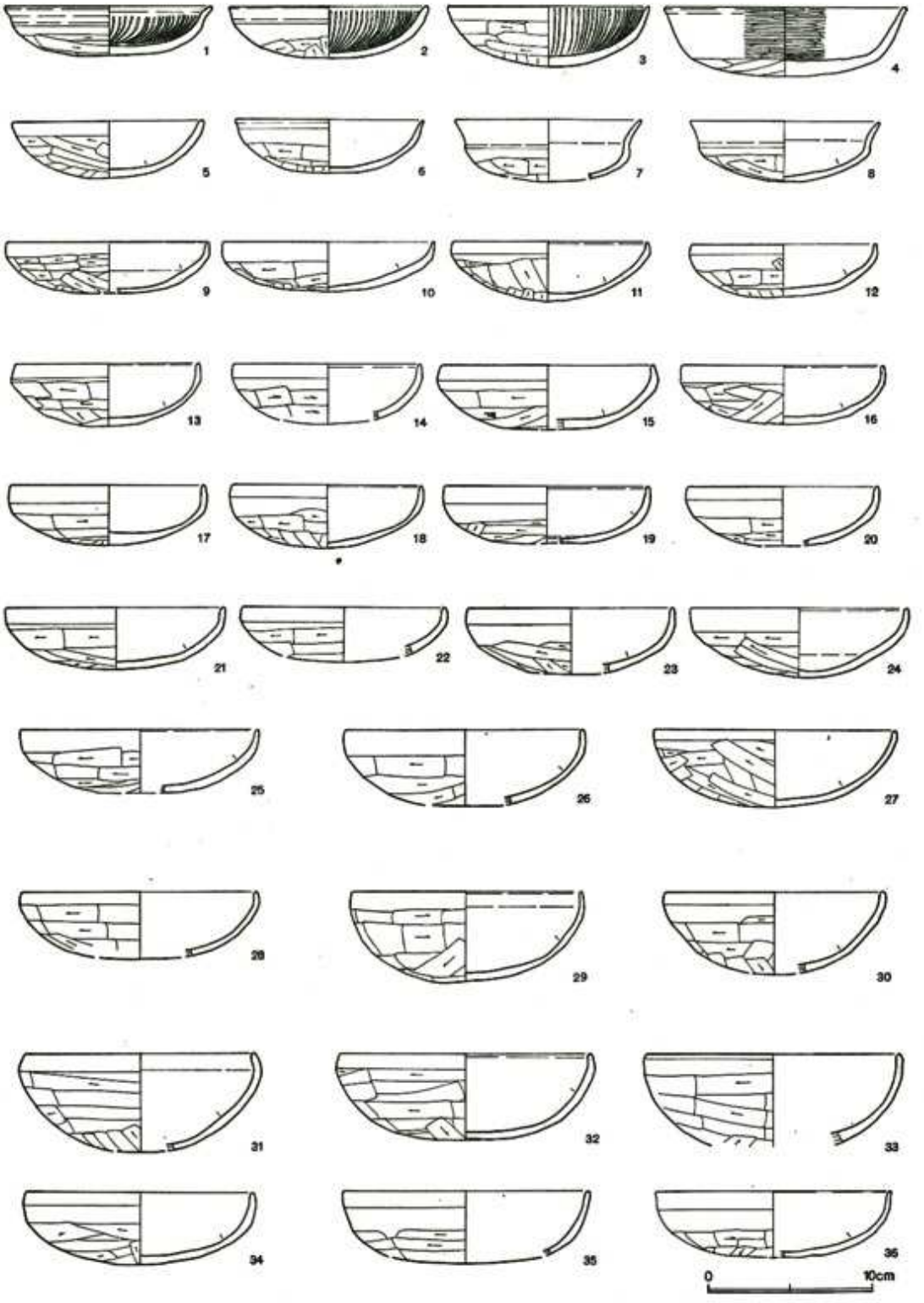
2号住居跡出土遺物（第11～16図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	12.6		3.0	BEF	赤褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筒削り、上位は未調整。体部内面に放射状暗文。	d区覆土。3/4。
坏	2	12.2		3.2	BEF	赤褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筒削り、上位は未調整。体部内面に放射状暗文。	№228、231。ほぼ完。
坏	3	12.4		3.7	BEF	赤褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筒削り。体部内面に放射状暗文。内面に磨滅有り。	№323。3/4。
坏	4	(14.6)	11.5	4.3	ABCDEF	茶褐色 2	体部内外面、底部内面は横方向の筒磨き。器面は平滑。底部内面は筒削り。	貼床下№9。3/5。口縁部1/8。底部内面剝落
坏	5	(11.6)		3.5	ABCDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筒削り。	a区覆土。1/4。
坏	6	11.6		3.3	B(少)3mm大小石(少)AC	褐色 4	口縁部横ナデ。体部外面筒削り。上位は未調整。磨滅が著しい。	№547。1/5。内面を中心に斑点状に剝落有り。
坏	7	(11.4)		(3.8)	F(多)B	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筒削り、上位は未調整。	覆土。1/4。

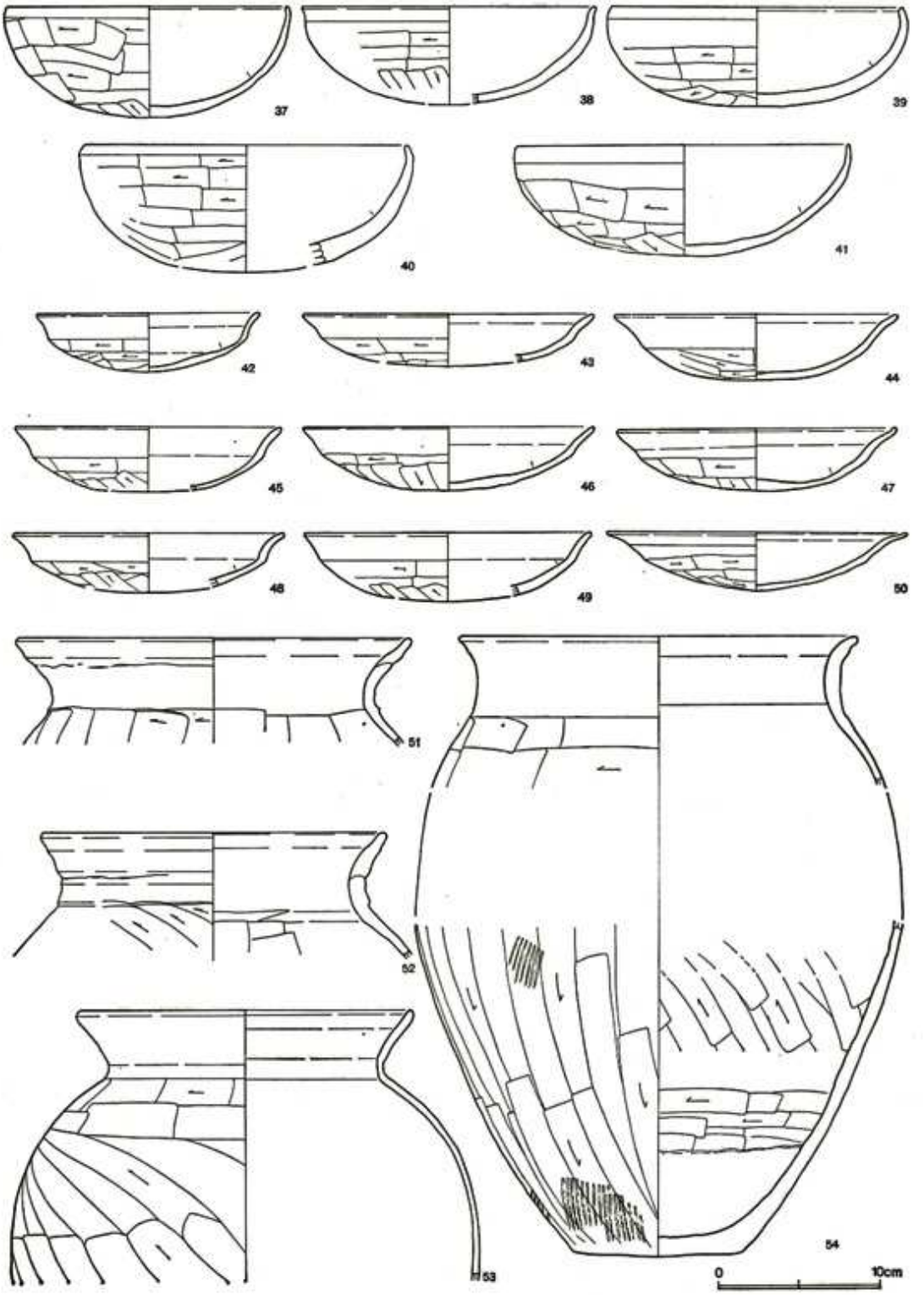


第10図　2号住居跡カマド(新)

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	8	11.7		3.7	A(多)C(少)BF	褐色2	口縁部横ナデ。外面体部上位はナデ又は未調整。下位は箆削り。	No.104。3/5。
坏	9	(12.4)		(3.1)	ABCF	褐色3	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。	覆土。2/5。
坏	10	13.0		3.1	AB(多)CF	褐色2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。	No.629。ほぼ完。
坏	11	12.0		3.7	ABF	褐色2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り、上位は未調整。	覆土。ほぼ完。
坏	12	11.4		3.2	BCF・2～5mm大小石	褐色2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り、上位は未調整。	No.184。ほぼ完。
坏	13	11.3		3.8	B(多)CF	褐色2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り、上位は未調整。	No.340。3/5。
坏	14	(11.5)		(3.7)	BCDE	橙褐色2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り、上位は未調整。	No.303。1/6。
坏	15	(13.0)		(4.0)	B(多)ACDEF	橙褐色2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り、上位は未調整。	No.22。1/5。

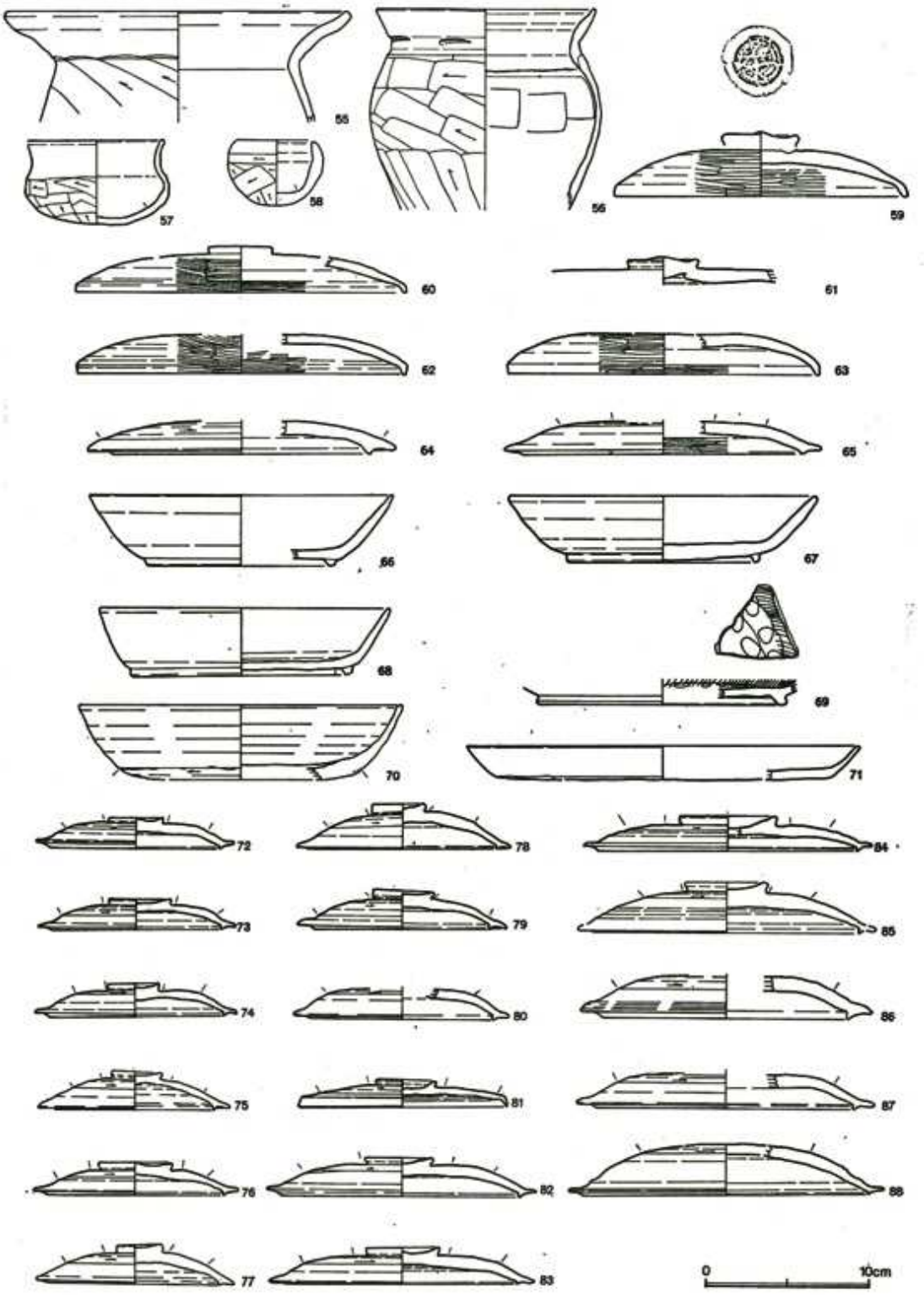


第11図　2号住居跡出土遺物 (1)



第12図　2号住居跡出土遺物 (2)

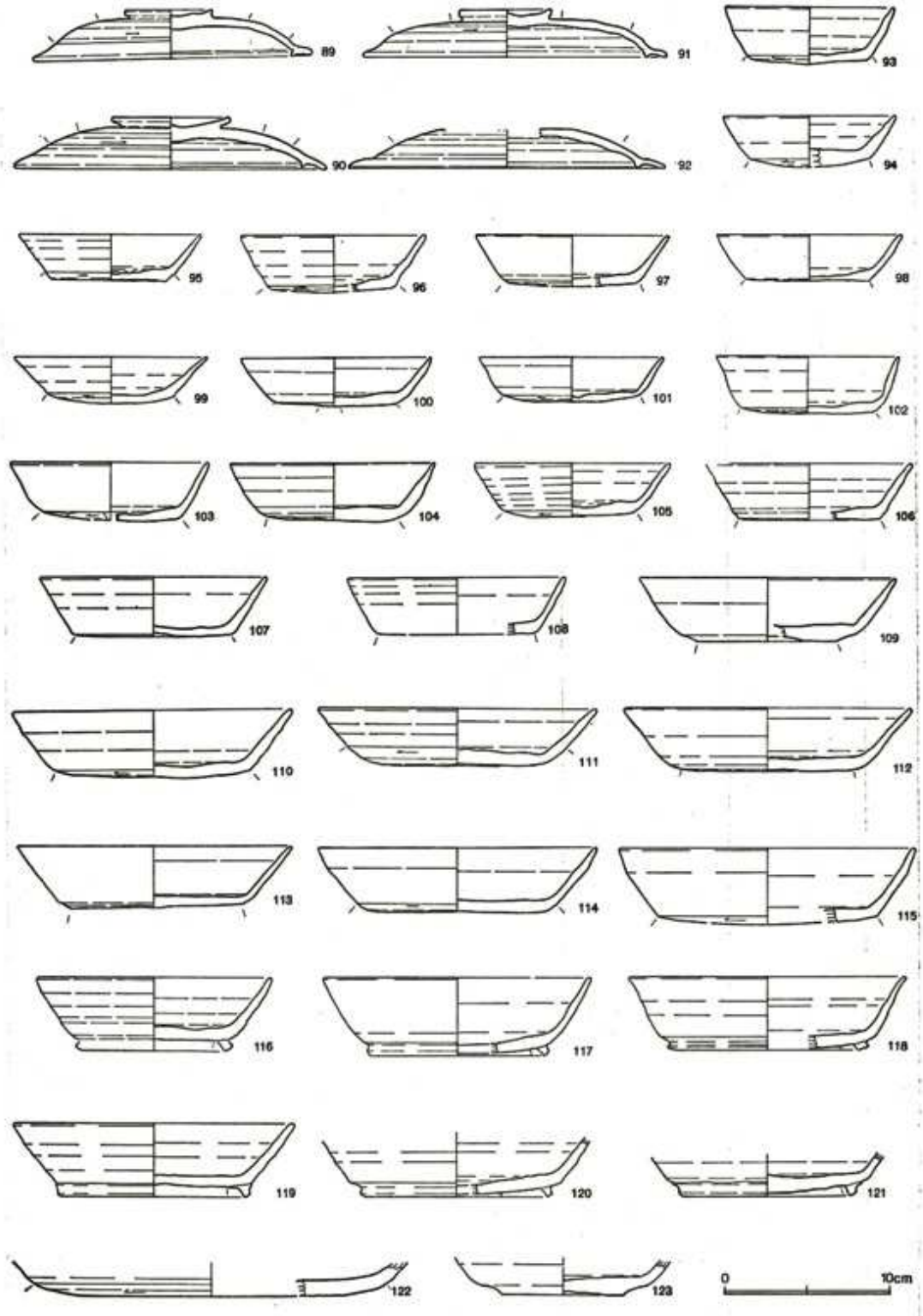
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	16	12.5		3.7	ABCF	褐色 2	口縁部浅い沈線状痕跡を伴う横ナデ。体部外面篦削り。	№485, 486。4/5。
坏	17	(11.9)		3.7	BDE(多)C	橙褐色 4	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。全体に磨滅が著しい。	№550。1/5。
坏	18	11.8		3.9	CBF	褐色 4	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。磨滅が著しい。	№164。ほぼ完。内面全体に斑点状に剥落有り。
坏	19	(12.5)		(3.5)	ABCDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№499。1/5
坏	20	(11.6)		(3.7)	B(多)ACDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。磨滅が著しい。	№394。1/5。
坏	21	(13.4)		3.8	BCDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	貼床下ピットNo.14。1/5。
坏	22	(12.4)		(3.0)	ABCDEF	茶褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№53。1/5。
坏	23	(12.5)		(4.1)	B(多)ACDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	a区覆土。1/4。
坏	24	13.4		4.2	BCEF	褐色 3	口縁部ナデ。体部外面篦削り。磨滅している。	№49。1/5。
坏	25	(14.7)		(4.0)	A(多)BC	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は一部未調整。	№639。1/5。
坏	26	(14.6)		(4.7)	ABCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№433。1/4。
坏	27	15.0		4.8	E(少)BCF	褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は一部未調整。	№491。完形。外面底部の一部橙～灰褐色
坏	28	(14.4)		(4.2)	BCDE	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面磨滅。	d区覆土。1/4。
坏	29	14.2		5.5	BC	褐色 4	口縁部横ナデの後、体部外面篦削り。内外面とも磨滅が著しい。	覆土。ほぼ完。
坏	30	(13.4)		(5.1)	BCDE	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№552。1/5。
坏	31	(14.0)		(6.1)	BCDEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は一部未調整。内面中央は篦ナデか。	№393。1/4。
坏	32	(15.5)		5.3	ABCDE	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、内面平滑。	a区土壙。1/4。
坏	33	(15.5)		(5.6)	ABCDEF	橙褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。内面磨滅。	№90。カマドNo.8。1/5。
坏	34	(14.0)		4.6	ABCDE	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№546。1/5。
坏	35	(15.2)		(4.0)	B(多)ACDE	橙褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。内面は磨滅により不明瞭。	貯穴。1/3。
坏	36	(14.6)		(4.1)	ABCF	褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№156。2/5。
坏	37	17.3		6.9	ABCD	褐色 4	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内外面とも磨滅が著しい。	№1。4/5。
坏	38	(18.0)		(6.1)	ABCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。内面磨滅。	貼床下。1/5。
坏	39	(17.8)		6.2	ABCDE・砂粒	茶褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№202。1/5
坏	40	(20.0)		(7.9)	BCDEF	茶褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№291。1/5
坏	41	20.4		6.8	A(少)BCF	褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整で淡亀裂を多く残す。	覆土。2/3。
皿	42	(13.7)		3.6	CBF	褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。磨滅が著しい。	貯穴。2/3。口縁部1/3。



第13図　2号住居跡出土遺物　(3)

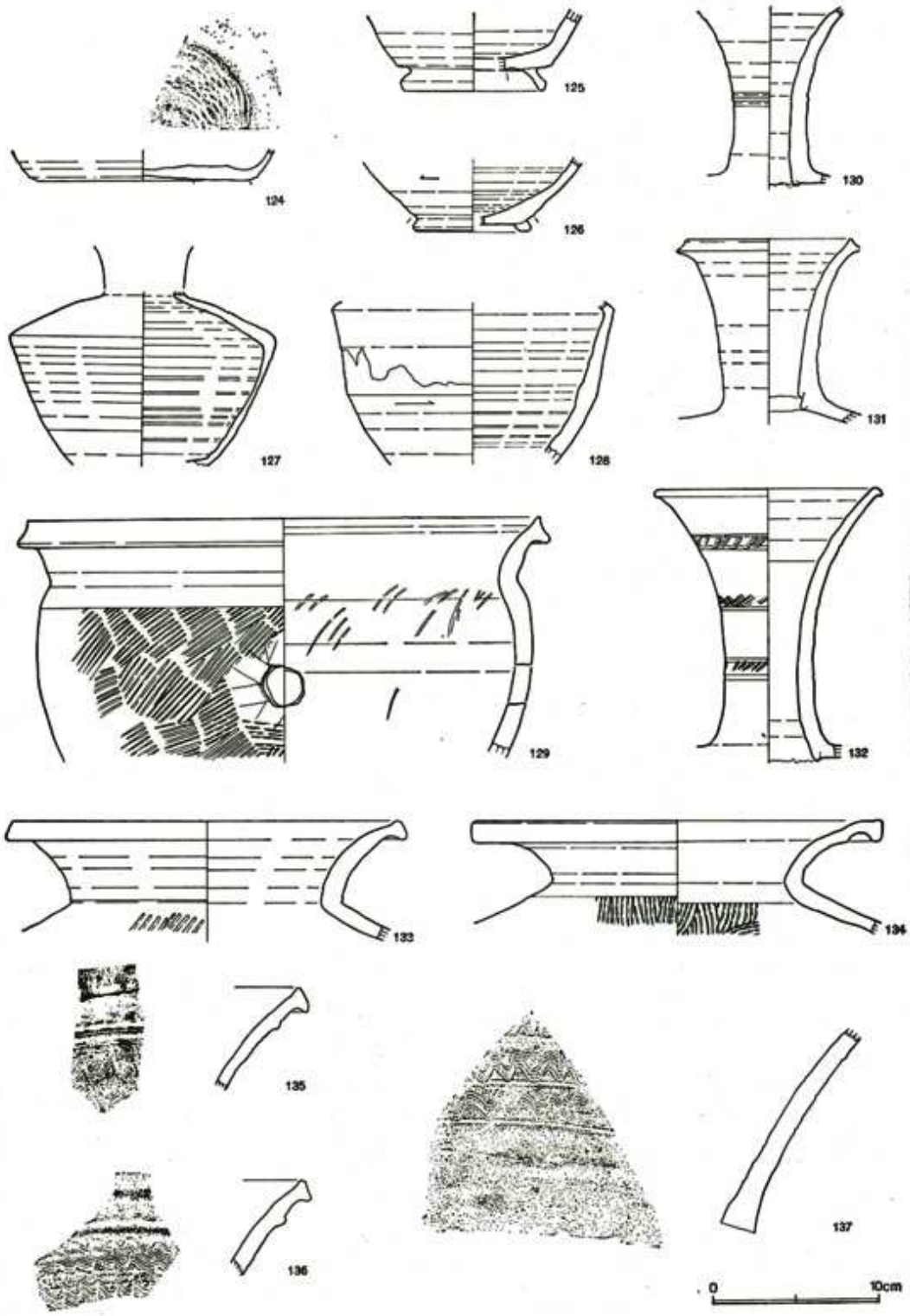
立野南

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師皿	43	(17.6)		(3.3)	BCDE	橙褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面筅削り、内面磨滅。	d区覆土。1/8。
皿	44	(17.2)		4.1	B(多)ACDE	橙褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。内面磨滅。	中央土壙。1/4。口縁部1/8。
皿	45	(16.2)		(4.0)	ABCDE。表面が粉っぽい。	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。内面は磨滅の為、不明瞭。	№564。1/4。
皿	46	18.0		4.0	ABC	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。	覆土。1/2。
皿	47	17.2		3.8	BEF	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。	№496。ほぼ完。内面口縁の一部黒灰色。
皿	48	(16.4)		(3.7)	BCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。	№633。1/4。
皿	49	(17.6)		(4.3)	ABCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。	№637。貯穴。1/3。
皿	50	(18.5)		3.6	C(多)BF	褐色 4	口縁部横ナデ。体部外面筅削り。磨滅が著しく調整痕不明瞭	№637。1/2。外面口唇部にそって一部黒斑有り。
壺	51	24.0		(6.2)	ABCDEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筅削り、内面筅ナデ。	№461。口縁部1/2。
壺	52	(21.0)		(7.8)	ABCDEF	褐色 2	体部外面筅削り、内面筅ナデ。口縁部横ナデ。	№409。口縁部1/3。
壺	53	(20.4)		(16.7)	ABCD	橙褐色 2	体部外面筅削り、内面筅ナデ。口縁部横ナデ。	№57, 357, 422。口縁部1/2。胴上半1/4。
甕	54	(24.4)	10.4	(38.3)	ADEF, 緻密。	淡褐色 1	体部外面一部平行叩き後全面筅削り。内面筅ナデ及ナデ。	№505～7, 510, 516。カマドNo.10。1/4。底部完。
甕	55	(20.9)		(7.0)	ABCDEF	褐色 2	体部外面筅削り、内面筅ナデ。口縁部横ナデ。	西カマドNo.2。口縁部1/8。
小型甕	56	13.4		(13.4)	ABCF	褐色 2	体部外面筅削り、内面筅ナデ。口縁部横ナデ。	№527。北カマド周辺。口縁部2/3。胴1/2。
小型壺	57	8.4		5.2	F(多)CB, 緻密。	褐色 1	体部外面筅削り、内面ナデ。口縁部～体部上半横ナデ。	№497。完形。
手捏ね	58	4.5		4.1	BCD	褐色 1	体部外面筅削り、内面中央部ナデ。口縁部～体部内面横ナデ。	№489。4/5。
蓋	59	17.9		2.9	ABEF	橙褐色 1	天井部外面筅磨き端部に及ぶ。つまみ接合部に筅キズをつけ接着面多くする。	№43, 46。4/5。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
蓋	60	(20.4)		(2.9)	ABCEF	茶褐色 1	天井部外面、内面下位横方向筅磨き、上位はナデ。かえり部ロクロナデ。	d区覆土。3/5。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
蓋	61				ABEF	褐色 1	丁寧なナデ。磨滅により調整痕不明瞭。	№595, 597。1/3。ロクロ使用。硬質。器表平滑。
蓋	62	(20.2)		(2.4)	F(多)ABC	橙褐色 1	天井部～端部は横方向筅磨き又はナデ、内面ナデ。	d区覆土。1/8。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
蓋	63	(19.2)		(2.5)	F(多)ABCD	赤褐色 2	天井部上位外面筅磨き、内面ナデ。中～下位、端部ロクロナデ及筅磨き。	№248。1/5。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
蓋	64	(19.0)		(2.1)	ABDEF	褐色 3	天井部外面軽い回転筅削り内面ロクロナデ後粗い指ナデ。端部ロクロナデ。	覆土。1/4。ロクロ使用。平滑。
蓋	65	(19.6)		(2.0)	F(多)AB	褐色 2	天井部外面回転筅削り内面手持ち筅削り端部ロクロナデ後内面横方向筅磨き。	覆土。1/4。ロクロ使用。硬質・器表平滑。
高台坏	66	(18.6)	(11.6)	(4.4)	ABEF	橙褐色 1	口縁～体部内外面筅磨き。底部周辺高台貼り付けに伴うロクロナデ。	d区覆土。1/3。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
高台坏	67	18.9	12.0	4.1	ABCEF	茶褐色 1	口縁～体部筅磨き。底部外面回転筅削り後ナデ、高台に伴うロクロナデ。	№334。2/3。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
高台坏	68	17.8	4.2	13.3	ABCEF	茶褐色 1	底部内面粗い筅削り、外面回転筅削り後ナデ。口縁～体部内面筅磨き。	覆土。1/3。ロクロ使用。硬質、磨滅著しい。
高台坏	69		(14.7)	(1.3)	AC	橙褐色 1	底部内面に螺旋・放射状暗文を施す。ロクロナデ。	d区覆土。底部1/8。ロクロ使用。硬質、器表平滑。



第14図　2号住居跡出土遺物 (4)

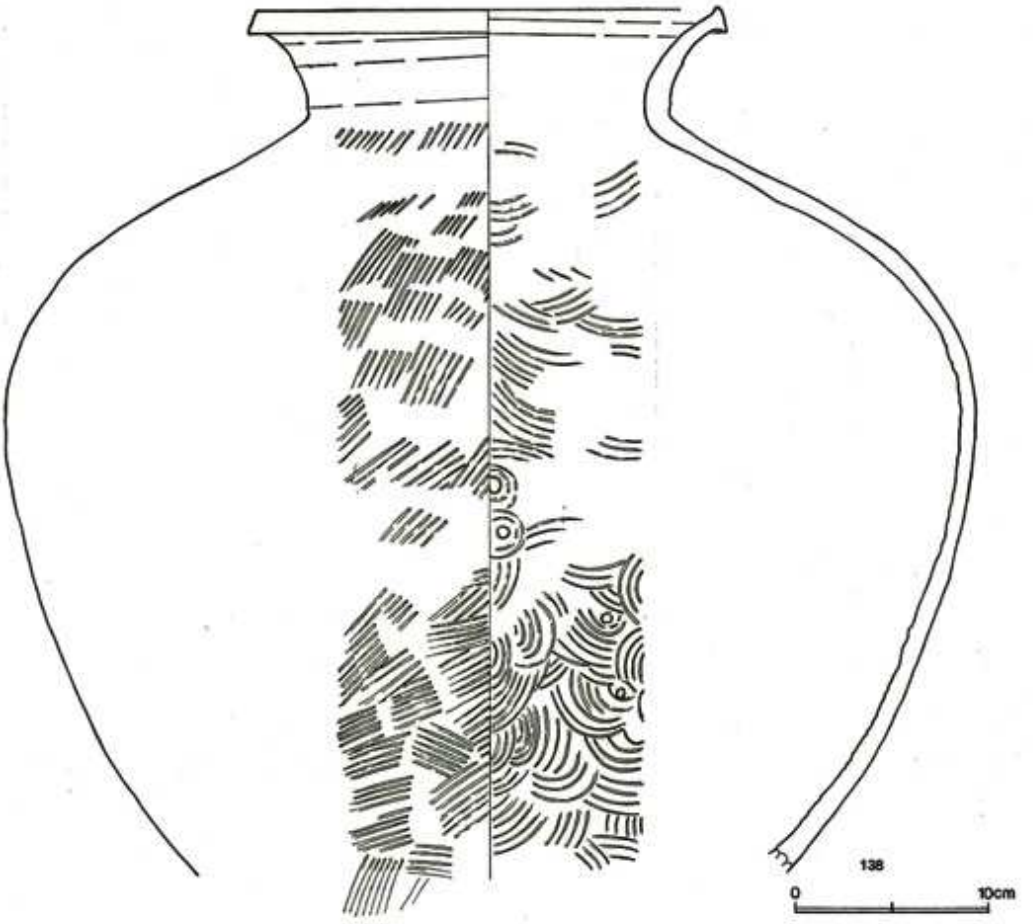
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	70	(20.0)	(14.8)	(4.3)	ABEF	橙褐色 1	口縁～体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り。(粘土が体部下端にはみ出す。)	№521。1/3。ロクロ使用。硬質、器表平滑。
盤	71	(24.2)	(19.9)	(2.1)	ABCF	褐色 2	口縁部横ナデ。内面ナデ。底部外面篦削り。	№158。1/2。硬質。磨滅が著しい。
須恵蓋	72	(12.4)		1.9	C・3～7mm大の片岩粒。B	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№305。1/4。器肉中央部のみ赤褐色。
蓋	73	12.2		1.9	D(多)AB	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	№219。1/2。内面に自然釉(光沢なし)付着。
蓋	74	12.5		2.1	ADE	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№512。ほぼ完。器肉中央のみ淡褐色。
蓋	75	11.5		2.4	B(少)・2mm大小石。堅緻。	灰白色 1	ロクロナデ後内面に不規則なナデ。天井部回転篦削り。接地面はかえり部。	№538。完形。かえり部貼付け成形。
蓋	76	(12.7)		2.1	F(少)AE	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。天井部内面上位に重ね焼き痕有り。	覆土。1/4。
蓋	77	12.3		2.4	AC・黒色粒子	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。接地面はかえり部。	a区d区覆土。a区貼床下。1/2。
蓋	78	13.3		2.8	B(少)E黒色粒子	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り、内面上位ナデ。接地面はかえり部。	№590。ほぼ完。
蓋	79	13.0		2.4	E(多)AD	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	№624。貯穴1。完存。
蓋	80	(13.0)		(1.9)	DE(多)。やや粗。	灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	貯穴。1/4。
蓋	81	12.9		1.7	E(多)AD	灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№179。1/3。
蓋	82	(16.6)		2.4	ACD	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	№134, 135, 144。3/5。口縁部2/3。
蓋	83	(16.4)		2.2	ACD	灰白色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り、上位内面はナデ。接地面はかえり部。	№355。1/3。
蓋	84	17.8		2.2	ACD	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面弱い回転篦削り。ロクロ右回り。	№523。1/3。
蓋	85	(18.6)		(3.1)	DE・砂粒	灰白色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。ロクロ右回り。口唇部欠失。	№214。1/2。
蓋	86	(18.0)		(2.6)	DE(多)・砂粒	灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	№2。1/3。
蓋	87	18.0		(2.1)	BDE	灰白色 3	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	№372, 419, 463, 420。口縁部。3/5。
蓋	88	(19.5)		(3.2)	ACDE	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№484。1/3。
蓋	89	17.1		3.0	ABC	灰白色 3	ロクロナデ。天井部回転篦削り。歪みがあり。	№543。完存。
蓋	90	(19.1)		3.2	ABCDE・片岩粒	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面弱い回転篦削り。	№545。1/3。
蓋	91	18.6		2.9	ACD	灰色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。かえり部と口縁部がほぼ同じ高さ。	№604, 606, 607。3/4。
蓋	92	(19.4)		(2.4)	ABDEF	淡褐色 4	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。接地面は口縁部。磨滅が著しい。	№292。1/3。
坏	93	(10.1)	7.0	3.5	DE	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№609。2/3。
坏	94	(10.5)	(7.2)	(3.1)	DE・黒色粒子砂粒	灰色 2	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。外面に自然釉、窯壁付着。	№245。1/2。
坏	95	(11.0)	6.9	2.8	CE	灰色 1	体部ロクロナデ。体部外面下端及び底部回転篦削り。ロクロ右回り。	№369。1/2。
坏	96	(11.2)	(7.4)	(3.4)	DE・砂粒	灰色 2	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。	A区C区覆土。2/3。



第15図　2号住居跡出土遺物 (5)

立野南

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵坏	97	(11.6)	(7.8)	(3.1)	D（多）E。やや粗い。	灰色 2	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。外面自然釉、窯壁付着。調整痕不明瞭。	a区覆土。1/3。
坏	98	11.4	7.6	2.9	BCE	黒灰色 1	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№388, 390。4/5。
坏	99	11.8	7.8	2.9	黒色粒子・2mm大小石（多）E	灰褐色 1	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り、内面ナデ。	D区覆土。4/5。
坏	100	11.6	7.4	3.0	E（多）ACD	黒灰色 1	ロクロナデ。底部内面ナデ、外面中央回転篦削り、周辺粗い手持ち篦削り。	№540。完存。外底部中央に削り残し有り。
坏	101	(11.2)	2.7	8.3	CDE	灰白色 1	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り、内面ナデ。ロクロ右回り。	№217。2/3。
坏	102	9.2	8.1	3.5	CDEF	灰褐色 3	体部、底部内面ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№544。2/3。
坏	103	12.1	8.3	3.6	E	灰白色 1	体部～底部内面ロクロナデ。底部外面手持ち篦削り。ロクロ右回り。	№186。4/5。
坏	104	(12.6)	7.9	2.7	CDE	灰色 1	体部～底部内面ロクロナデ。底部外面手持ち篦削り。	№500。2/3。器肉は橙褐色。
坏	105	(12.0)	6.3	3.0	CDEF	灰色 1	体部～底部内面ロクロナデ。底部外面回転篦削り。	№201, 204。2/3。
坏	106	(12.4)	(8.6)	(3.5)	DE	灰色 1	体部ロクロナデ。底部回転篦削り。外面に自然釉付着。	№503。b区貼床下。1/4
坏	107	(13.7)	(9.5)	(3.6)	DE	青灰色 1	体部～底部内面ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	カマド付近。2/3。
坏	108	(13.2)	(9.6)	(3.5)	DE，精選。	灰色 2	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り。	№401。1/4。
坏	109	(17.6)	(8.5)	(3.9)	ACDE	灰褐色 1	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り、中央に棒状工具によるナデ痕残す。	覆土。1/2。ロクロ右回り。底部内面指ナデ。
坏	110	17.0	10.2	4.2	CE	灰白色 1	体部ロクロナデ。体部外面下端及び底部回転篦削り。ロクロ右回り。	№493。4/5。
坏	111	(16.8)	(9.6)	3.5	D（多）E・砂粒	灰白色 2	体部外面下半～底部回転篦削りを施す。底部中央、体部下端ロクロナデ。	№230。2/3。
坏	112	(17.4)	10.5	3.9	AD・2mm大小石	灰白色 2	体部ロクロナデ。底部内面ナデ、外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№194, 317, 589。2/3。
坏	113	16.8	(10.5)	3.9	CE	灰色 1	体部ロクロナデ。底部内面ナデ、外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№31, 393, 397。2/3。
坏	114	(17.0)	(11.2)	3.9	ABC	灰褐色 1	体部ロクロナデ。体部外面下端、底部外面回転篦削り。底部内面ナデ。	№109。1/3。ロクロ右回り。底部中央粘土付着痕。
坏	115	(18.0)	(13.4)	(4.6)	DE。砂粒多くやや粗い。	灰色 2	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	覆土。1/3。
坏	116	(14.2)		(3.9)	E(多)D・白色粒子・黒色粒子	灰色 1	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り。ロクロ右回り。	№476。口縁1/3。底部1/3。高台欠損。堅緻。
高台坏	117	(16.2)	(10.6)	(4.8)	DE・砂粒	灰色 2	底部内面、口～体部ロクロナデ。底外面回転篦削り、高台貼付部ロクロナデ。	№541。口縁部1/9。底部1/3
高台坏	118	(16.8)	(11.0)	(4.5)	D（多）E・砂粒	灰白色 2	底部内面、口～体部ロクロナデ。底外面回転篦削り、高台貼付部ロクロナデ。	№410。1/4。
高台坏	119	(17.0)	11.3	4.5	DE（多）・砂粒	灰色 2	底部内面、口～体部ロクロナデ。底外面回転篦削り、高台貼付部ロクロナデ。	№480。1/4。
高台坏	120		11.2	(3.6)	DE・砂粒。	暗青灰色 2	底内面、体部ロクロナデ。底外面回転篦削り後外周、高台貼付部ロクロナデ。	№70。底部2/3。
高台坏	121		10.3	(2.7)	DE。比較的細かい。	灰色 2	底部内面、体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り後、高台に伴うロクロナデ。	№577。底部1/3。底部外面に窯壁付着。
土師盤	122		(20.0)	(2.1)	ABEF	橙褐色 1	底部外面、体部下端回転篦削り。体部内外面ロクロナデ。底部内面ナデ。	№525。1/3。硬質。ロクロ使用。
須恵杯	123		7.5	(2.3)	DE(多)。砂粒を含み粗い。	灰色 1	底部外面無調整で円盤状に突出、内面ナデ。体部内外面ロクロナデ。	№332。底部完。底部周辺をナデつけて接合か。



第16図　2号住居跡出土遺物 (6)

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵杯	124		(13.0)	1.9	DE・細砂粒	青灰色	ロクロナデ。底部内面青海波文叩き目。外面周辺回転篦削り、中央調整不明瞭。	覆土。底部。1/8。
瓶	125		(8.2)	(5.0)	DE・細砂粒多し。	暗青灰色2	体部ロクロナデ。底部外面回転篦削り後、高台に伴うロクロナデ。	d区覆土。底部1/8。体部下端の稜は鋭い。
瓶	126		(6.6)	(4.5)	E，緻密。	灰色	底部〜体部内ロクロナデ。体部下端回転篦削り。高台に伴うロクロナデ。	№371。底部1/8。
瓶	127	(16.2)		(10.6)	E，緻密。	灰色1	肩部外面、体部外面下位回転篦削り。体部内外面、肩部内面ロクロナデ。	№284。胴部2/8。肩部外面に自然釉付着。
瓶	128			(9.9)	E，緻密。	灰色1	体部外面下半回転篦削り。体部外面上半、体部内面ロクロナデ。	a区覆土。胴部1/8。外面肩部〜体部上半に自然釉。
鉢	129	31.1		14.6	DF	乳白色1	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き外面にあて具痕有り。	№188，291他。口縁部1/4。胴部1/8。
長頸瓶	130			(10.8)	DE(多)・砂粒	黒灰色1	頸部内外面ロクロナデ。外面中央部に	西カマドNo.1。頸部完。口縁部欠失。
長頸瓶	131	10.0		(11.1)	DE	暗青灰色1	口縁部、頸部、肩部ともロクロナデ。	№487。口縁部定。頸部内面下端に接合跡を残す。

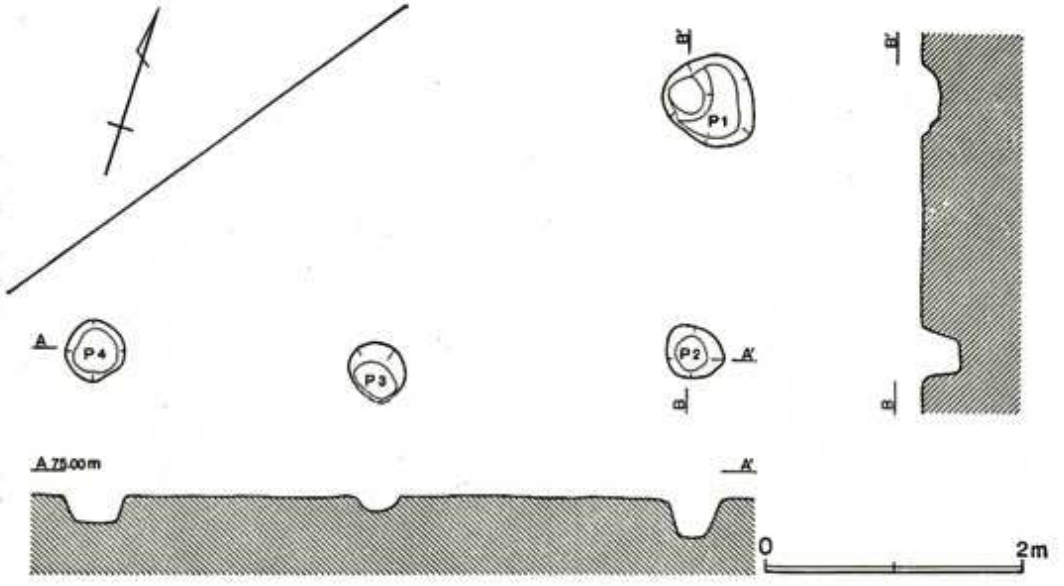
立野南

器種	番号	大きさ(cm)			胎土	色調	手法の特徴	出土位置・残存率
		口径	底径	器高		焼成		
須恵長頸瓶	132	13.2		(16.6)	DE(多)・砂粒	黒灰色 2	外面沈線により区画後、櫛描押引文・波状文・烈点文を施す。	覆土。口縁～頸部3/8。
大型甕	133	(23.4)		(7.2)	DEF	淡褐色 2	口縁部内外面ロクロナデ。胴部外面平行叩き目、内面叩き後指頭押圧、ナデ。	№308。口縁部3/8。
大型甕	134	(24.8)		(6.8)	DE	灰色 2	口縁部内外面ロクロナデ。胴部内外面に叩き目を残す。	№557。口縁部1/8。
大型甕	135				DE	灰色 1	口縁部ロクロナデ後、外面に2段乃至それ以上の櫛描波状文を施す。	C区覆土。口縁部破片。突帯を1段めぐらす。
大型甕	136				DE	黒灰色 2	口縁部ロクロナデ後、外面沈線区画後2段乃至それ以上の櫛描波状文を施す。	№110。口縁部破片。突帯を1段めぐらす。
大型甕	137				DE	黒灰色 2	頸部ロクロナデ後、外面沈線区画後、3段の櫛描波状文を施す。	№106。頸部破片。
大型甕	138	24.2		(43.0)	ABCD	灰褐色 3	口縁部ロクロナデ。体部外面平行叩き目、内面同心円状叩き目。器肉橙褐色。	№501～2，カマドNo.1～4、6、7，貯火他。口縁2/3。胴部1/2。

1号掘立柱建物跡（第17図）

8A、8B区に位置する。調査区域外にかかるため南北1間、東西2間分確認されたのみで、正確な規模は明らかにし得ない。柱穴規模はP1が直径70cmとやや大きい他は径40cm前後の円形を呈し深さは10～20cmを測り非常に浅い。P2とP4を結ぶ東西軸方位はN—62°—Eを示す。

P1、P2間の柱間寸法はおよそ210cm、P2、P3間は240cm、P3、P4間のそれは230cmを測る。出土遺物はない。



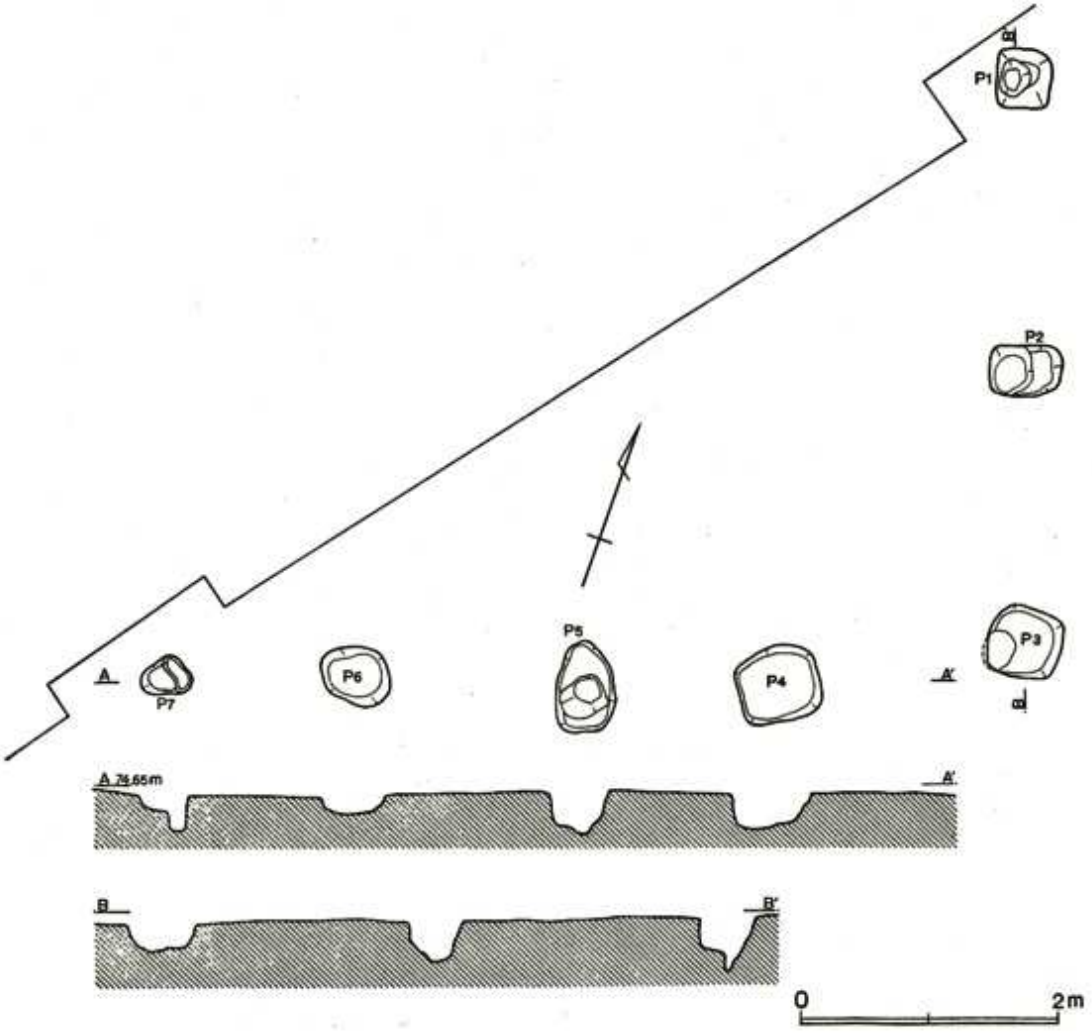
第17図　1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡（第18図）

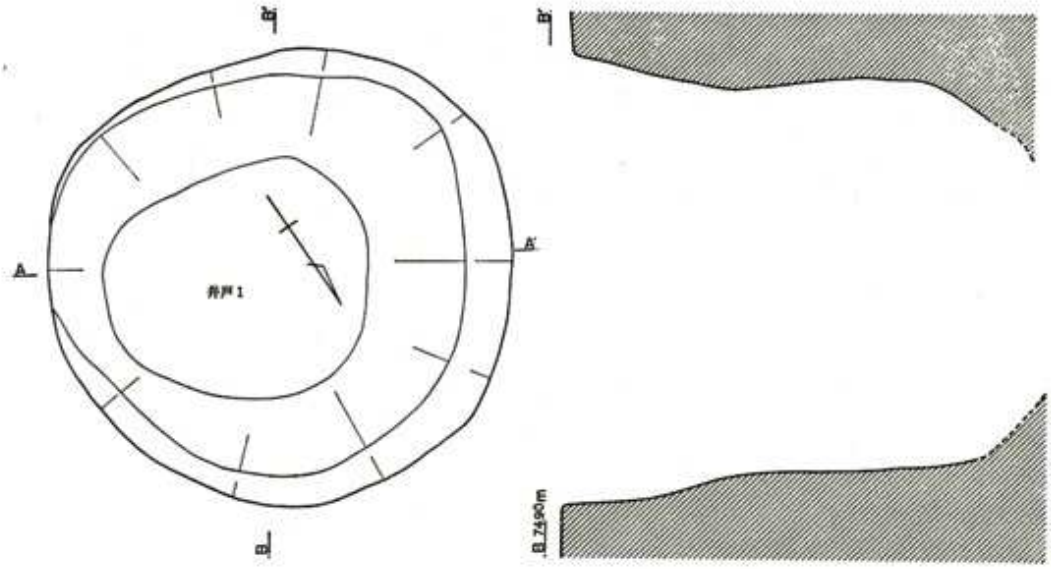
4B、5B区に位置する。1号掘立柱建物跡と同様に区域外にかかるため全体の規模は不明であるが、南北2間、東西4間に相当する部分が検出された。各柱穴の規模をみると、非常に小規模なP7を除くと径40～70cm前後、深さ10～40cmを測る。形態はP1～P4が隅丸方形を呈するが他は不定形をなす。柱穴の並び方は、南北列と東西列は直交するもののP4～P7の延長線上からP3がずれている。P1～P4を結ぶラインを主軸とすればN—70°—Eを示す。

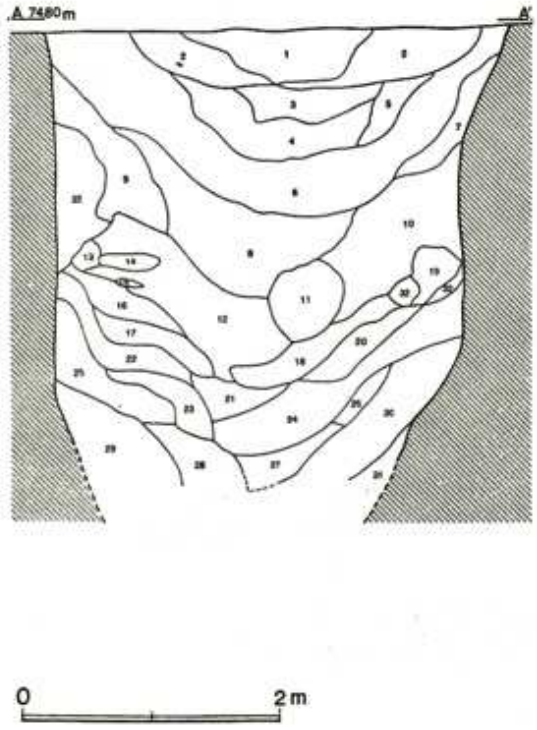
南北列の柱間寸法は220～230cm、東西列は140～180cmを測り、後者の方が狭いといえる。

出土遺物はP1、P2より土師器細片が検出されたが、時期は明確でない。



第18図　2号掘立柱建物跡





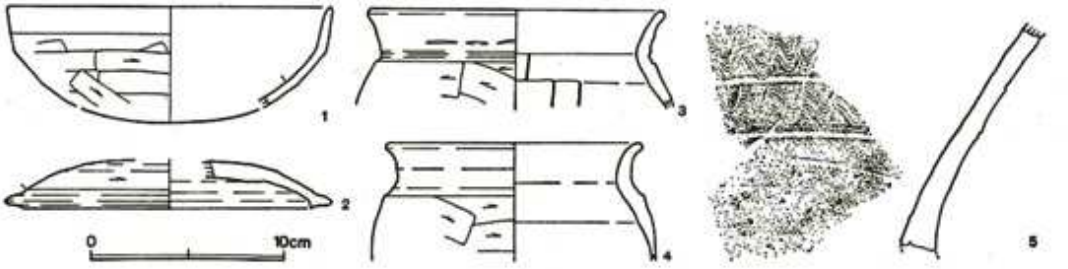
1.黒褐色土　少量の礫含む
2.暗茶褐色土　ローム(多)、径1～2cmの礫含
3.黒褐色土　径2cm大の礫含
4.黒褐色土　3層よりも大粒の礫含む(多)
5.暗褐色土　礫多量に含む
6.暗褐色土　礫少量含む
7.黒褐色土　ローム混在
8.暗褐色土　ローム粒(多)、下部に礫多く含む
9.暗褐色土　礫多量に含む
10.茶褐色土　ローム主体、粘性強い
11.礫層　径10cm程の礫に黒色土、ロームブロック混在
12.礫層　径2cm大の礫に黒色土、ロームブロック混在
13.黒褐色土　ロームブロック混在
14.黒褐色土　ロームブロック(少)
15.黒褐色土　ロームブロック、礫少量含む
16.茶褐色土　ローム主体、礫、黒色土含む(少)
17.黒褐色土　ロームブロック混在
18.黒褐色土　17層類似
19.黒褐色土　14層類似
20.暗褐色土　礫殆ど含まない
21.暗褐色土　径2～3cm大の礫(多)
22.茶褐色土　ローム主体、少量の黒色土含
23.暗茶褐色土　ローム、礫混在
24.砂礫層　礫と砂主体、ローム、黒色土混在
25.黒褐色土　ローム、礫含む(少)
26.黒褐色土　少量の礫含む
27.黒褐色土　ローム、小礫混在
28.砂礫層　小礫、砂、ローム混在
29.礫層
30.礫層　ロームブロック混在
31.礫層
32.黄褐色土　ロームブロック主体

第19図　1号井戸跡

1号井戸跡（第19図）

9Ｂ区に位置する。東西径、3.76m、南北径3.58mの円形プランを呈し、深さ3.5mを越える。掘り込みは垂直に近く、ローム層下に堆積する砂礫層が崩落し壁が抉られる部分がある。

出土遺物には土師器、須恵器があるが、量的には少ない。須恵器甕（第20図―５）は２号住居跡出土遺物（第15図―137）と酷似し、同一個体の可能性が高い。出土土器は全て真間期のもので、１、２号住居跡とほぼ同時期に機能していたと考えられる。



第20図　１号井戸跡出土遺物

1号井戸跡出土遺物（第20図）

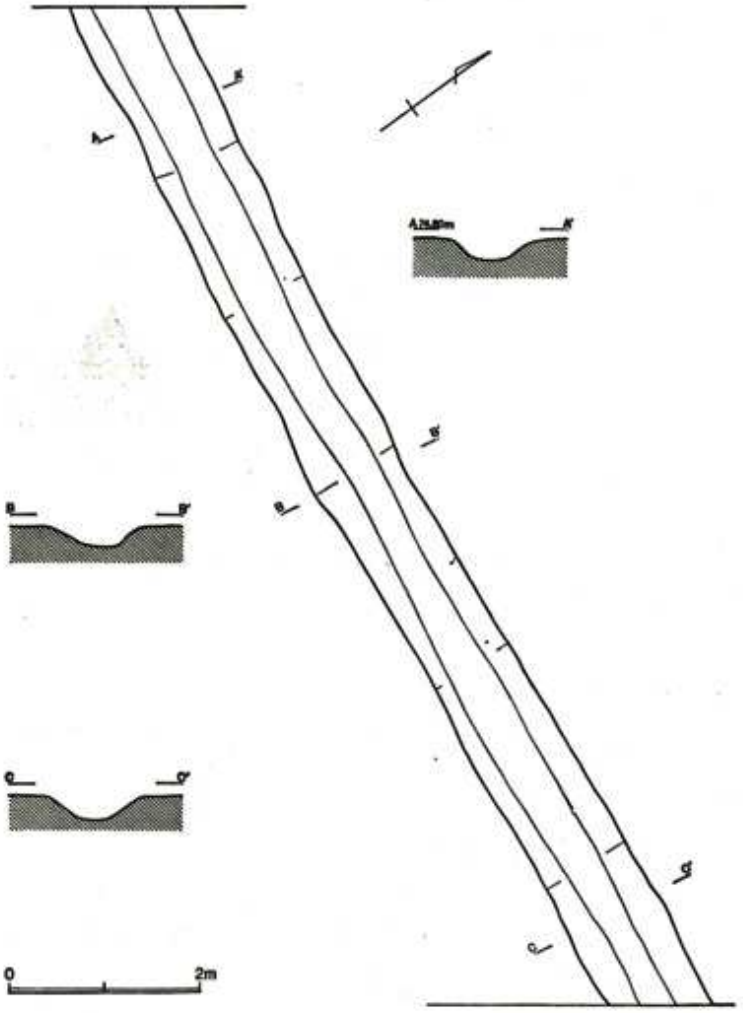
器種	番号	大きさ（cm）			胎土	色調	手法の特徴	出土位置・残存率
		口径	底径	器高		焼成		
土師坏	1	(16.8)		(5.2)	ＡＢＤＥＦ	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	覆土。1/6。
須恵蓋	2	(17.1)		(2.5)	Ｅ（多）Ｄ・砂粒	褐色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。全体に稜は弱い。	覆土。1/4。内面青灰色。ロクロ右回り。
小型甕	3	(15.2)		(5.1)	ＡＢＤＥＦ	褐色 1	口縁部外面下端に先端の丸い木口状工具による強いナデを施す。	覆土。口縁部1/9。
小型甕	4	(13.0)		(6.2)	ＡＤ，緻密。	茶褐色 1	口縁部外面は木口状工具による横ナデ状を呈す。胴部外面篦削り、内面ナデ。	覆土。口縁部1/6。器面平滑。
須恵大型甕	5				ＤＥ。砂粒多し。	暗青灰色 2	外面沈線により区画後、櫛描波状文を施す。（残存部で２段。推定３段。）	覆土。頸部1/6。

1号溝跡（第21図）

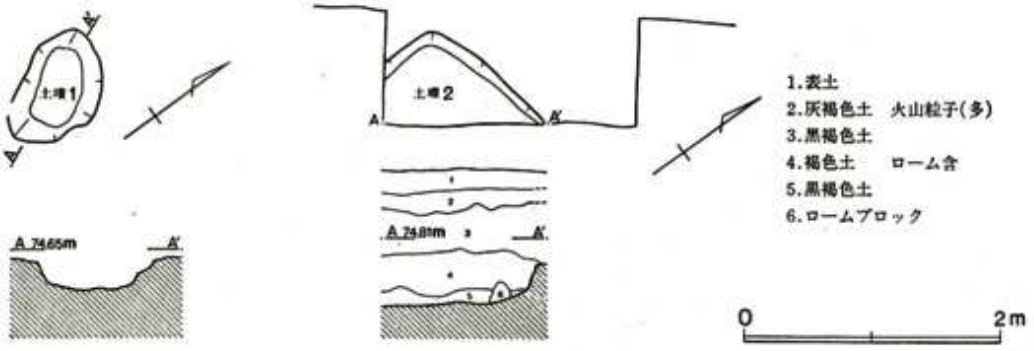
10区から11区にかけて位置し、調査区を横断してほぼ東西方向に直線的に延びる。幅0.9m～1m前後、深さ25～30cmを測り、平坦な底面から緩やかに立ちあがる。

覆土は黒褐色を呈し、火山砂粒（浅間Ａ？）を多く含む。

出土遺物は全くないため時期は不詳であるが、近世以降の可能性が高いと考えられる。



第21図　1号溝跡



第22図　1・2号土壙

1号土壙（第22図）

調査区南西寄りの４Ｃ区に位置する。

長径96cm、短径60cmの不整楕円形を呈し、確認面から20cm前後の深さをもつ。底面の形態は断面舟底状を呈する。

覆土はローム粒子を含む黒褐色で、土質は軟かく、しまりに欠ける。

出土遺物は、底面より棒状自然礫が検出されただけで、時期は不明である。

2号土壙（第22図）

１号土壙の南東１ｍの４Ｄ区に位置する。調査区外域にかかるため規模は不明であるが、残存箇所から推定すれば、隅丸方形プランを呈すると思われる。ローム面からの深さは30cm前後を測る。

出土遺物はない。

ピット

２号住居跡北側から、ピット３本が検出された。径50～70cmの円形のピットで、深さはＰ１が、10cm、Ｐ２が、40cm、Ｐ３が30cmを測る。掘立柱建物跡の可能性もあるが、断定できない。

各ピットの覆土は近似しており、褐色土を主体に焼土粒子・焼土ブロックを含んでいる。

出土遺物はない。

Ⅳ　八幡太神南遺跡の調査

1.　遺跡の概観

八幡太神南遺跡は上里町大字喜美597—1他に所在し、立野南遺跡と隣接する。標高は74m前後を測り、西から東に向け緩やかに傾斜する平坦で起伏の少ない台地上に立地する。

発掘調査は昭和54年度（主体県文化財保護課）と昭和56年度の二度に亘り実施された。本書では前者の調査区をA地点、後者のそれをB地点として扱っている。A地点が調査対象区の北西部、B地点が南東寄りの位置にある（第3図）。

調査方法はグリッド方式に依拠するが、グリット方眼の設定はA地点とB地点では異なっている。

なお、全測図のなかで調査区外に示す数値は、第Ⅸ系の国家座標値である。

A地点より検出された遺構には、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構1基、大溝跡1条、溝跡6条がある。竪穴住居跡は調査区南西端より単独で検出されている。一辺6mを越える大型の住居跡で、多量の土器が検出された。また螺旋暗文を施す畿内系の坏なども出土しており、7世紀後半頃の良好な資料を提供している。

竪穴状遺構は不定形の皿状の窪みで、縄文中期加曽利E式期の土器片が少量検出された。

大溝としたものは、児玉工業団地内将監塚遺跡においても長さ600mに亘り直線的に延びることが確認されているが、本遺跡の大溝は次節で触れる熊野太神南遺跡のそれとともにこの将監塚遺跡の大溝と繋がるものと考えられる。

B地点はA地点と熊野太神南遺跡とに狭まれた区域である。検出された遺構には、真間期の竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡4棟、溝跡3条、土壙2基などがある。

注目すべき遺構に掘立柱建物跡がある。3棟が調査区中央附近に近接して構築され、そのうちの2棟は所謂「溝もち」の形態をとる。各柱穴掘り方は方形プランを量し、柱痕が明瞭に観察される例もある。時期については明確にし得ないが、奈良～平安時代のと考えられる。

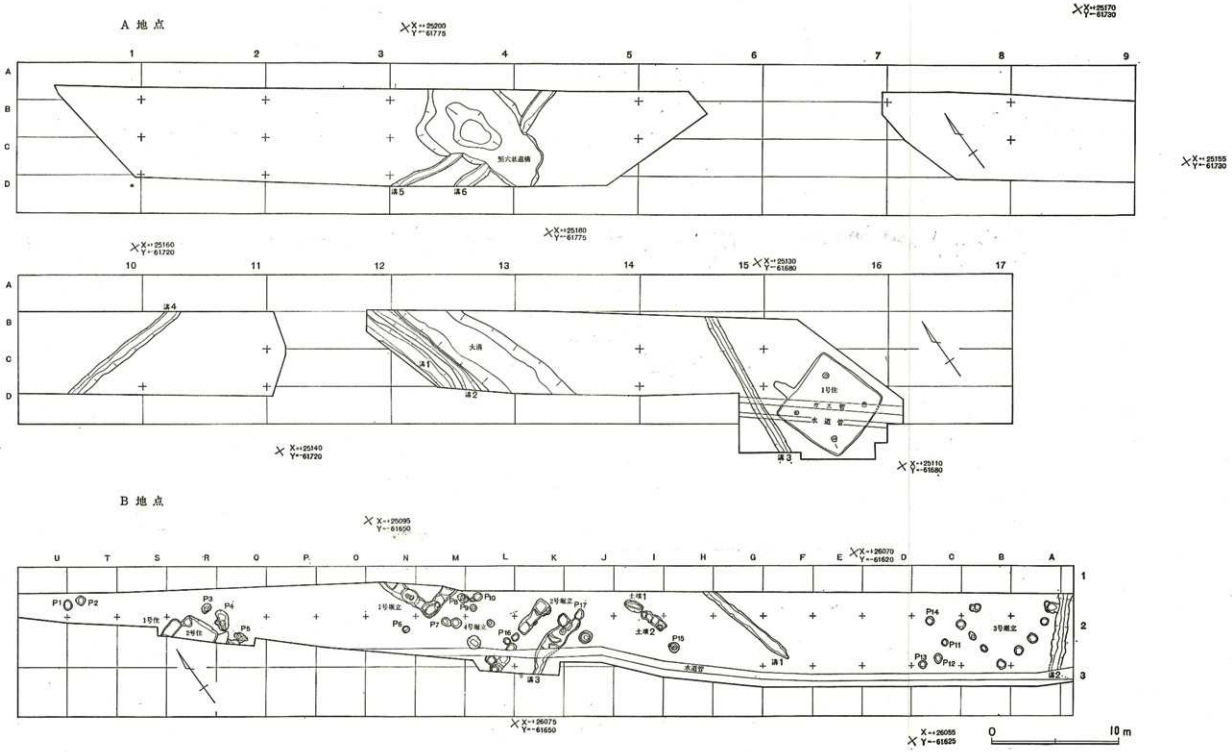
2.　A地点の遺構と出土遺物

1号住居跡（第24～27図）

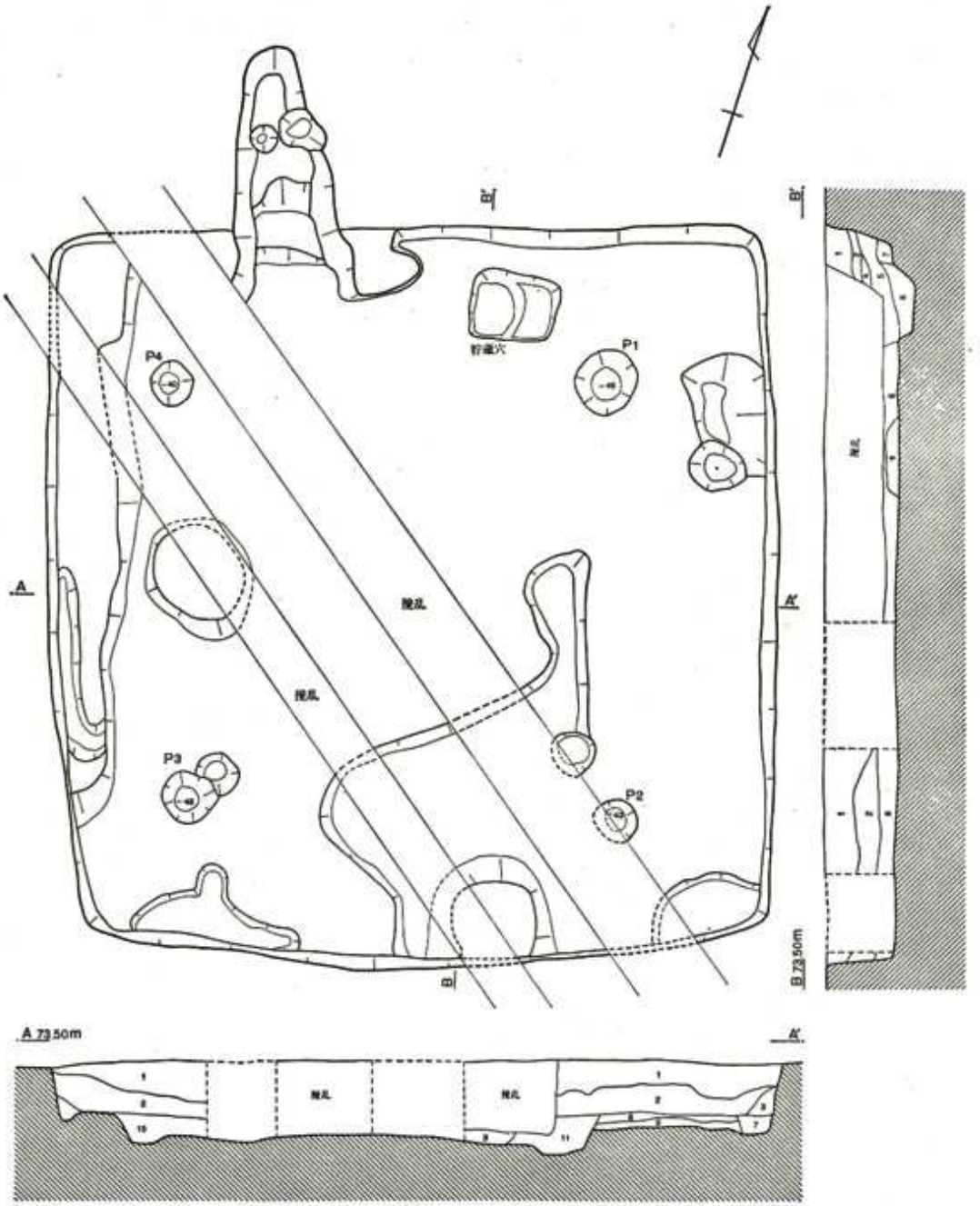
16D区中心に位置し、B地点の1・2号住に近接して構築されている。

規模は6.45×6.35m、床面までの深さ40～45cmを測る大型の住居跡で、ほぼ正方形の平面プランをもつ。主軸方位はN—18°—Wを示す。

床面は貼床で、掘り方底面より10～20cmの厚さに粘土、ロームブロック混りの土を敷き込んでいたが、撹乱により住居中央附近は残存しない。掘り方は、さほど顕著ではないが凹凸がみられる。



第23図　八幡太神南遺跡（A・B地点）全測図



1.暗褐色土　礫わずかに含む
2.暗褐色土　礫少なく、ローム粒子含む
3.褐色土　ローム粒子多い
4.明褐色土　ローム粒子やや多い
5.褐色土　粘質、焼土多く含む
6.暗褐色土　粘土粒子、焼土粒子少量含む
7.黒褐色土と暗褐色土が混在
8.暗褐色土　褐色粘質土混在(貼床面)
9.褐色土　ローム主体
10.黒褐色土　ロームブロック含む
11.褐色土　ロームブロック、礫含む

0　2m

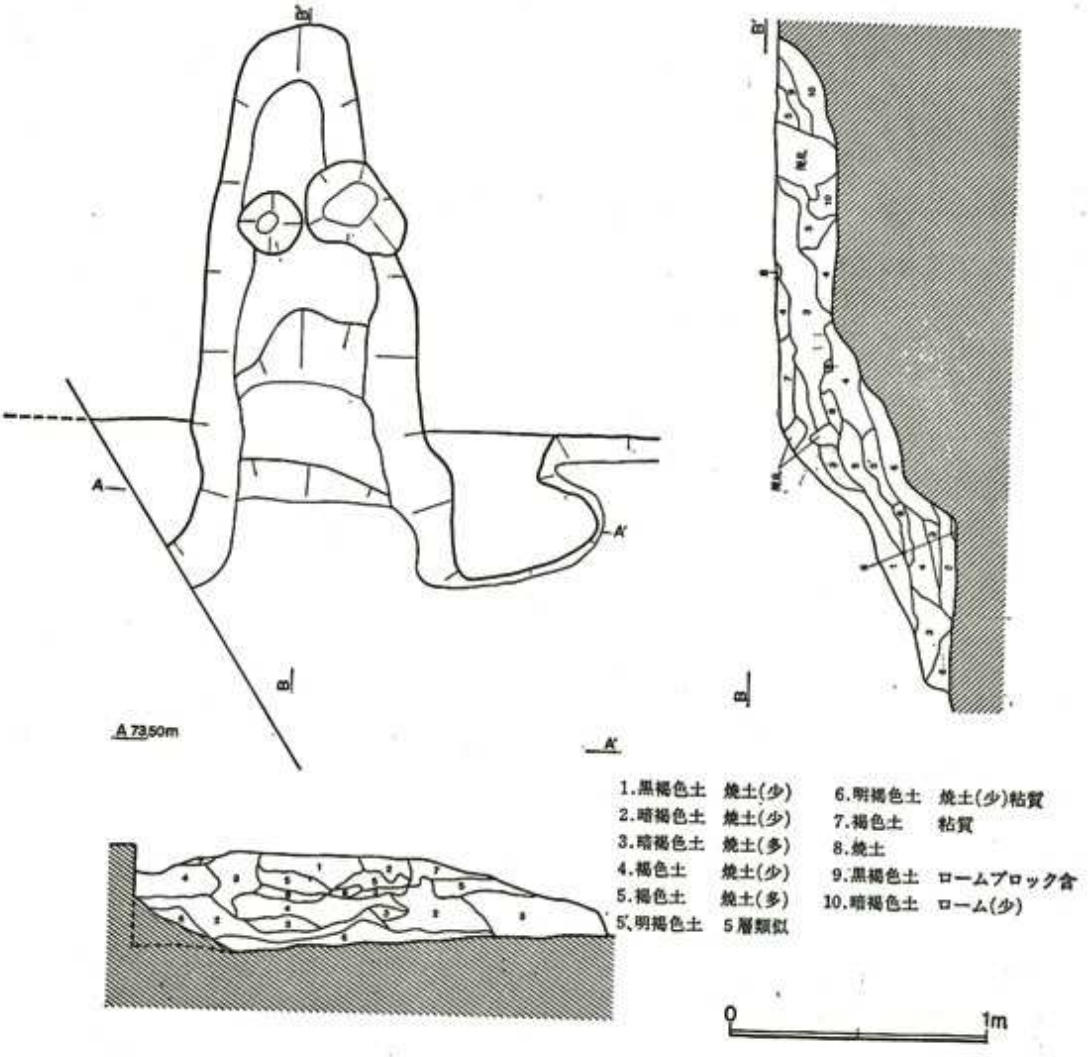
第24図　1号住居跡

八幡A

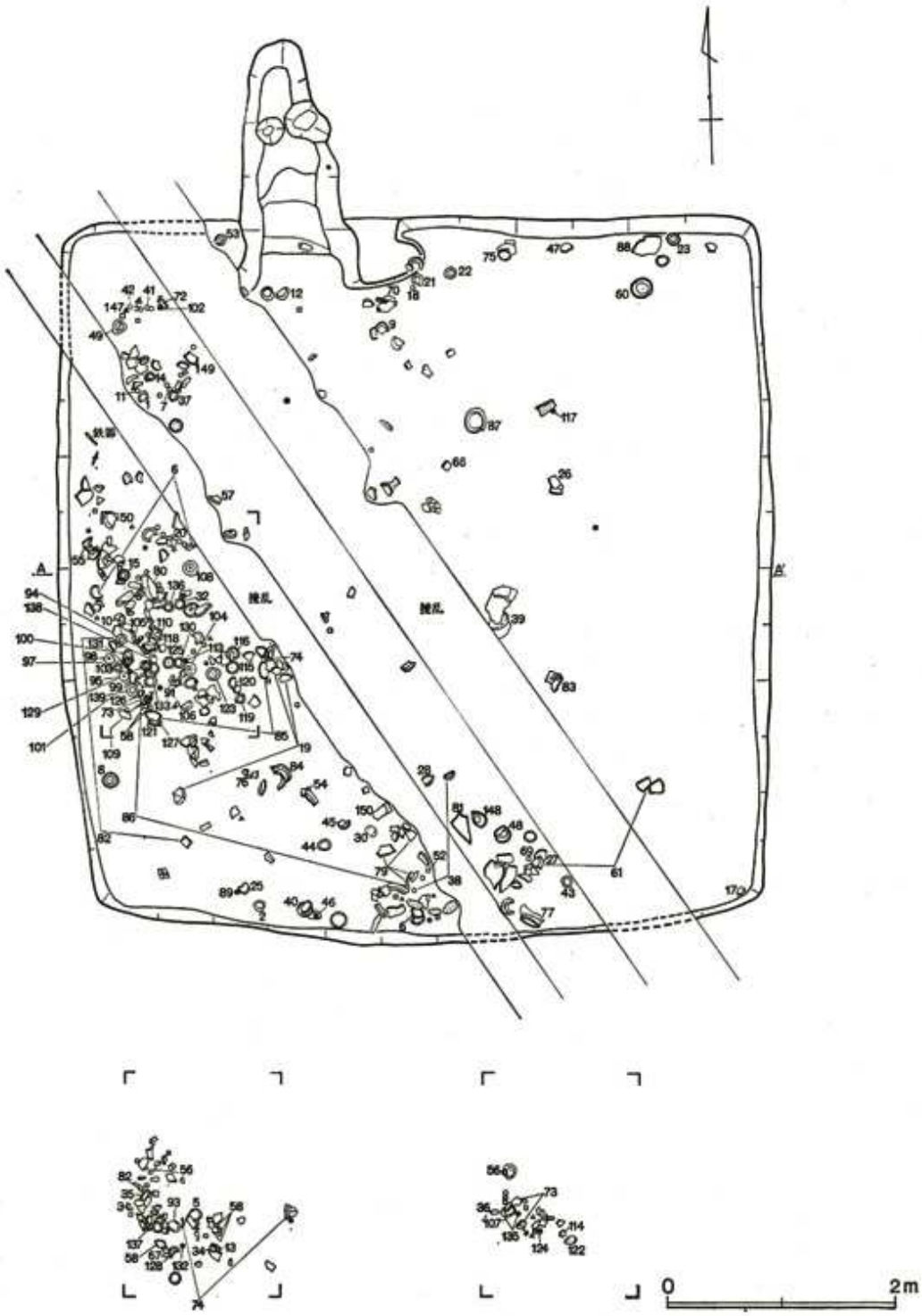
カマドは北壁の左側に偏して設置され、煙道は1.6m壁外に延びる。焚口部の掘り込みはみられず、袖部粘土も流れている。またカマド右側には方形の貯蔵穴（75×60cm、深さ30cm）が設けられ、主柱穴は4本で規則的に配置される。壁溝は西壁と東壁に一部確認される。

遺物の出土状況は、攪乱のために住居中央部分は不明であるが、西壁から南壁側に多く分布する傾向が窺われる。出土遺物には土師器坏・甕類、須恵器坏・蓋など多量の土器の他、被熱した砂岩や鉄滓が少量検出された。

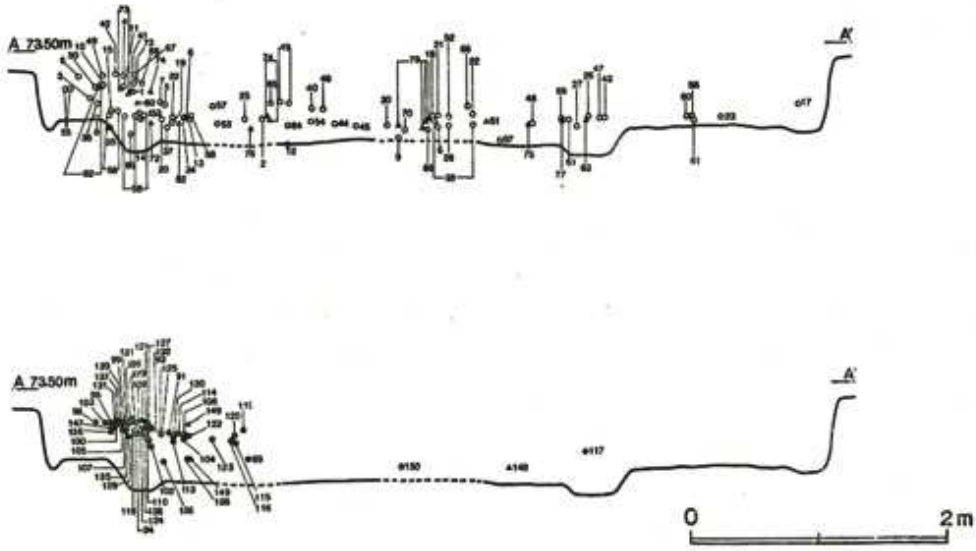
特筆すべき遺物に螺旋暗文を施す畿内系の坏やかえりを有する赤焼け風の蓋などがあげられる。



第25図　1号住居跡カマド



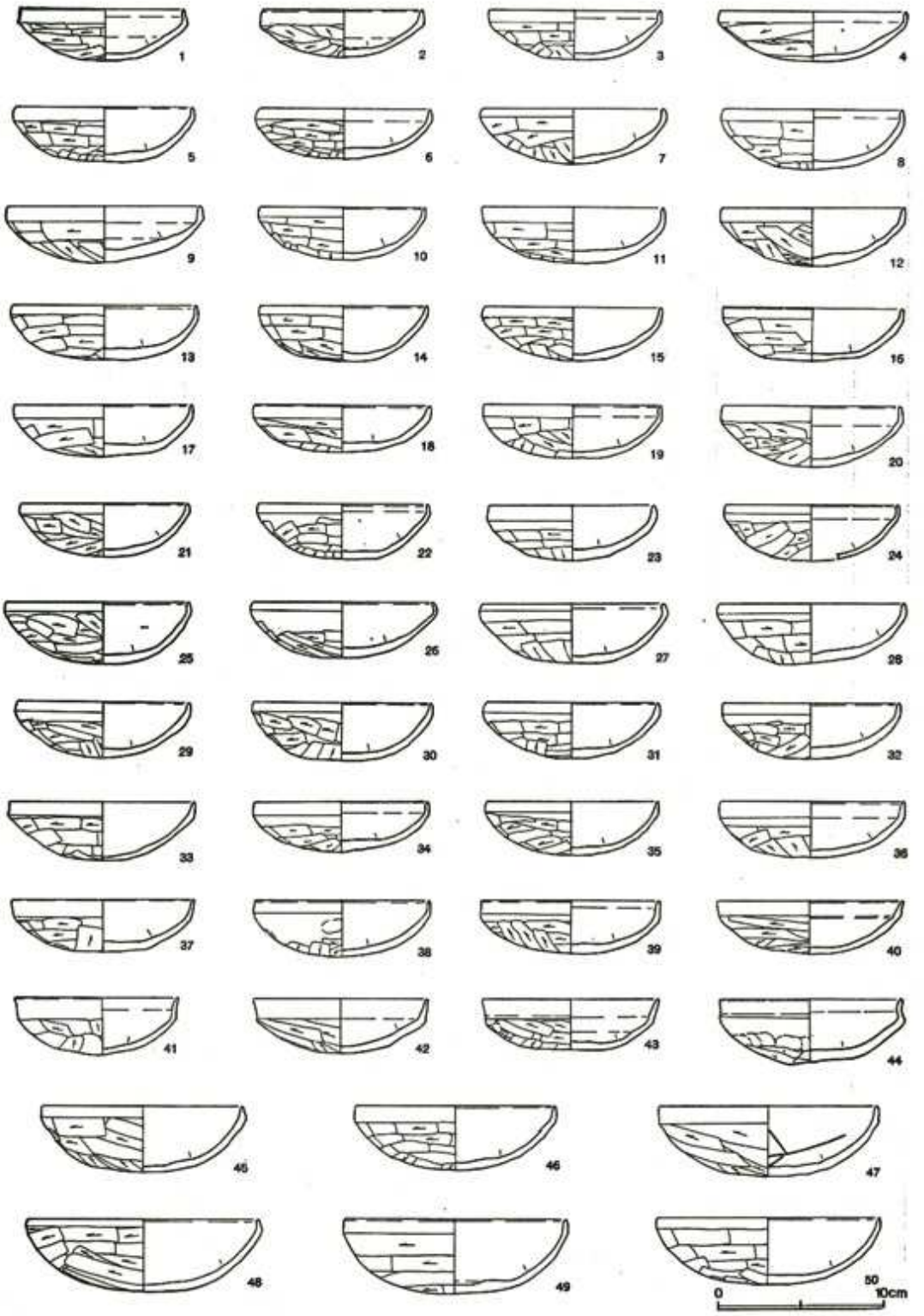
第26図　1号住居跡遺物分布図 (1)



第27図　1号住居跡出土遺物分布図(2)

1号住居跡出土遺物（第28～32図）

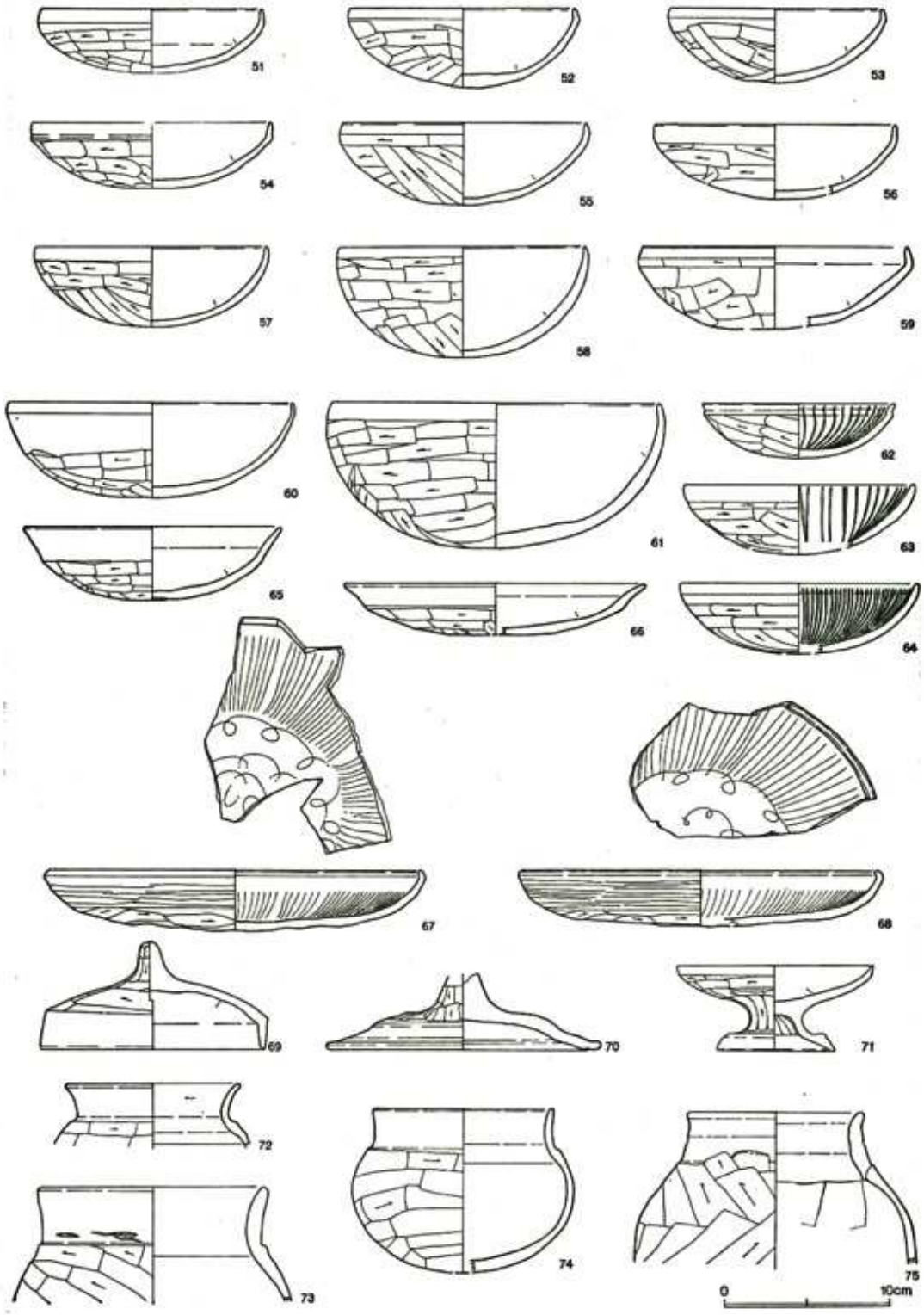
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	9.9		3.1	F（多）BCDE	褐色2	体部外面筦削り、上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№14。完存。
坏	2	9.9		2.9	F（多）BC	褐色1	体部外面筦削り。上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№140。完存。
坏	3	10.4		3.0	BCDF	褐色1	体部外面筦削り。上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№276。ほぼ完。
坏	4	11.2		3.0	BCDF	橙褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№4。3/5。
坏	5	10.8		3.3	FBC	褐色2	口縁部横ナデ。体部外面筦削り、一部削り残しあり。	№304。完存。
坏	6	10.4		3.0	BF(多)C(少)	褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№59、69、183。完存。
坏	7	11.0		3.4	BCD	褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№16。3/5。
坏	8	10.8		3.6	F(多)BC(少)	褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№104。完存。
坏	9	11.8		3.4	BCDF	橙褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№392。ほぼ完。
坏	10	10.2		3.2	BCDEF	橙褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№74。ほぼ完。
坏	11	11.0		3.4	BCD	橙褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№13ほぼ完。
坏	12	11.2		3.5	BCD	橙褐色1	体部外面筦削り。口縁部横ナデ。	№384。3/5。



第28図　1号住居跡出土遺物(1)

八幡A

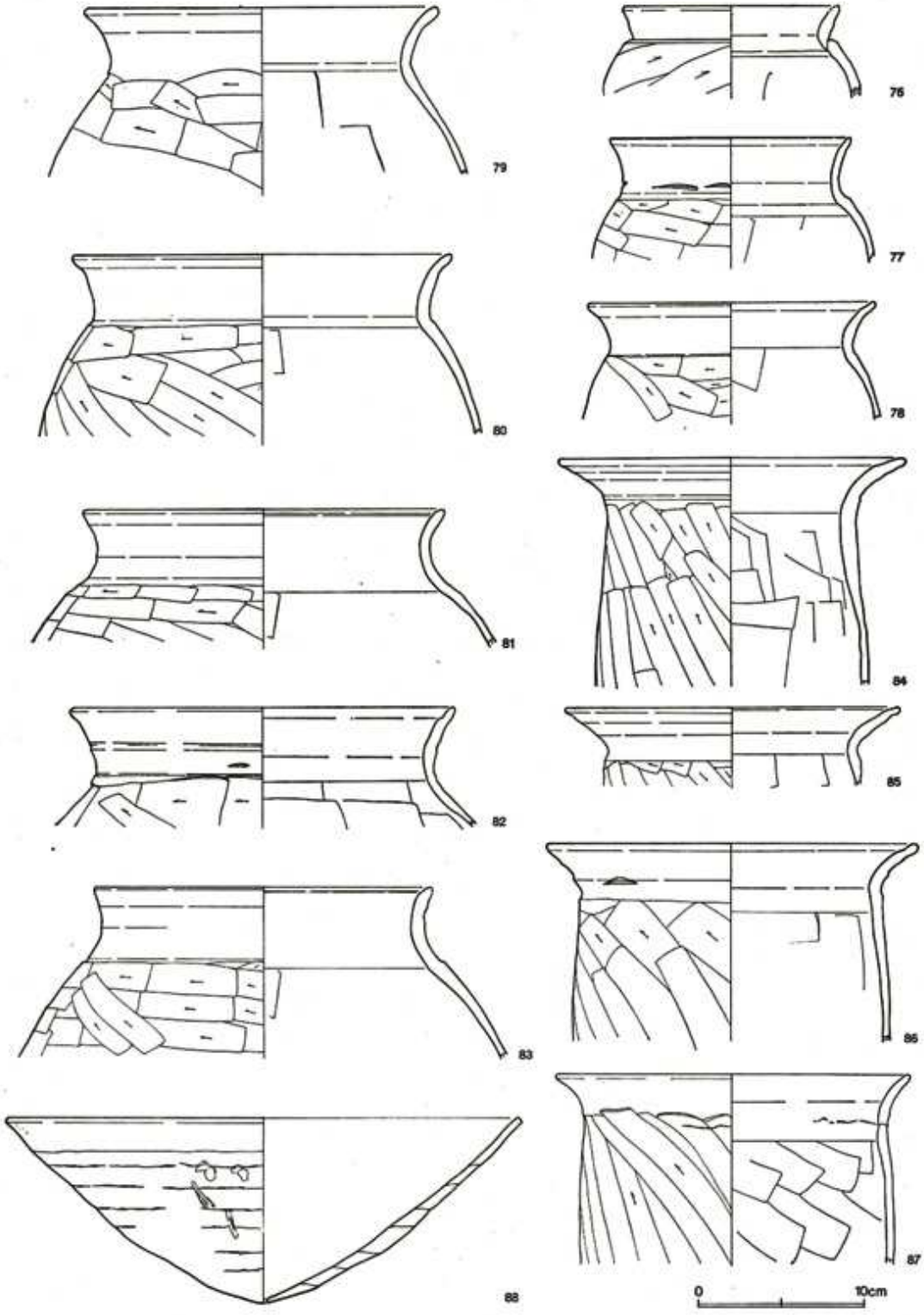
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
坏	13	11.2		3.5	BCD	橙褐色 4	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№297。ほぼ完。
坏	14	10.2		3.3	CB・2㎜大小石	橙褐色 3	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№152。ほぼ完。
坏	15	10.7		3.2	FBDC	淡褐色 4	体部外面篦削り、上位に一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№264。完存。
坏	16	11.0		3.2	BEF	茶褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№50。ほぼ完。
坏	17	11.0		3.1	BD	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№117。3/5。
坏	18	10.6		2.8	BC	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№123。2/5。
坏	19	10.9		3.2	C(少)BF	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№114, 115, 134。ほぼ完。
坏	20	10.8		3.7	FB	褐色 1	口縁部横ナデ後、体部外面篦削り。	№265。2/5。
坏	21	10.2		3.2	FBCE	褐色 2	口縁部横ナデ後、体部外面篦削り、上位一部削り残しあり。	№122。完存。
坏	22	10.4		3.3	F(多)BCE	橙褐色 2	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№120。完存。
坏	23	10.1		3.3	ABCDF	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№342。ほぼ完。
坏	24	(10.4)		(3.4)	F(少)BC・2㎜大小石	褐色 4	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	覆土。1/5。
坏	25	11.2		3.7	C(多)BF	褐色 2	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№139。ほぼ完。
坏	26	11.1		3.4	ABCF	褐色 1	体部外面下位篦削り、上位未調整、口縁部横ナデ。	№31。ほぼ完。
坏	27	11.2		3.6	BCE	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№375。4/5。
坏	28	11.4		3.6	BCEF	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№369。4/5。
坏	29	(10.5)		3.4	F(多)BC(少)、緻密。	褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№399。1/4。
坏	30	10.9		3.5	F(多)BCE	褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№378。完存。
坏	31	10.5		3.4	F(多)BCE、緻密。	褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№402。2/5。
坏	32	10.7		3.3	BF(多)CDE	褐色 4	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№61。完存。
坏	33	11.3		3.5	BCF	褐色 3	体部外面篦削り、上位一部削り残し。口縁部横ナデ。	覆土。4/5。
坏	34	(10.6)		3.1	BEF	褐色 3	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№296。1/3。
坏	35	10.4		3.2	BCEF	褐色 2	体部外面篦削り、上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№379。3/5。
坏	36	11.2		3.4	BCDEF	褐色 1	体部外面篦削り、上位は未調整。口縁部横ナデ。	№325。4/5。
坏	37	11.1		3.2	AE(少)BCF	橙褐色 3	体部外面篦削り、上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№153。完存。
坏	38	10.2		3.4	F(多)B(少)	褐色 1	体部外面下位粗い篦削り、上位未調整、指頭痕残す。口縁部横ナデ。	№176, 370。4/5。
坏	39	10.9		3.2	F(多)B(少)緻密。	淡褐色 2	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№401。完存。



第29図　1号住居跡出土遺物　(2)

八幡A

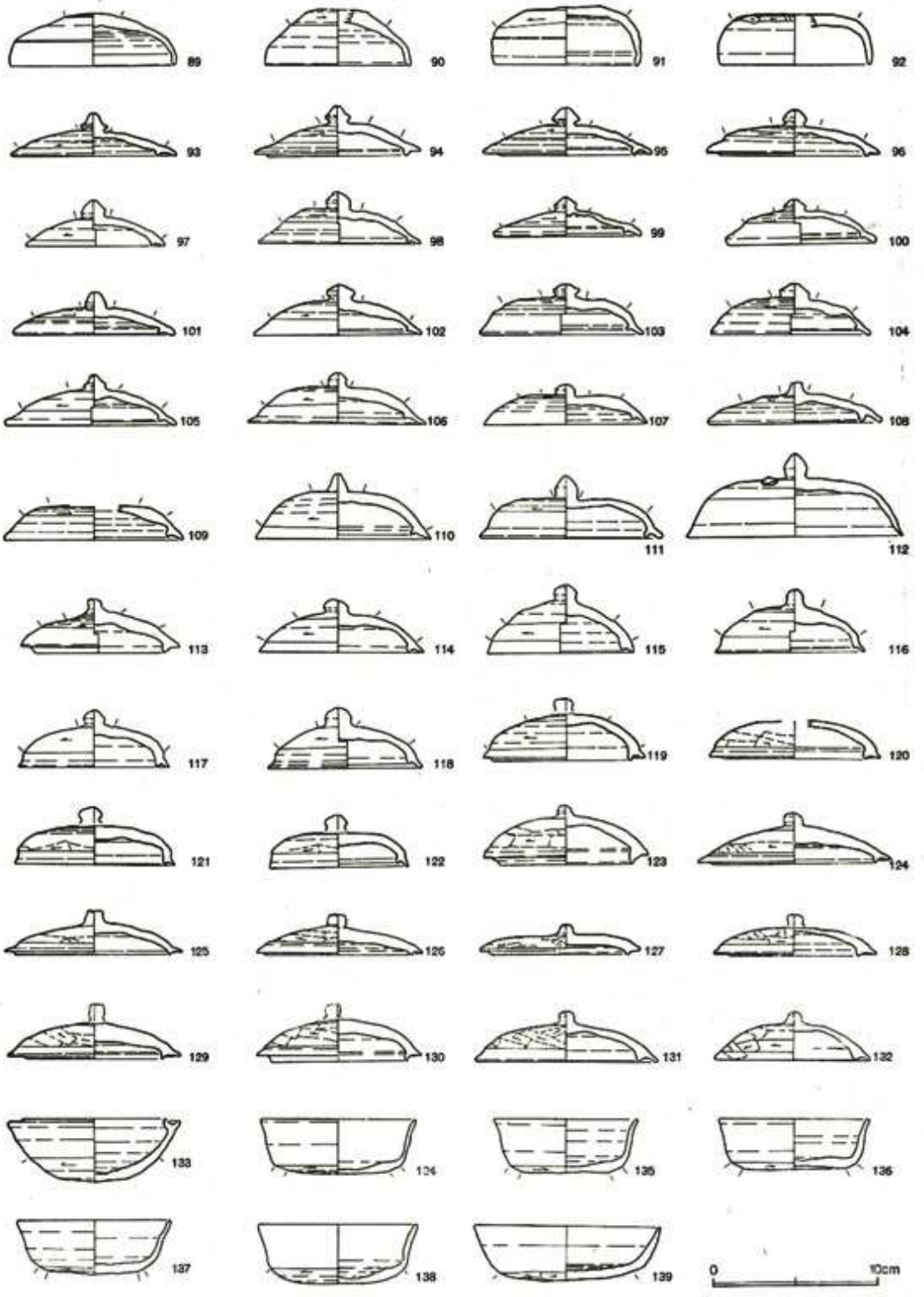
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
坏	40	11.4		3.2	BCDEF	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№142。ほぼ完。
坏	41	(9.9)		3.5	BCDEF・3～4㎜大小石	褐色 2	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№6。2/50
坏	42	10.6		3.3	BC	橙褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№3。ほぼ完。
坏	43	10.8		3.0	F(多)BC・3㎜大小石	褐色 1	体部外面篦削り、上位一部削り残し、指頭痕残す。口縁部横ナデ。	№128。ほぼ完。
坏	44	11.1		3.8	BCDEF	褐色 3	体部外面下位指ナデ後篦削り、上位未調整、指頭痕残す。口縁部横ナデ。	№363。完存。
坏	45	12.1		4.0	BC	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№362。4/50
坏	46	(12.2)		3.9	BCF・1～4㎜大小石、緻密	橙褐色 3	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№144。1/20
椀	47	13.2		4.3	BC	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。内面に4条の線刻あり。	№346。2/30
椀	48	14.1		4.4	F(多)BC(少)	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№373。ほぼ完。
椀	49	(13.4)		4.6	BCD	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№1。2/50
椀	50	13.6		4.1	BCF	褐色 1	口縁部横ナデ後、体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№54。4/50
椀	51	(13.5)		3.9	BCF・3㎜大小石	褐色 2	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№683。1/20
椀	52	13.7		4.8	BF	茶褐色 2	体部外面篦削り、上位一部削り残しあり。口縁部横ナデ。	№178。ほぼ完。
椀	53	13.1		4.5	BC	橙褐色 3	体部外面篦削り、上位は未調整。口縁部横ナデ。	№381。ほぼ完。
椀	54	(14.6)		(4.1)	F(多)BC、緻密。	褐色 1	体部外面篦削り、口縁部沈線状痕跡を伴う横ナデ。	№359。1/60
椀	55	15.0		5.0	BCDF	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№64, 189。4/50
椀	56	14.8		4.6	BCF	橙褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№274, 309。2/50
椀	57	14.2		4.9	F(少)BC	褐色 2	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№26。1/20
椀	58	15.0		6.7	F(多)B、緻密。	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	№202, 203, 301, 283。4/50
椀	59	16.0		(5.0)	B	赤褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	覆土。1/20
椀	60	17.5		5.8	A(少)BCF・黒色粒子	橙褐色 4	体部外面下位篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№344。4/50 磨滅が著しい。
椀	61	20.1		9.9	B(多)ACF	褐色 3	体部外面篦削り、上位は部分的に削り残しあり。口縁部横ナデ。	№118, 147。口縁部3/50 体部ほぼ完。
坏	62	11.7		3.3	ACE	茶褐色 2	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。内面右廻り放射状暗文。	C区覆土。1/30
坏	63	13.9		4.2	ABC	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位に未調整部分を残す。口縁部横ナデ。内面放射状暗文。	D区覆土。2/50
坏	64	14.2		4.3	ABCF	橙褐色 1	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。内面放射状暗文。	覆土。2/50
皿	65	15.7		4.5	BCF	褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。	覆土。1/30
皿	66	(18.4)		(3.1)	ABCF	褐色 2	体部外面篦削り、上位に未調整部分を残す。口縁部横ナデ。内面ナデ。	№124。口縁部1/100 体部1/50



第30図　1号住居跡出土遺物 (3)

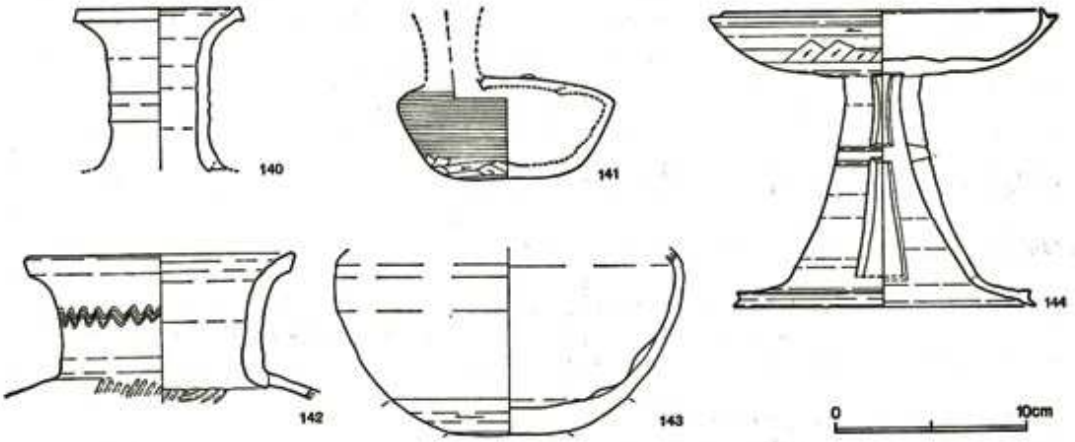
八幡A

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師皿	67	23.5		3.3	A C	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部筒磨き、外底部指頭圧後筒削り。内面螺旋、放射状暗文	覆土。1/8。畿内系土師器。
皿	68	22.0		3.2	A C	赤褐色 1	口縁部横ナデ。体部筒磨き、外底部指頭圧後筒削り。内面螺旋、放射状暗文	C区覆土。1/3。畿内系土師器。
蓋	69	13.6		6.6	B C	赤褐色 1	天井部の横筒削り後、つまみ部縦筒削り。口縁部横ナデ。	№149。3/4。
高 坏	70	16.6		4.7	A B C D E F	橙褐色 2	口縁部横ナデ後、つまみから天井部縦筒削り。	№390。4/5。部分的にかえり部が接地する。
高 坏	71	11.9		5.2	F（多）B C	褐 色 3	坏部口縁部、裾部横ナデ。脚部内面上位筒ナデ、外面筒削り下位削り残し。	ほぼ完。脚部1/3欠損。
壺	72	(10.7)		(4.0)	B C E F	褐 色 2	口縁部横ナデ後、胴部外面横筒削り、内面ナデ。	№352。D区覆土。口縁部1/2。胴部1/5。
小型壺	73	(24.2)		(7.0)	A B C E	茶褐色 2	胴部外面筒削り、内面筒ナデ。口縁部横ナデ。	№206, 314, 324。口縁部3/5。胴部1/5。
小型壺	74	(11.0)		10.0	A B C D E	茶褐色 1	胴部外面筒削り。口縁部横ナデ。	№219, 302, 303。口縁部3/5。胴部1/2。
小型壺	75	10.8		9.2	A B C D E。砂粒多し。	暗褐色 2	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№347。口縁部完。胴部2/3。
小型壺	76	(13.0)		5.6	A B C D E F	茶褐色 3	胴部外面筒削り、上位未調整部分残す。内面筒ナデ、上位木口状工具のナデ。	№356。口縁部1/4。
小型壺	77	14.7		(7.7)	B(多)A C F、緻密。	茶褐色 1	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№129。口縁部完。胴部1/4。
壺	78	(17.5)		(7.3)	A B C D	褐 色 3	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	D区覆土。口縁部1/4。胴部1/9。
壺	79	21.4		10.2	A B C D E。砂粒多し。	茶褐色 1	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№174, 175, 367, 368。口縁部完。胴部3/5。
壺	80	(23.2)		(10.9)	B(多)A C	褐 色 3	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№166。口縁部2/5。
壺	81	(22.0)		(8.4)	A B C D F	褐 色 3	口縁部横ナデ後、胴部外面上位横筒削り。内面筒ナデ。	№372。口縁部1/9。胴部1/9。
壺	82	(23.6)		(7.3)	A C D E F。砂粒多し。	褐 色 3	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。未調整部分残す。内面撫撫を伴う筒ナデ。	№136, 199, 266。口縁部1/2。胴部1/4。
壺	83	(20.6)		(10.5)	A（少）B C D E F	褐 色 3	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№119。口縁部1/4。胴部1/9。
甕	84	(21.1)		(13.9)	B F（多）A C D。緻密°	赤褐色 1	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№358。口縁部2/5。胴部1/2。
甕	85	(20.4)		(4.7)	B F（多）C D	淡褐色 1	胴部外面筒削り、内面筒ナデ。口縁部横ナデ。	№47, 113。口縁部1/2。胴部1/6。
甕	86	22.5		12.0	A B C D E・1～2㎜大小石	淡茶褐色1	胴部外面筒削り、内面筒ナデ。口縁部横ナデ。	№173, 307。口縁部ほぼ完。縁部1/5。
甕	87	21.5		(11.6)	A B C D F・2㎜大小石	褐 色 3	口縁部横ナデ後、胴部外面筒削り。内面筒ナデ。	№348。口縁部完。胴部1/4。
甑	88	(31.4)		(11.3)	A B C D E・1～2㎜大小石	橙褐色 3	胴部内外面ナデ。口縁部横ナデ。胴部外面指頭痕。	№345。口縁部1/3。胴部2/5。
須恵蓋	89	10.0		3.2	B C	灰 色 1	ロクロナデ。天井部上位手持ち筒削り。	№139。ほぼ完。搬入品。
蓋	90	8.8		(3.4)	A D E	灰 色 1	ロクロナデ。天井部上位回転筒削り。	覆土。2/5。搬入品。
蓋	91	8.7		3.5	C	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部上位回転筒削り後頂部ナデ。	№93。ほぼ完。搬入品。
蓋	92	9.2		2.9	C E	灰 色 1	ロクロナデ。天井部上位手持ち筒削り。	A区B区覆土。1/2。
蓋	93	10.0		2.4	C E	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部回転筒削り。	№221。ほぼ完。在地産か



第31図　1号住居跡出土遺物 (4)

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵蓋	94	10.1		3.1	CE	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№290。完存。在地産か。
蓋	95	10.4		2.8	C	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№231。ほぼ完。搬入品。
蓋	96	10.5		2.8	CDE	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	覆土。ほぼ完。接地面はかえり部。在地産か。
蓋	97	8.5		2.8	CE	灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№306。完存。接地面はかえり部・口縁部。在地産か
蓋	98	10.0		3.2	BE	灰白色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№76。ほぼ完。接地面は口縁部。
蓋	99	9.1		2.4	CE	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№229。ほぼ完。在地産か。
蓋	100	8.8		2.8	CE	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№78。完存。
蓋	101	9.6		2.6	D(多)E	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№222。ほぼ完。接地面は口,6部。
蓋	102	(10.3)		(3.1)	AE	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№7。3/8。
蓋	103	9.8		3.1	CE	灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№77。ほぼ完。搬入品か
蓋	104	9.8		3.1	CE	青灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№100。ほぼ完。搬入品
蓋	105	10.5		3.1	ABC	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№225。ほぼ完。在地産か
蓋	106	10.8		3.1	CE	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№44。4/8。在地産か
蓋	107	10.1		2.4	CE	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部上位回転褐削り。	№328。ほぼ完。搬入品
蓋	108	10.4		2.5	DE、緻密	灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№60。ほぼ完。接地面は口縁部。搬入品
蓋	109	(10.9)		(2.1)	C(少)A・1㎜大小石	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№90, 207。C区覆土。1/2。つまみ欠失。
蓋	110	10.7		4.0	F(少)ADE	灰褐色 2	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№287。ほぼ完。搬入品
蓋	111	10.9		3.8	D(多)E・黒色粒子・砂粒	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。接地面は口縁部。	№327。ほぼ完。外面全体に無光沢の灰色自然釉。
蓋	112	13.3		5.1	D(多)B(少)A	灰色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。方向は自然釉により不明瞭。	覆土。ほぼ完。暗黄褐色自然釉、粘土溶融塊付着。
蓋	113	9.8		3.3	CE	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№258。完存。
蓋	114	10.1		3.2	BCF・2㎜大小石	灰色 1	ロクロナデ。天井部下位回転篦削り、上位つまみ接着に伴うロクロナデ。	№99。C区覆土。2/3。接地面はかえり部。
蓋	115	11.0		4.2	CE	赤褐色 1	ロクロナデ。天井部下位回転篦削り、上位篦り後ロクロナデ。	№108。完存。接地面は口縁部。土師質。
蓋	116	(9.2)		3.8	CDE	黒色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№110。ほぼ完。
蓋	117	9.3		3.5	ABCF	褐色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。接地面はかえり部と口縁部両方。	№29。ほぼ完。かえり部と口縁部の境に沈線。
蓋	118	9.8		3.7	CDE	茶褐色 1	ロクロナデ。天井部上位回転篦削り。	№82。完存。
蓋	119	9.8		2.8	ABCDE	褐色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№45。ほぼ完。つまみ欠失。
蓋	120	(10.4)		(2.3)	ACDF	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。平滑でやや光沢を持つ。	№107。1/2。接地面はかえり部。



第32図　1号住居跡出土遺物(5)

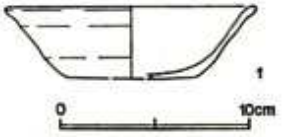
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵蓋	121	9.8		2.4	ABCDEF	淡褐色 1	ロクロナデ。天井部下位手持ち篦削り後ロクロナデ。平滑で光沢を持つ。	№49。ほぼ完。つまみ欠失。接地面は口縁部。
蓋	122	8.5		2.1	F(多)ABCD	黒色 1	ロクロナデ。天井部下位手持ち篦削り後ロクロナデ。	№98。ほぼ完。つまみ欠失部粗い篦削り後ナデ。
蓋	123	10.1		3.6	D(多)ACEF・黒色粒子	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ロクロナデ。	№105。ほぼ完。
蓋	124	11.9		3.1	ABDF	褐色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。	№223。完存。接地面はかえり部。
蓋	125	10.9		2.7	ACDEF	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。	№84。完存。
蓋	126	10.3		2.5	AC・2㎜大小石	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部下位手持ち篦削り後、天井部全体ナデ。	№88。ほぼ完。接地面はかえり部。
蓋	127	10.0		1.7	CE	灰褐色 1	ロクロナデ、天井部手持ち篦削り後ナデ。	№201。ほぼ完。
蓋	128	10.1		1.7	CDF。砂粒多し。	暗褐色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。	№208。ほぼ完。つまみ欠失。接地面はかえり部。
蓋	129	10.6		2.2	ABCDEF。砂粒多し。	淡褐色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。	№228。ほぼ完。つまみ欠失。接地面はかえり部。
蓋	130	10.2		2.6	F(多)AB(少)CD	黒色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。	№257。ほぼ完。つまみ欠失。
蓋	131	11.1		2.7	ABCDE。砂粒多し。	褐色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削り後ナデ。	№86、230。ほぼ完。接地面は口縁部。
蓋	132	(9.4)		(3.0)	CDEF	淡褐色 1	ロクロナデ。天井部手持ち篦削りの後天上部上位ナデ。	№209。1/2。接地面は口縁部。
坏	133	10.5		3.9	BD(少)、緻密。	淡灰色 1	ロクロ水挽き整形底部及び体部外面下半右回転ヘラケズリを施す。	№85。1/2。搬入品。
坏	134	(9.5)	(6.3)	(3.4)	BCDF・2㎜大小石	橙褐色 4	ロクロナデ。体部外面下位回転篦削り。底部外面回転篦削りと思われる。	カマド付近。3/8。底部外面磨滅著しい。在地産か。
坏	135	9.8	5.4	3.3	ACE	青灰色 1	ロクロナデ。体部外面下位回転篦削り。底部外面手持ち篦削り。	№330、337。ほぼ完。在地産か。
坏	136	9.1	6.3	3.2	ACDE	灰色 1	ロクロナデ。体部外面下位回転篦削り。底部外面回転篦起こし。	№249。ほぼ完。搬入品

八幡A

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵坏	137	9.3	5.5	3.4	ABCE	灰色 1	ロクロナデ。体部外面下位回転篦削り。底部外面回転篦切り。	№79。4/5。搬入品。
坏	138	(9.8)		3.6	C	灰褐色 1	ロクロナデ。体部外面下位・底部外面回転篦削り。	№220。2/5。在地産か。
坏	139	11.4	8.8	3.3	CE	茶褐色 2	ロクロナデ。底部外面手持ち篦削り。	№81。ほぼ完。口縁部は殆ど破損。混入か
長頸瓶	140	(8.4)		(8.5)	DE、胎土精選。	灰黒色 1	ロクロナデ。	A区C区覆土。口頸部1/4。内外面に自然釉付着。
平瓶	141		5.2	(5.4)	DE、非常に細かい粒子。	灰色 1	肩部、胴部外面カキ目後、底部外面手持ち篦削り。肩部にボタン状突起一対。	覆土。胴部ほぼ完。口頸部欠失。肩部に自然釉。
甕	142	(13.7)		(7.6)	DE	黒灰色 2	ロクロナデ。口頸部中位櫛描波状文。胴部外面叩き目痕、内面叩き青海波文。	№371。口縁部4/5。
瓶	143		6.2	(9.7)	黒色粒子・紅砂灰粒、緻密。	灰色 1	ロクロナデ。胴部外面下位回転篦削り。底部外面手持ち篦削り。内面にひずみ。	№159。1/2。胴部外面上位に自然釉。
高坏	144	(16.4)	(15.6)	15.4	BE・2mm大小石(少)ACF	灰色 1	ロクロナデ。坏体部外面中位回転・手持ち篦削り。内底部不規則なナデあり。	№366。坏部1/2。脚部3/5。二方二段のスカシ。

大溝(第34図)

13・14区に位置し、調査区を斜めに横断する形で北流する。西岸にほぼ接するように1・2号溝跡が存在するが、大溝跡とは時期を異にする。規模は上幅約4m、下底幅1.5〜2.5m、深さ1.2m前後を測る。ローム層を掘り込みつくられているが、下面は砂礫層までは達していない。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ちあがる。



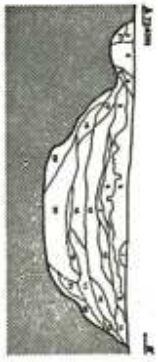
第33図 大溝出土遺物

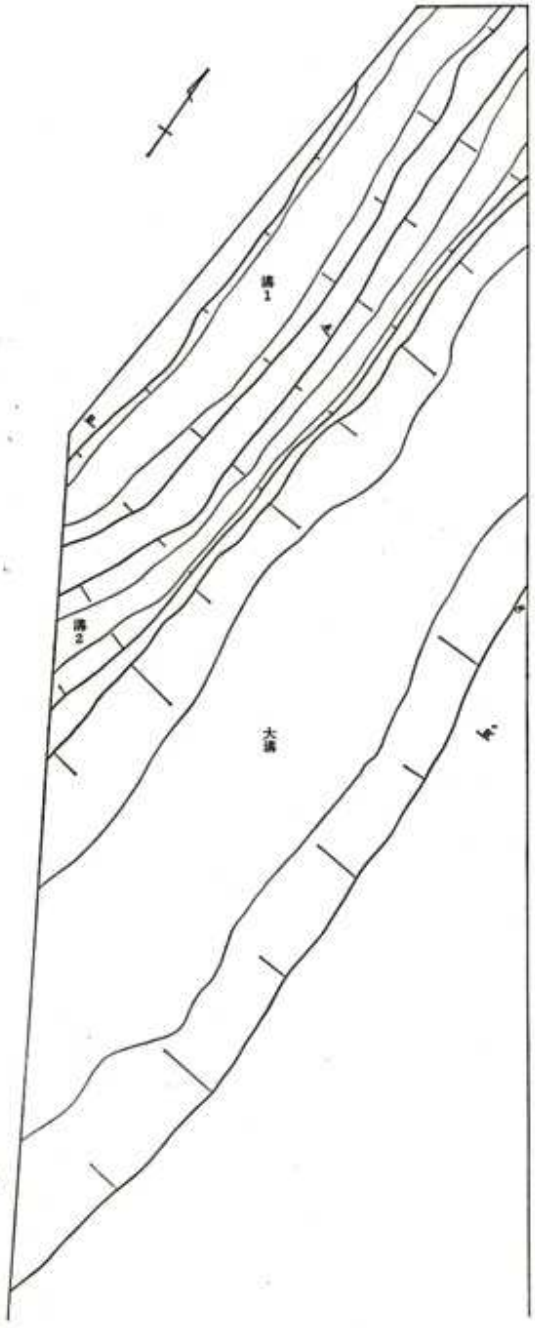
覆土は、上層から中層にかけて火山砂粒が認められる。調査時の所見では、第1層の火山砂粒は浅間A軽石、第5層以下のそれは浅間B軽石と判断されている。出土遺物は少なく、図示した坏以外には土師器坏、須恵器坏・甕などの小片があるが、いづれも磨滅している。

同様な溝跡は、熊野太神南遺跡からも検出されているが、本遺跡に比して規模が大きい。また、本遺跡南西にあたる将監塚遺跡では、長さ600mに亘って南西から北東に向け、直線的に延びる大溝が調査されている。更に上里町教育委員会による試掘調査によれば、将監塚遺跡大溝の延長部が本遺跡南方300mの地点で北方に屈曲することが確認されている。この結果からみれば、本遺跡大溝は将監塚遺跡大溝に上流で繋がるものと考えられよう。しかし、規模の点でやや見劣りし、むしろ熊野太神南遺跡大溝を本流とし、本遺跡大溝は分岐した枝溝と考える方が妥当かもしれない。溝の掘削時期は不明だが、奈良〜平安時代を中心に機能したものと考えられる。

大溝出土遺物(第33図)

須恵器坏。推定口径12.9cm、同底径6.3cm。器高3.8cm。灰色を呈し焼成はやや不良。胎土B、D、Eを含む。底部回転糸切りと思われるが磨滅著しく不明瞭。覆土出土。1/4残。





1.褐色土	火山灰(浅間A)含	13.明褐色土	12層類似
2.暗褐色土	火山灰(多)	14.明褐色土	火山灰(少)
3.褐色土	ローム粒含	15.黄褐色土	火山灰(少)
4.暗褐色土		16.暗褐色土	火山灰(微量)、ローム(多)、炭化粒(少)
5.黒褐色土	火山灰主体		
6.暗褐色土	火山灰粒子(多)	17.暗褐色土	火山灰含まない
7.暗褐色土	火山灰粒子(やや多)	18.暗褐色土	16層類似
		19.暗褐色土	やや粘質、炭化粒(多)
8.暗褐色土	火山灰(少)		
9.暗褐色土	火山灰(多)	20.褐色土	やや粘質、小礫少量混在
10.暗褐色土	火山灰(やや多)		
11.褐色土	火山灰(やや多)	21.褐色土	ローム粒混在
12.褐色土	火山灰(少)	22.褐色土	
13.明褐色土	12層類似	23.褐色土	ローム粒斑点状に混在(多)

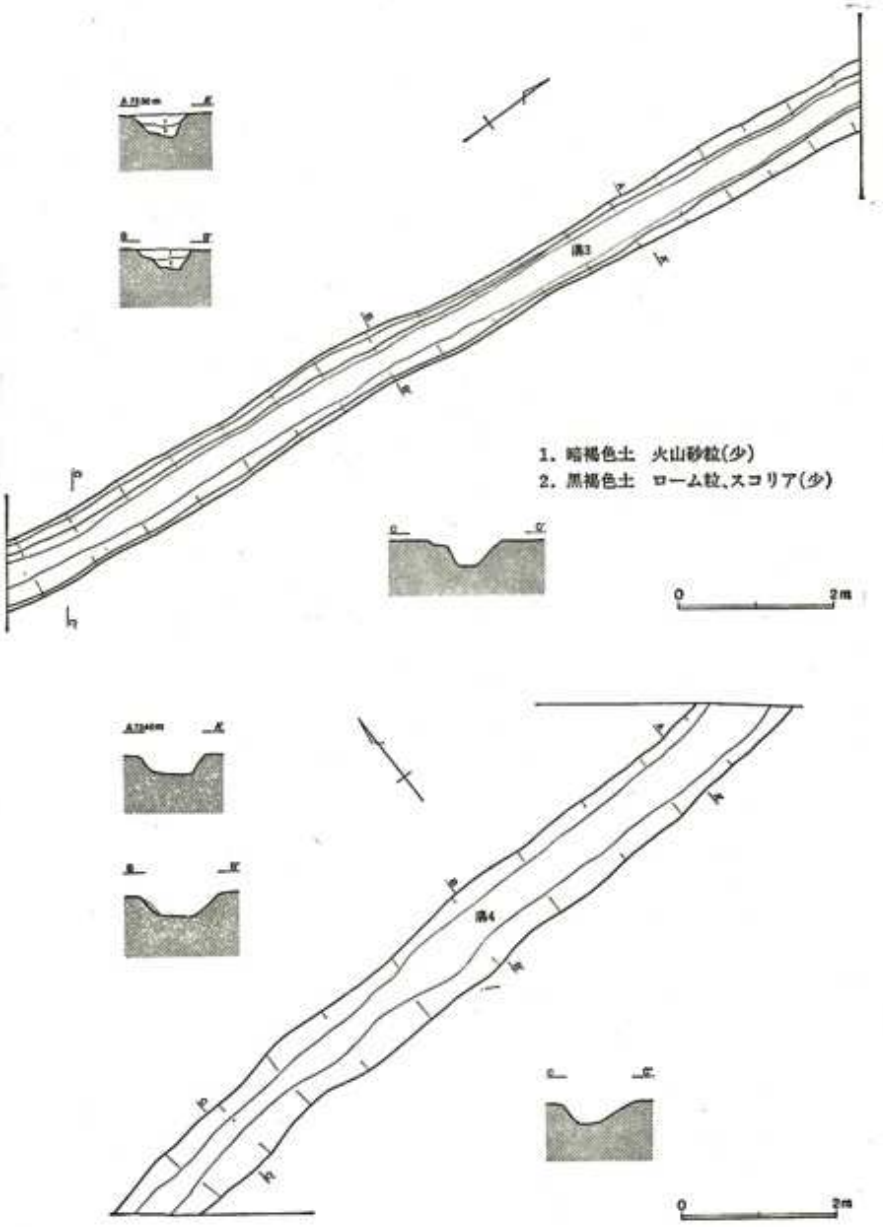
第34図　大溝1・2号溝跡

八幡A

1～6号溝跡（第34～36図）

1・2号溝跡は、大溝西側に平行して延びるが、明らかに大溝覆土を切って掘削されており、また、覆土に浅間A軽石を含むことから、近世以降の掘削と思われる。

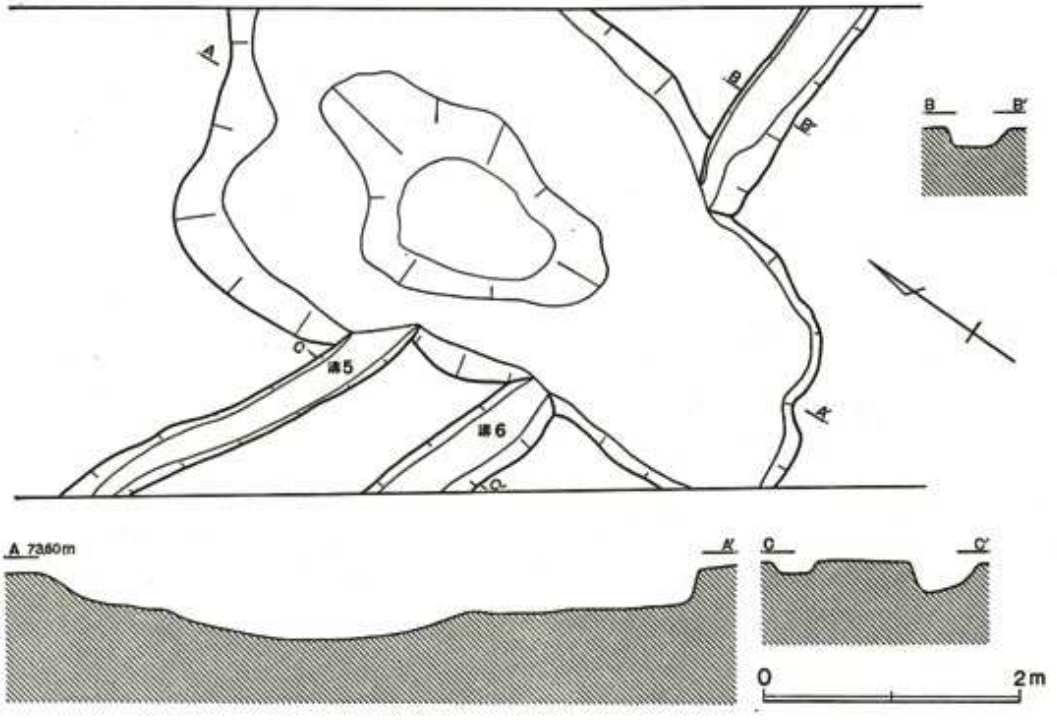
3号溝跡は1号住居跡の西側に位置し、ほぼ、南北方向に直線的に延びる。上幅約65～85cm、深さ25～40cmを測り、北壁にテラス状の段をもつ。出土遺物はないが、覆土中に浅間A軽石が含まれるため、近世以降の掘削と考えられる。



第35図　3・4号溝跡

4号溝跡は調査区中央附近で検出され、ほぼ東西方向に延びる。上幅0.8～1m、深さ25～30cm前後を測る浅い溝で、断面は箱薬研に似た形態を呈するが、やや崩れている。出土遺物はなく、時期も不明である。

5・6号溝跡は3・4区に位置し、竪穴状遺構を切ってつくられており、僅かに蛇行しつつ東西方向に延びる。5号溝跡は竪穴状遺構のなかで6号溝跡に合流するものと思われる。出土遺物はなく、時期も明らかにし得ない。



第36図　竪穴状遺構5・6号溝跡

竪穴状遺構（第36図）

3B・3C区を中心に位置する。南及び北壁の一部は不明であるが、残存部で長径5.8m、短径3.7m前後の不整楕円形を呈し、壁高は南壁部で約25cmを測る。底面中央よりやや北寄りの位置に浅い皿状の落ち込みが存在する。

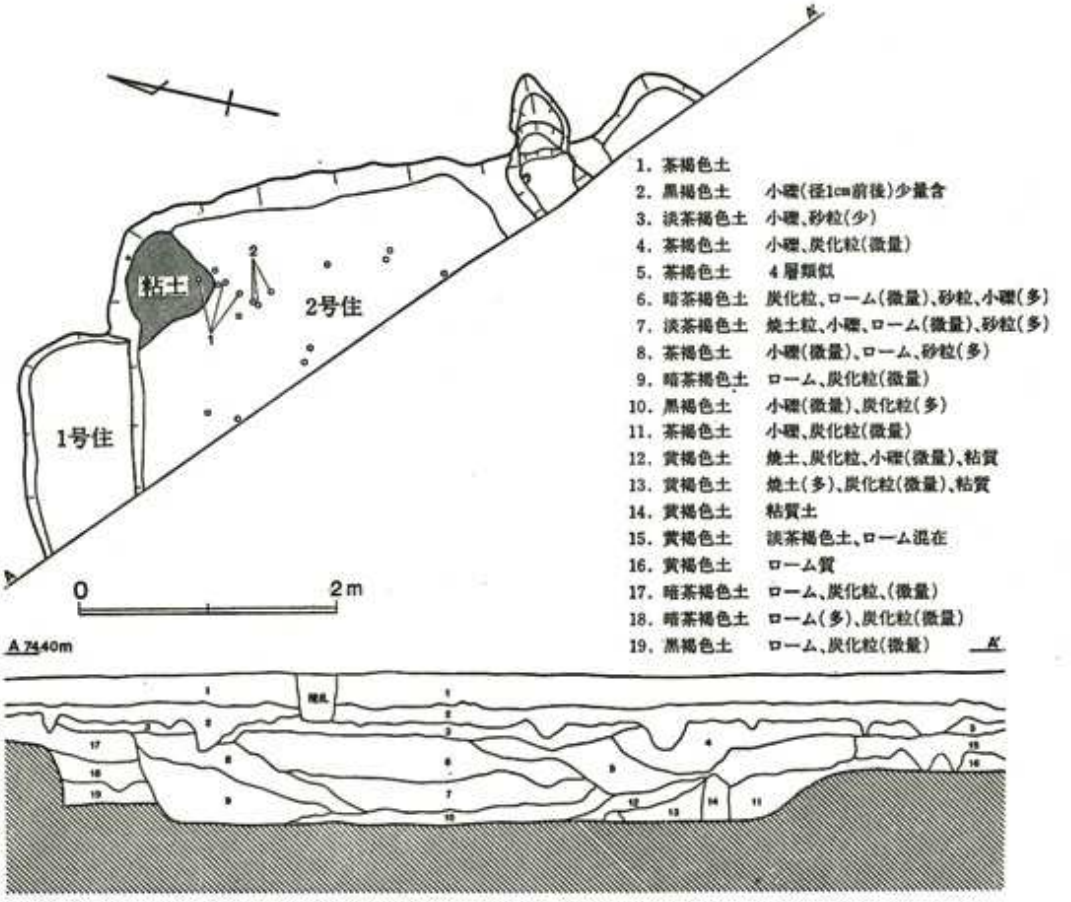
覆土より加曽利E式期の土器片が10余点検出されたが、炉・柱穴等の施設は未確認であり、住居跡であるとの確証は得られなかった。

3. B地点の遺構と遺物

1・2号住居跡（第37・38図）

2Q・2R区中心に位置する。当初1号住居跡は2号住居跡の張り出し部と考えたが、土層観察の結果2軒の重複と判断した。1号住居跡は2号住居跡に切られ、北東隅部のみ検出された。深さは約50cmを測り、出土遺物はない。

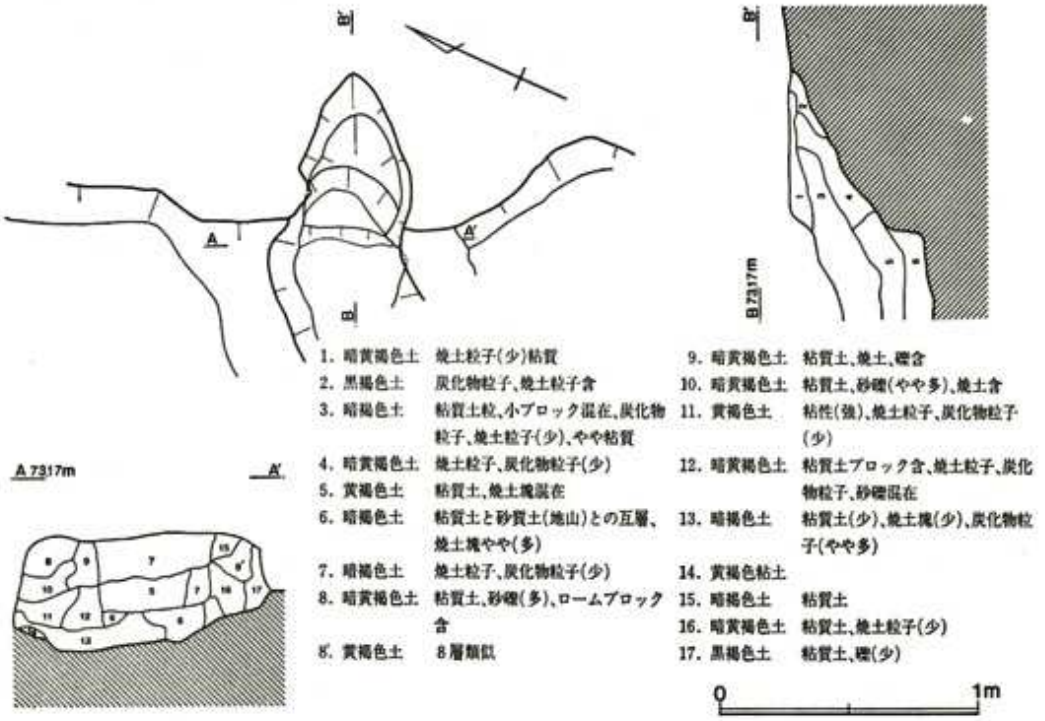
2号住居跡は1号住居跡同様大半が調査区域外にかかるため、東壁と北壁の一部のみ調査できた。規模は東壁4.7m、北壁2.1m程残存し、深さは確認面より0.6mを測る。形態は不明確であるがほぼ方形プランを呈するものであろう。主軸方位N—72°30″—Eを示す。床面はほぼ平坦で堅く、北



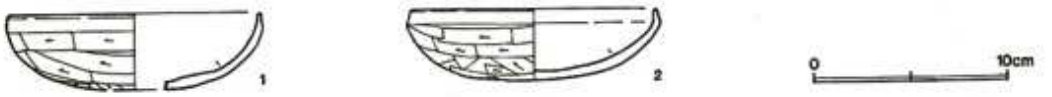
第37図　1・2号住居跡

東隅には白色粘土塊が置かれていた。カマドは東壁に設けられ、斜めに立ちあがる煙道は壁外に約60cm延びる。

出土遺物は少ないが、図示した2点の土師器坏は床面付近から検出された。



第38図　2号住居跡カマド



第39図　2号住居跡出土遺物

2号住居跡出土遺物（第39図）

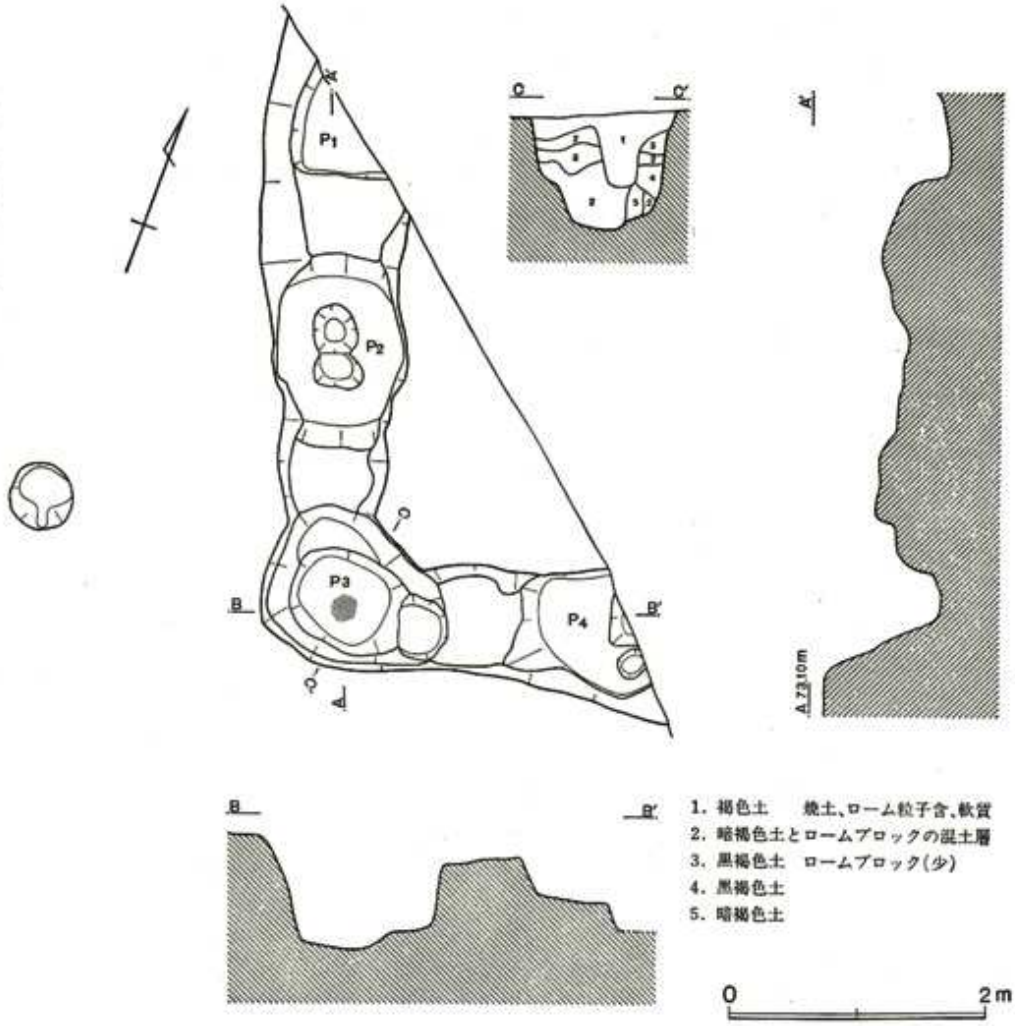
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	12.9		(4.0)	BDEF	橙褐色 2	体部外面箆削り。口縁部横ナデ。	№11、12、15。3/10
坏	2	12.5		3.7	EF（少）AB	褐色 2	体部外面箆削り。口縁部横ナデ。	№7、8、9。1/20

1号掘立柱建物跡（第40図）

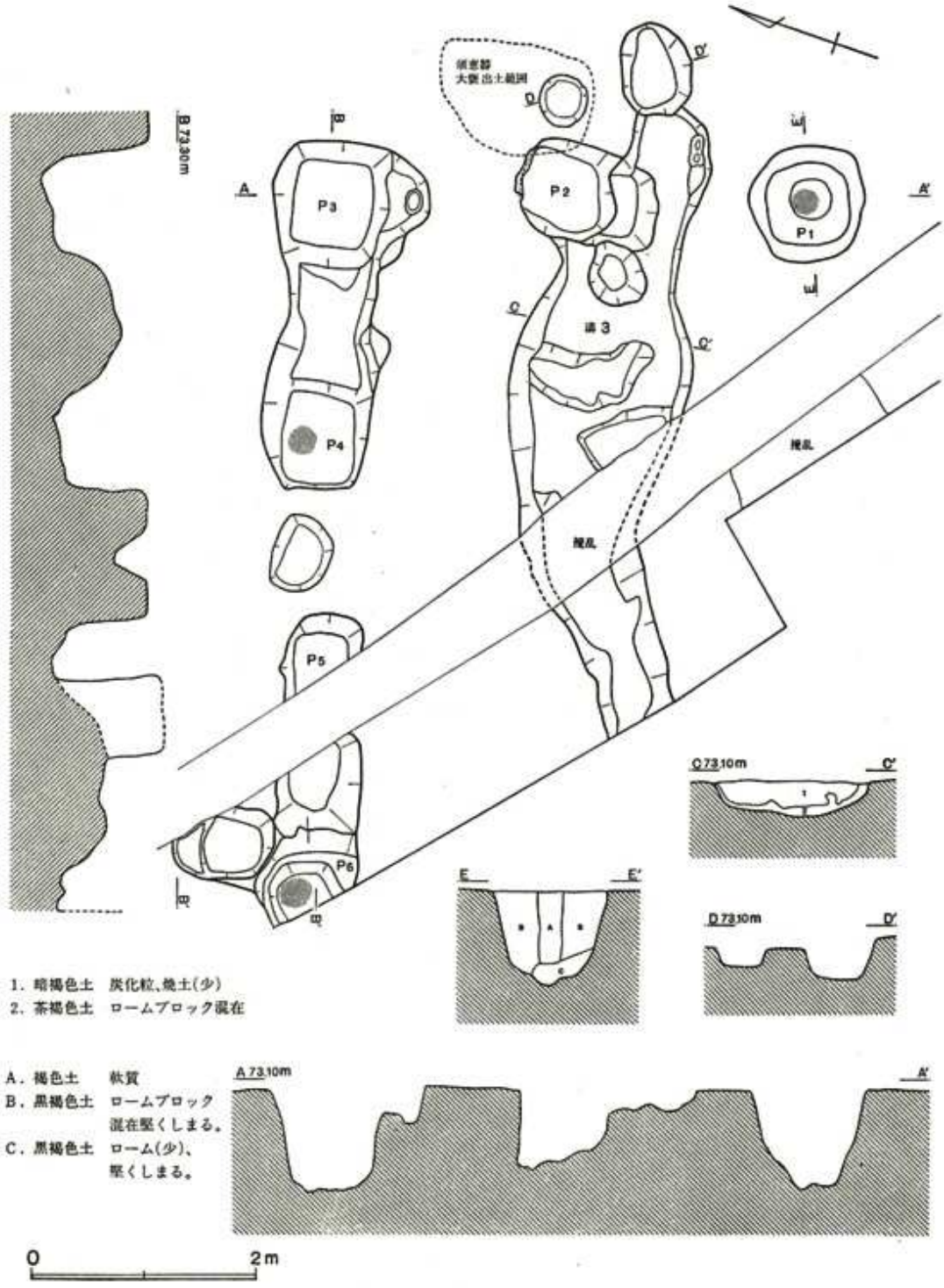
1M、1N区に位置する。遺構確認段階では溝状遺構と把えたが、掘り進めるにつれ、柱穴掘り方を浅い溝で連結した所謂「溝もち」の掘立柱建物跡と考えるに至つた。調査区域外にかかるため全体の規模は判明しないが、東西1間、南北2間分が調査された。主軸方位はN—70°—Eを示す。

柱穴掘り方は不整方形を呈し、確認面からの深さはP_2が65cmとやや浅いが、他は80～90cm掘り込まれている。柱痕（抜き取り痕か）はP_3で確認された。柱間寸法はP_2、P_3間、P_3、P_4間ともに230cm前後と考えられる。柱穴掘り方埋土は（黒）褐色土とロームブロックが混在し非常に固く、柱痕埋土との相違は明瞭である。

出土遺物は僅かで、土師器坏、甕の細片が検出された。



第40図　1号掘立柱遺物跡



第41図　2号掘立柱建物跡3号溝跡

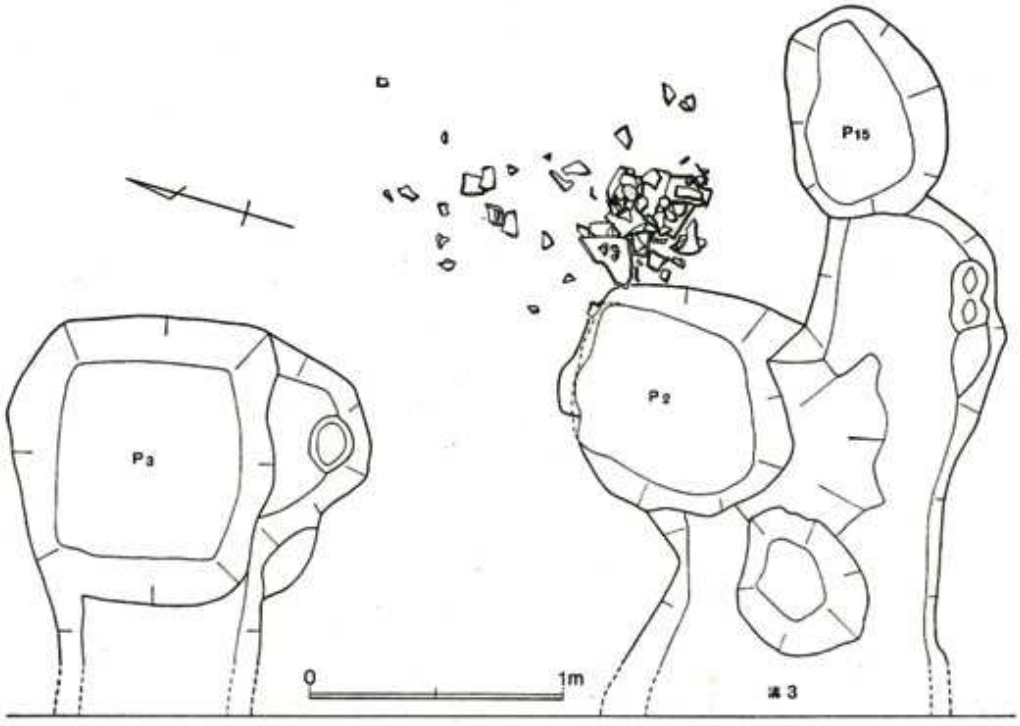
2号掘立柱建物跡（第41図）

1号掘立柱建物跡の南側約6mの調査区中央附近に位置し、3号掘立柱建物跡と接する。調査区の制約及び攪乱のために全体の規模は不明だが、桁行3間（＋α）、梁行2間の東西棟の建物と考えておく。主軸方位はN—70°—Eを示し、1号掘立とも同一軸である。

北側桁行のP_3、P_4間、P_5、P_6間は浅い溝で連結し、所謂「溝もち」掘立の特徴を備えている。

柱穴の掘り方は長径90～110cm、短径70～100cmの方形もしくは不整方形プランを呈し、深さは70～90cmに達する。掘り方はロームブロックを混在する土で埋め戻され、非常に堅く突き固められている。P_1、P_4、P_6では径20～30cmの円柱状の柱痕が明瞭に検出された。柱間寸法は梁行が220cm、桁行210～220cmと考えられる。

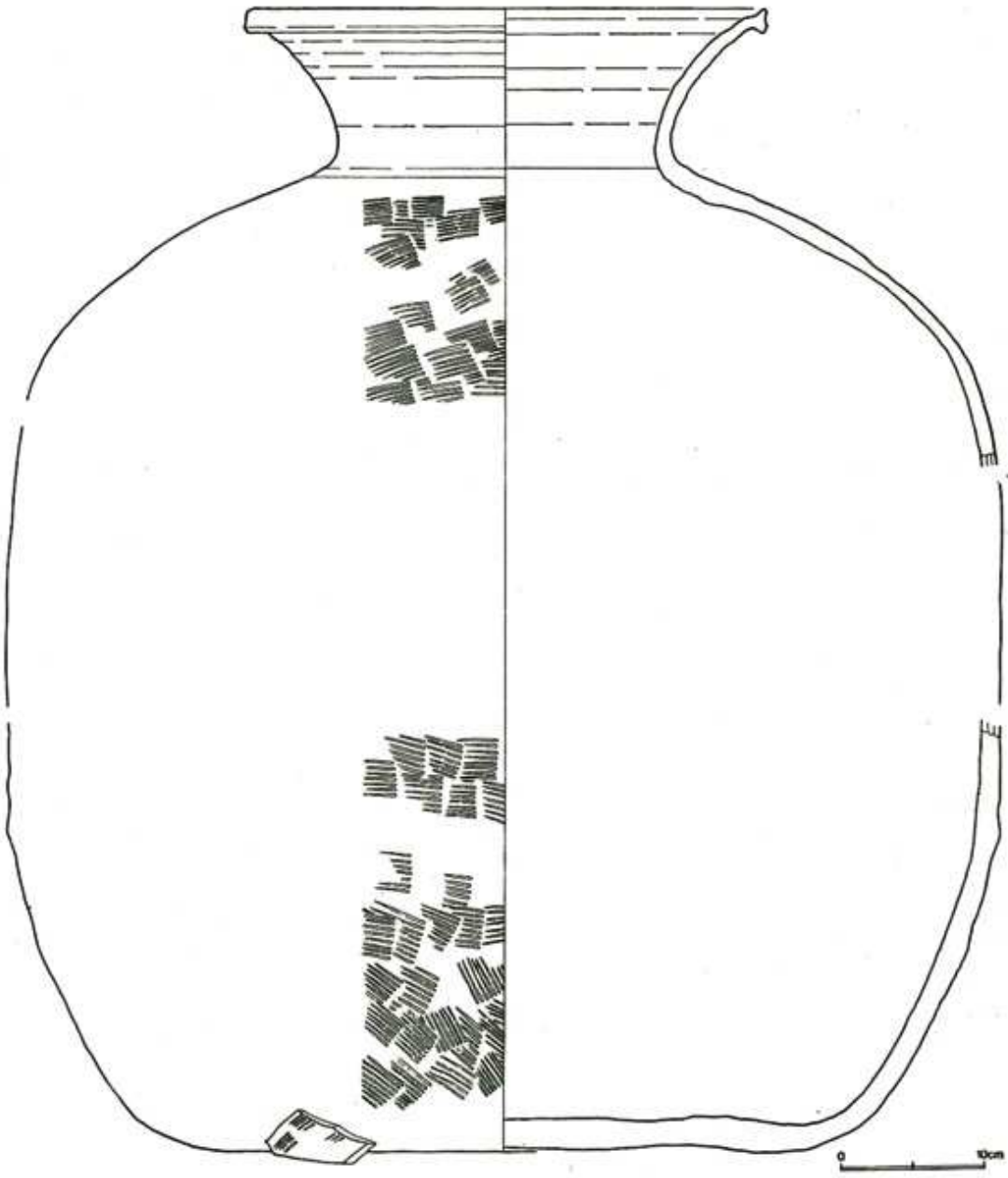
出土遺物は少ないが、柱穴掘り方及び柱穴を連結する溝部分より土師器坏、甕、須恵器甕等の細片が検出されている。またP_2東側の確認面及びそれより浮いた高さで須恵器大甕と礫1個が検出された。これはあたかも据え置かれていたものが（故意に？）破砕されたかのような状況で出土しており、破片の一部は2号掘立柱建物跡P_2掘り方の上面にも散布していた（第142図）。このことから須恵器大甕は2号掘立に伴うものかまたは掘立廃棄後に位置づけられ、掘立柱建物の時期を限定する材料ともなろう。



第42図　2号掘立柱建物跡東側須恵甕出土状況

2号掘立柱建物跡東側出土遺物（第43図）

須恵器大甕。口径34.8、推定高80.5cm。底部は歪み著しく凹凸あり。須恵器甕片熔着。口縁横ナデ。胴部外面平行叩き、部分的にナデ消す。内面ナデ。叩きあて具痕は残らない。胎土C、D、E含。青灰色。焼成良好。口頸部1/2、胴部下位4/5残。胴部中位欠失し、その上下は接合しない。



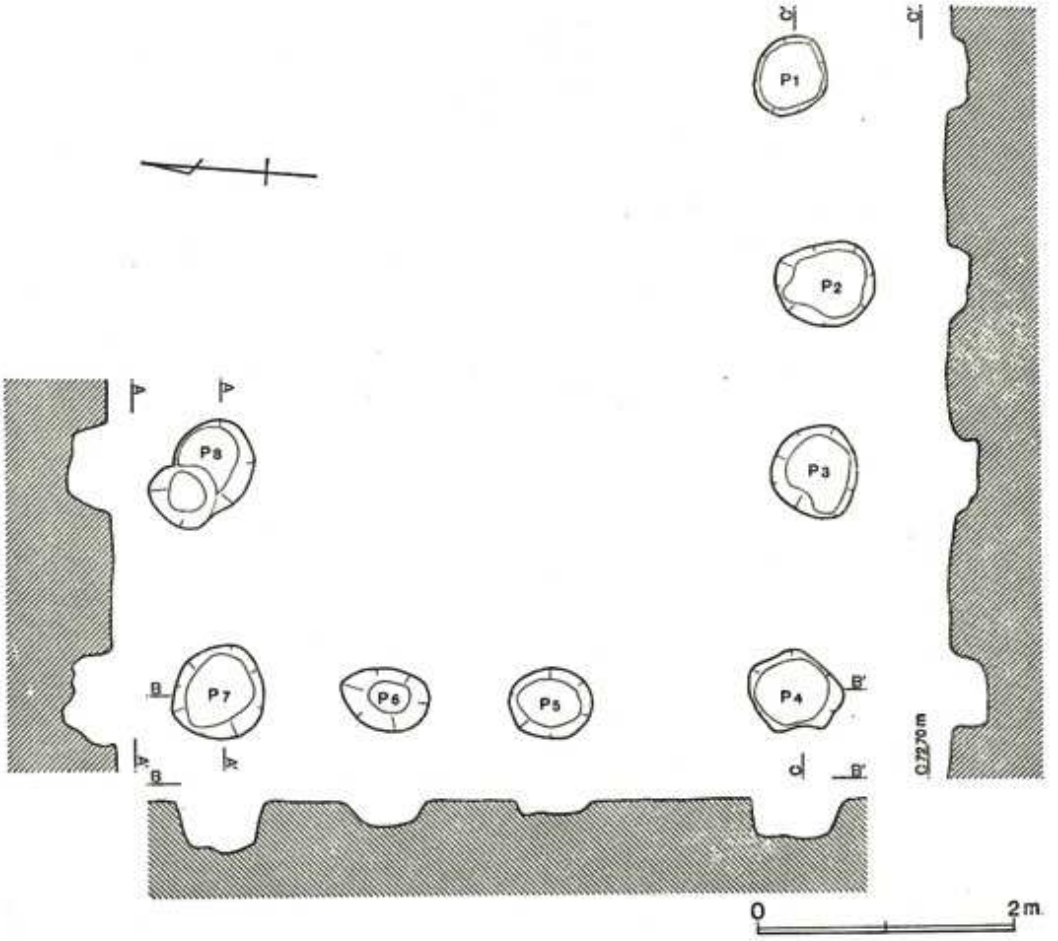
第43図　2号掘立柱建物跡東側出土遺物

3号掘立柱建物跡（第44図）

2号溝跡とともに調査区で最も東南寄りに位置する。南北列3間、東西列3間分が検出された。P_1北側に柱穴は存在しないことから、調査区東側に広がる桁行4間以上の東西棟の建物跡と考えられる。しかしP_1東側の柱穴は2号溝跡により破壊されたと考えられ、全容は不明とせざるを得ない。また調査時には建物跡西側にあるP_{11}～$_{13}$をも3号掘立に含めて考えていたが、間隔が不規則であることや柱穴深度が著しく異なることから除外した。主軸方位はN—85°—Eを指す。

柱穴は調査区中央附近の建物跡とは異なり、不整円形を呈し、径50～80cmを測る。深さはP_4、P_7の隅柱とP_8が30～40cm、その他は20cm以下と全体的に浅く、底面の形状も凹凸が目立ち一定しない。柱穴の並びは妻柱穴は直線的に揃うが、側柱のP_2、P_3はやや外側に膨む傾向にある。

柱間距離は、桁行160～180cm、梁行130～200cm前後とばらつきが大きい。特に梁行で顕著でP_4、P_5間が広く200cm、P_5～P_7間は130cm前後と間隔が詰まっている。覆土はロームブロック混りの黒褐色土で構成され、柱痕の確認されたものはない。



第44図　3号掘立柱建物跡

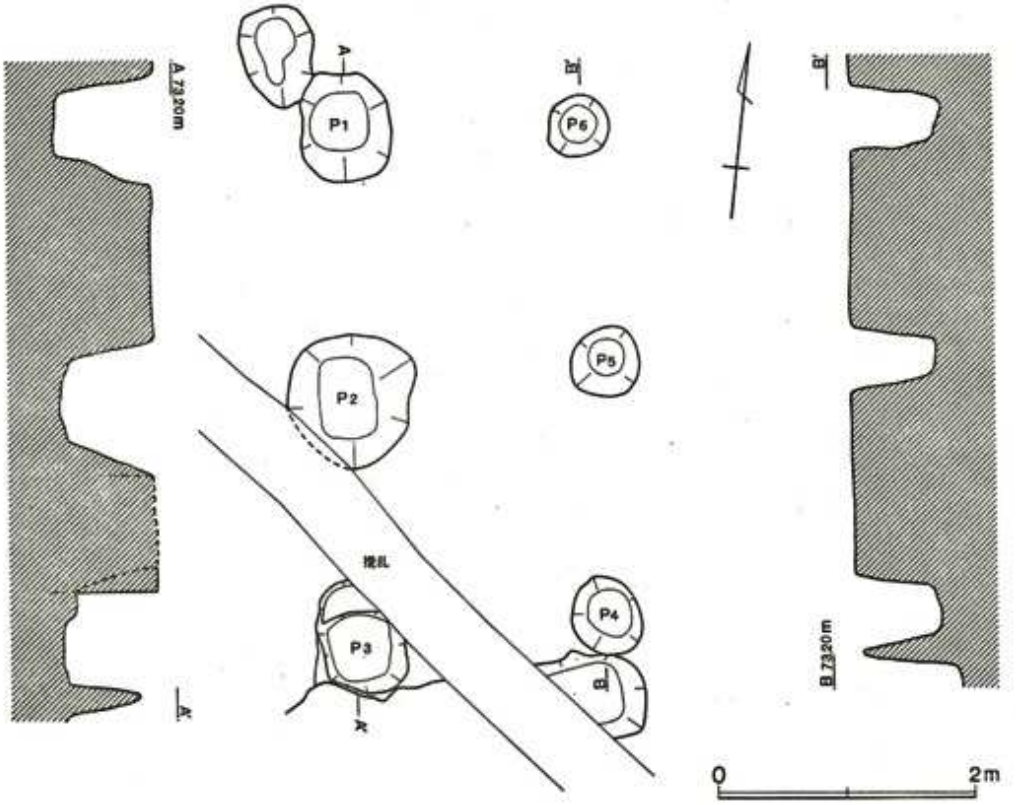
出土遺物には土師器細片が微量あるだけで、時期は明確にし得ない。ただ先述したように桁行柱穴が2号溝跡により破壊されたと考えられることから、2号溝跡よりも古く位置づけられて良いものと思われる。

4号掘立柱建物跡（第45図）

調査区中央附近の1号、2号両建物跡に狭まれた間に位置する。P_1西側に柱穴が検出されない点にやや疑問もあるが、一応掘立遺構と考えられる。南北2間、東西1間分の検出に留まり全体の規模は不明である。南北列に直交する方位を主軸とすればN—83°—Eとなる。

P_1～P_3は2号掘立柱建物跡の柱穴掘り方と共通する大型で方形の柱穴で、75～80cmの深さを有する。P_4～P_6はP_1～P_3に比して小型（径50cm前後、深さ65～70cm）で円形の柱穴であり、廂柱穴と考えられよう。身舎に相当するP_1～P_3はローム・ブロック混りの土で埋められ、堅く突き固められている。柱抜き取り痕はP_2で確認されたが、2号掘立柱建物跡の様に明瞭ではない。またP_3、P_4は2号掘立柱建物跡と接するが、建物相互の重複関係は不明である。

出土遺物の量は少ない。P_1よりかえりを有する須恵器蓋口縁部片と土師器坏片、P_2より須恵器甕片、P_3より土師器坏口縁部片が検出されたがいづれも細片で実測し得るものはない。



第45図　4号掘立柱建物跡

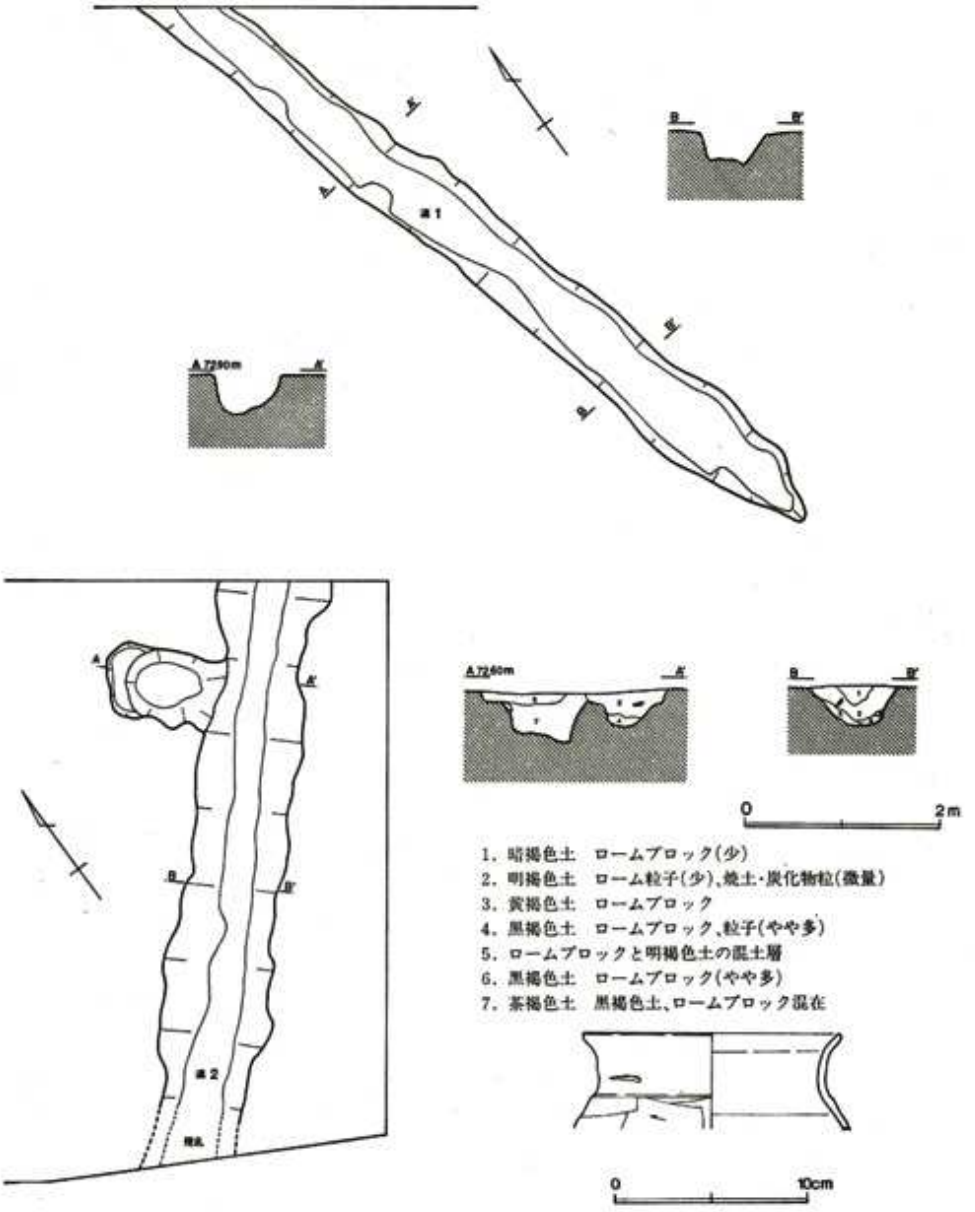
八幡B

1号溝跡（第46図）

2F～1Hにかけて検出された。上幅は60～90cmを測り、ほぼ直線的に南北にはしる。底面は凹凸が激しく一定しない。覆土中より近世のものと思われる天目茶碗片が出土した。

2号溝跡（第46図）

A区に位置し、南西から北東に向け延びる。幅は一定せず0.7～1.2mを測り、北側に一ヶ所土壙



第46図　1・2号溝跡、2号溝跡出土遺物

様の突出部をもつ。この突出部を含め溝全面に亘り、拳大程度の大きさの礫が投棄されたような状況で多量に検出され、それらに混じって土師器坏、甕などの破片が出土した。なおこの溝跡は3号掘立と重複関係にあるが、礫の出土状況からみても前者の方が新しいものと考えられる。

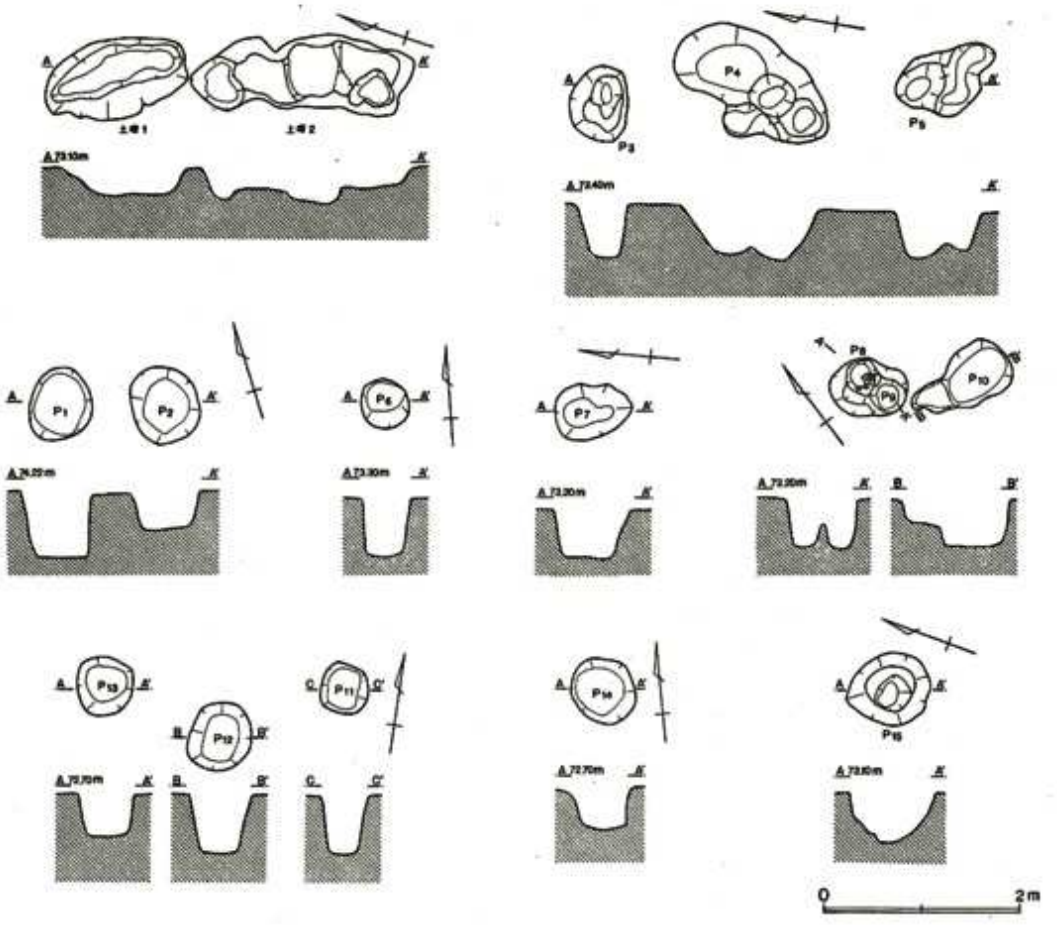
2号溝跡出土遺物（第46図）

土師器台付甕口縁部。推定口径13.3cm、残存高5.0cm。口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラケズリ。胎土にA、B、C、D、F含む。焼成普通。暗茶褐色。口縁部⅓残。

1・2号土壙、ピット（第47図）

1、2号土壙は1～2Ⅰ区に位置し、両者はほぼ接する。プランは隋円形に近い不整形を呈し、底面は凹凸が顕著で一定しない。遺物は土師器坏、須恵器の坏と蓋の細片が少量検出された。

ピットは掘立柱穴以外のものを図示したが、P_7とP_8は1号掘立の廂柱穴の可能性も捨て切れない。逆にP_{11}～$_{13}$は当初3号掘立の一部と考えたが、列が不揃いで深さも異なるので除外した。



第47図　1・2号土壙，ピット

V　熊野太神南遺跡の調査

1.　遺跡の概観

熊野太神南遺跡は上里町嘉美1533―1他に所在し、八幡太神南遺跡と今井遺跡群G地点とに狭まれた地点に位置する。調査区域は道路により2分割され、その北西側をA地点、南東側をB地点と呼称する。遺跡の標高は73.5m前後を測り、ほぼ平坦な台地上に占地する。

発掘調査は、昭和54年度、県文化財保護課により道路拡幅部を対象に実施された。調査方法はグリッド方式に基づく。狭長な調査区の長軸に平行して10m毎、それと直交して3m（A地点）、2m（B地点）間隔に杭を打設し、10×3m（A地点）、10×2m（B地点）を基準とするグリッド方眼を設定し、調査を進めた。なお全測図のなかで調査区枠外の数値は第K系の国家座標値を示す。

A地点より検出された遺構には、奈良～平安時代を中心に機能したと考えられる大溝跡1条の他土壙12基を数える。

大溝は八幡太神南遺跡でも検出されているが、両者とも上流で児玉工業団地内の将監塚遺跡で調査された大溝跡と合流するものと推定される。特筆すべき遺物として墨書土器がある。大溝覆土中より出土したもので土師器坏の底部に「□間郡」と判読し得る文字が記されていた。この大溝北側からは土壙が群在して検出された。これらは何れも不定形をなし、底面の凹凸も顕著であるところから人為的な掘り込みとするには疑問も残る。隣接する八幡太神南遺跡にはこの種の土壙はみられず、大溝との関連で理解すべきであろう。

B地点検出の遺構には真間期の竪穴住居跡1軒、土壙4基、ピット2本がある。これらの遺構は調査区中央からやや東寄りの地点にあり、大溝に近い両側には遺構は分布していない。

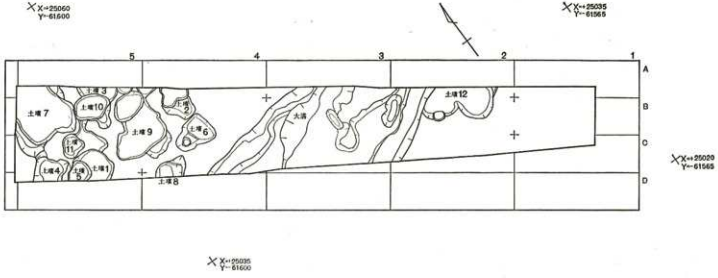
2.　A地点の遺構と出土遺物

大溝跡（第49図）

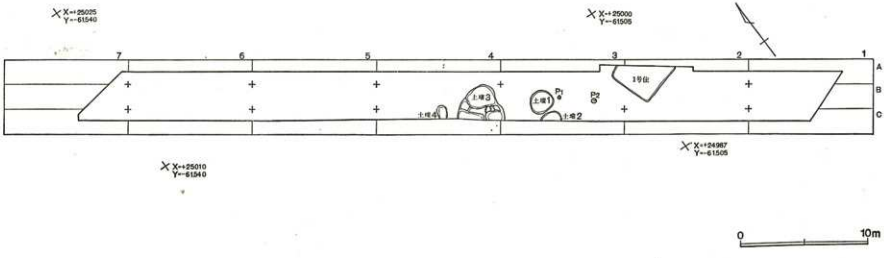
調査区中央部に位置し、斜めに横断する形で検出された。流路方向は調査区が狭いため明確ではないが、ほぼ南西から北東方向を向くものと思われる。上幅約10m、深さは地表面より約2mを測る大規模な溝跡で、ローム層下に堆積する砂礫層を掘り込んでいる。底面の形状は凹凸があり一定しない。覆土の中～下層には砂礫の堆積が認められ、当時も砂礫を運搬する程度の水流があったことを裏付けている。また土層観察によれば、数度に亘り流路の変更が行なわれた様相が窺われる。このことは現在の溝跡は溝掘削当時のものではなく、度重なる流路変更による最終的な姿を示すものと捉えることができよう。

出土遺物は土師器坏、甕、壺、須恵器坏、瓶などがあるが。磨滅している例が多い。特筆すべき遺物として大溝トレンチより出土した墨書土器があげられる。これは土師器坏の底部外面に「□間

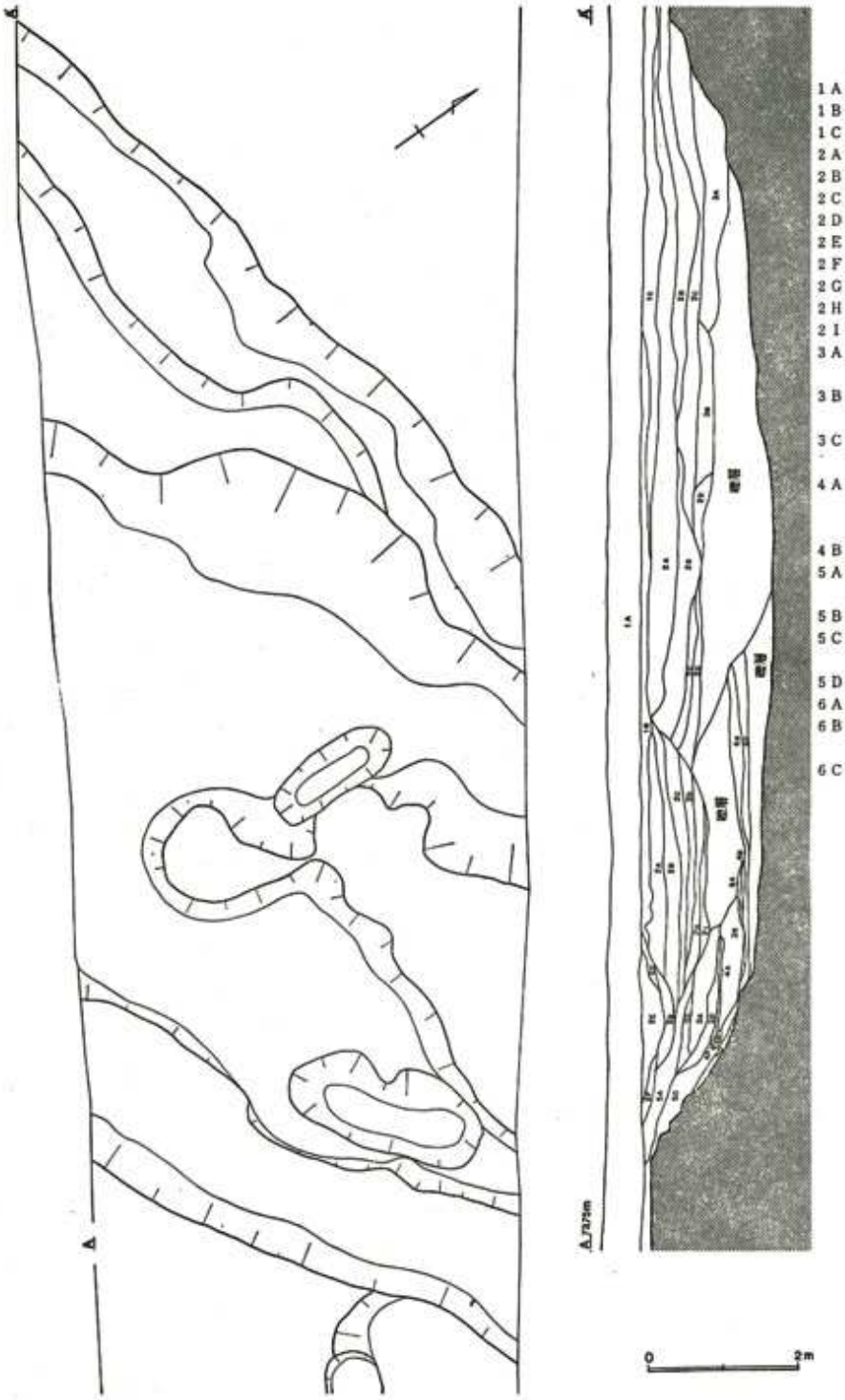
A 地 点



B 地 点

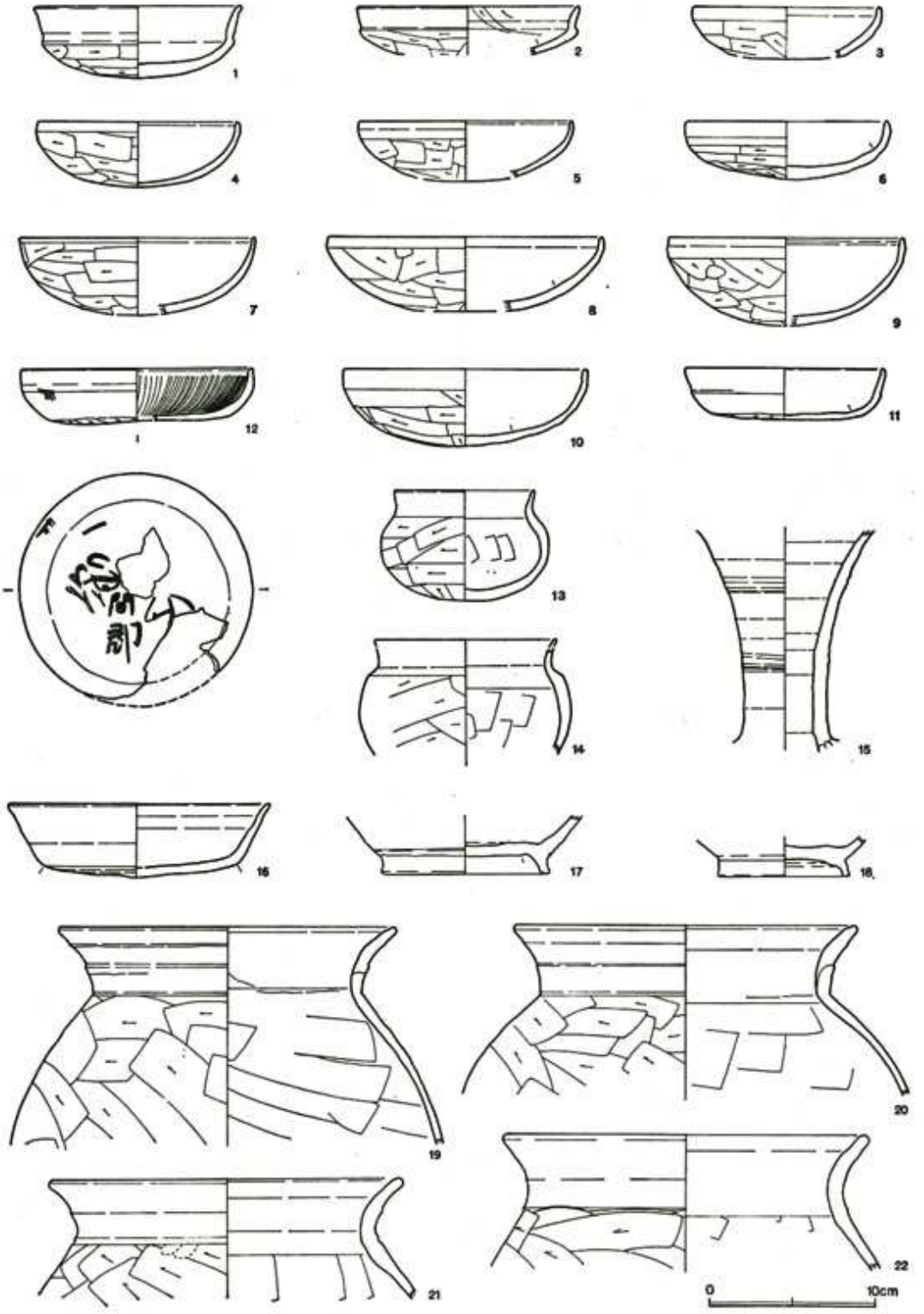


第48図　熊野太神南遺跡全測図



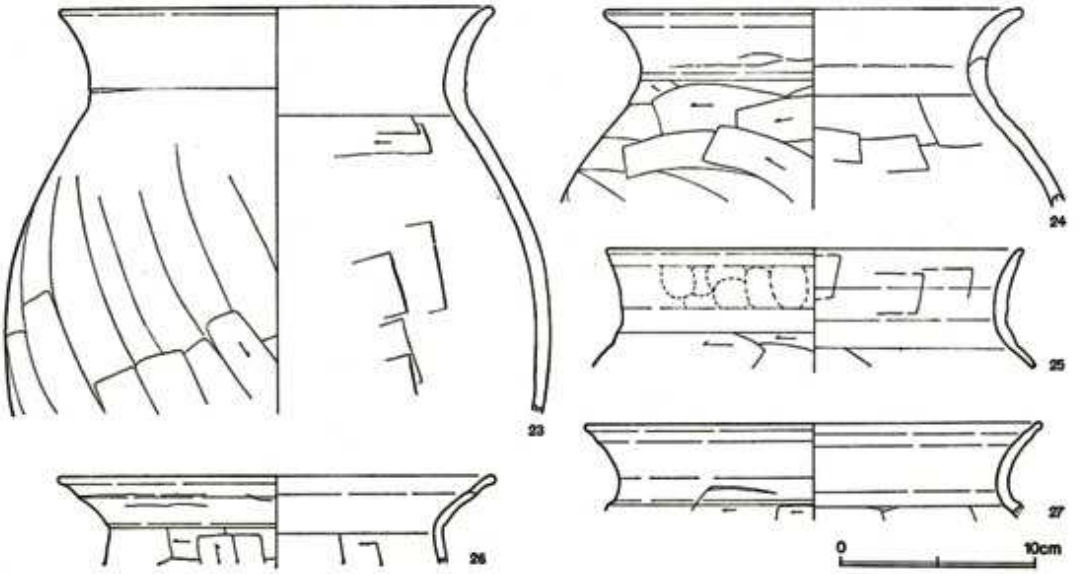
1A　黒褐色土　表土
1B　黒褐色土　やや粘質
1C　黒褐色土
2A　茶褐色土　火山灰(多)、粘質
2B　茶褐色土　火山灰(少)
2C　茶褐色土　細砂(多)粘性弱い
2D　茶褐色土　粘性強い
2E　茶褐色土　0.5～1cmの礫(多)
2F　茶褐色土　礫含まず、粘性(強)
2G　茶褐色土　2Cに近似
2H　茶褐色土　2Bに近似
2I　茶褐色土　小礫(少)
3A　暗茶褐色砂質土
　　茶褐色土(少)混在
3B　暗茶褐色砂質土
　　鉄分が縞状に集積
3C　暗茶褐色砂質土
　　粘土粒(少)含む
4A　黒褐色砂質土
　　黒色砂で構成される、粘土粒(少)
4B　黒褐色砂質土　粘土粒(少)
5A　暗茶褐色土　火山灰(少)、粘性強い
5B　暗茶褐色土　火山灰(少)
5C　暗茶褐色土　火山灰、ローム粒(少)、粘性強い
5D　暗茶褐色土　ローム(多)
6A　暗灰色粘質土
6B　暗灰色粘質土　縞状の鉄分集積層含む
6C　茶褐色土　酸化砂質土主体

第49図　大溝跡



第50図　大溝跡出土遺物 (1)

郡」と判読できる文字が記されているもので、この文字以外にも墨痕が認められるが判読不能であった。この土器の正確な出土位置は不明だが、あまり磨滅した様相は認められない。



第51図　大溝跡出土遺物(2)

大溝跡出土遺物観察表（第50・51図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	(12.4)		4.5	ABCE	橙褐色 2	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。内面上位磨滅。	西側砂利層下。3/8。
坏	2	(13.3)		(3.0)	ABEF	橙褐色 2	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。	覆土上層。1/4。
坏	3	(11.2)		(3.2)	ABCD	橙褐色 1	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。器面磨滅。	礫層。1/6。
坏	4	(12.0)		4.0	F（少）ABCDE	橙褐色 1	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。器面磨滅。	西岸。1/4。
坏	5	(12.8)		(3.7)	ABCDE	橙褐色 2	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。器面磨滅。	西岸。1/3。
坏	6	12.4		3.5	BC	橙褐色 2	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。	西側砂利層下。3/8。内面赤褐色。
坏	7	(14.2)		(4.8)	ABCE	橙褐色 1	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。器面磨滅。	覆土上層黒褐色土中。1/2。
坏	8	(16.6)		(4.6)	BCE	橙褐色 2	体部外面筒削り，内面筒ナデ。口縁部横ナデ。	覆土上層。1/6。
坏	9	(14.2)		5.4	ABCDE	橙褐色 1	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。器面磨滅。	覆土。1/4。
坏	10	14.6		4.7	CF	橙褐色 2	体部外面筒削り。口縁部横ナデ。	覆土。2/3。

熊野A

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	11	12.0	9.1	3.1	BC	褐色 2	底部外面篦削り、内面指頭押圧後ナデ。口縁部横ナデ、内面に及ぶ。	覆土。2/3
坏	12	14.1	11.1	3.2	B(多) F(少) AC	褐色 1	底部外面篦削り。口縁横ナデ。体部外面ナデ。内面底部螺旋体部放射状暗文。	覆土(東トレンチ南方) 4/5。体底部外面墨書あり。
小型壺	13	(8.4)		6.7	BCD	橙褐色 2	体部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	中央部砂利層。2/5。
小型壺	14	(11.0)		(6.5)	ABC	橙褐色 2	胴部外面篦削り。口縁部横ナデ。胴部内面篦ナデ。	西側砂利層下。1/6。
須恵長頸瓶	15			(13.5)	ACDEG	淡灰色 2	頸部内外面横ナデ。二条の沈線を2段施す。	覆土。頸部3/5。
坏	16	15.9		4.5	CE	灰褐色 3	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。底部内面不定方向のナデ。	大溝深部。2/3。内面色調茶褐色。
壺	17	9.9		(3.5)	CE	灰色 2	底部外面篦削り後高台部貼付け。体部ロクロナデ。	覆土。底部完存。内面茶褐色。
高台塊	18	7.8		(2.4)	BCE	灰褐色 2	底部外面回転糸切り後高台部貼付け。体部ロクロナデ。	覆土上層。底部完存。
土師壺	19	(10.3)		(13.2)	ABC	茶褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	中央部砂利層下部。頸部1/3。
壺	20	(20.6)		(9.4)	F(少) ABCE	褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	中央部砂利層下部。口縁部1/6。
壺	21	(21.0)		(7.5)	BCDE	橙褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	中央部砂利層下部。口縁部1/4。
壺	22	(29.0)		(8.2)	ABCD	橙褐色 1	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	西側砂利層下部。1/9。
壺	23	(22.6)		(21.5)	ABCDE。1～2㎜大小石。	淡褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	覆土上層。口縁部1/3。胴部1/3。
壺	24	(21.4)		(10.4)	ABCDE	橙褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	西北部覆土。1/9。
甕	25	(21.4)		(6.2)	ABCE	橙褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部内面篦ナデ外面指頭押え後、横ナデ。	覆土。口縁部1/4。
甕	26	22.4		(4.6)	ABCDE	赤褐色 1	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	覆土。口縁部1/3。
甕	27	(23.4)		(5.0)	ABC	橙褐色 1	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	覆土。口縁部1/4。

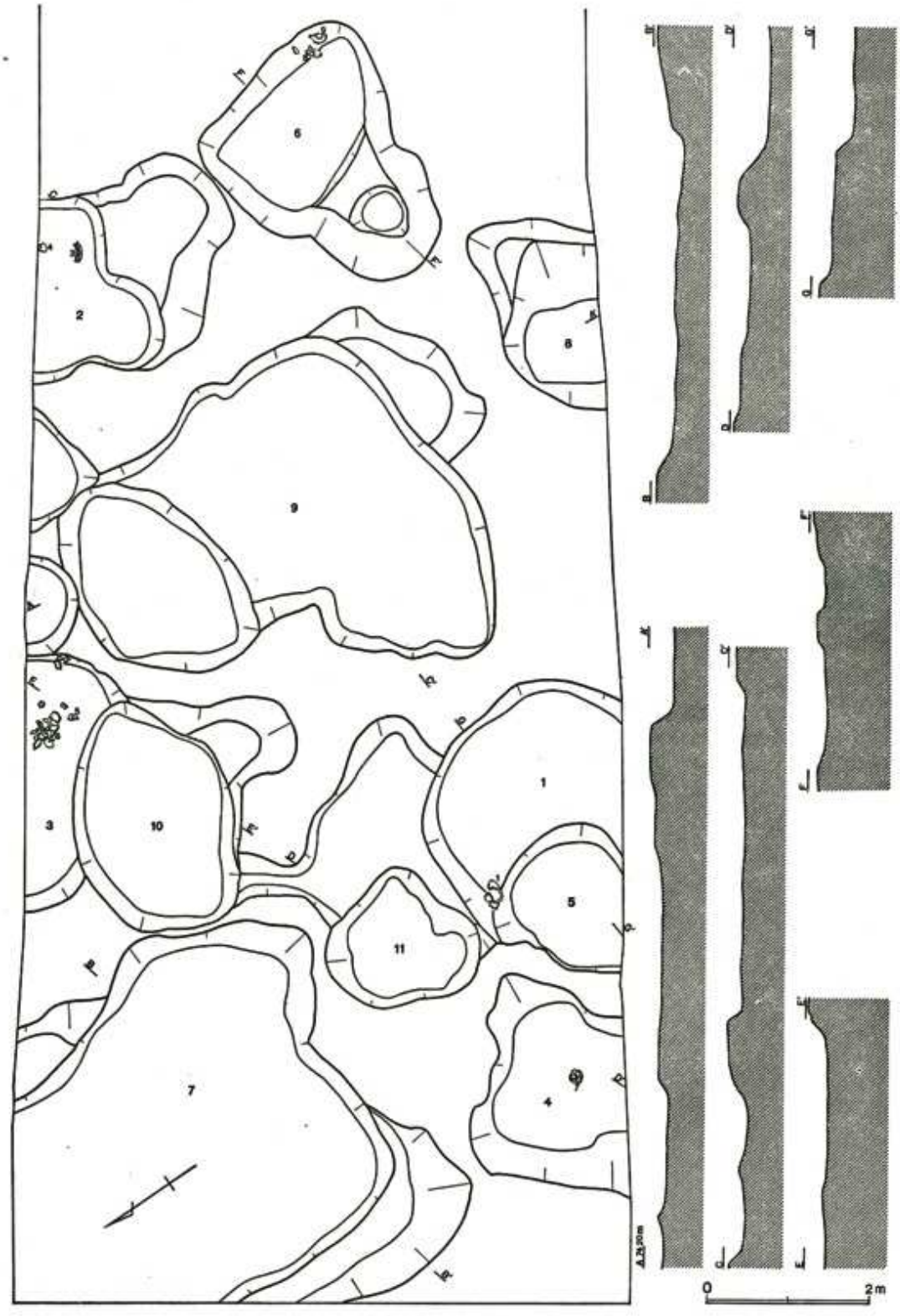
1～12号土壙(第52・53図)

1～11号土壙は大溝北側一帯に群在する。北西に隣接する八幡太神南遺跡には土壙群は検出されておらず、大溝北側の限定された区域にのみ集中して分布するという特徴的なあり方が認められる。

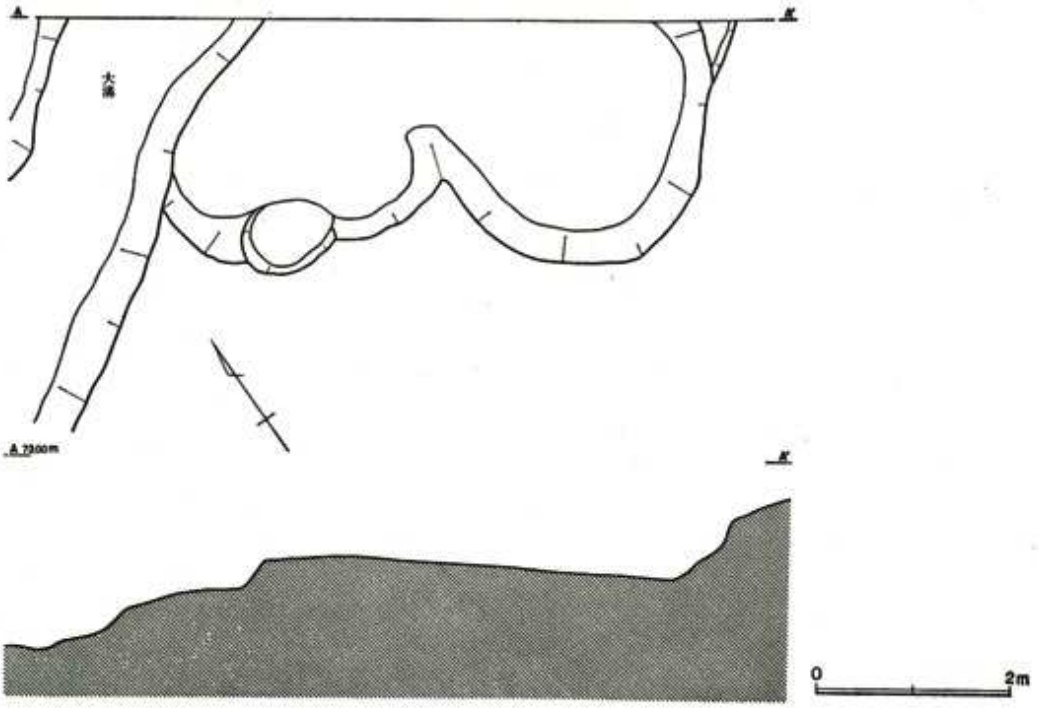
形態及び規模をみると定形化した平面形を示す例は一基もなく、底面も凹凸が顕著であるうえ深さも一定しない。このような点を考慮すれば、土壙群を人為的な掘り込みと見做すには若干疑念が残る。逆に自然地形と断定し得る根拠もないが、大溝との関連性のなかで捉えれば、大溝の氾濫により生じた窪地とする見方もできるかもしれない。同様に12号土壙も単独の土壙とするよりも、むしろ大溝の一部と考えた方が自然であろう。

土壙群の覆土は、ローム粒子混りの暗褐色～黒褐色土を基調とし、焼土粒子を若干含むものとみられる。

出土遺物は少ないが、土師器坏・甕、須恵器蓋や瓶などが検出されている。



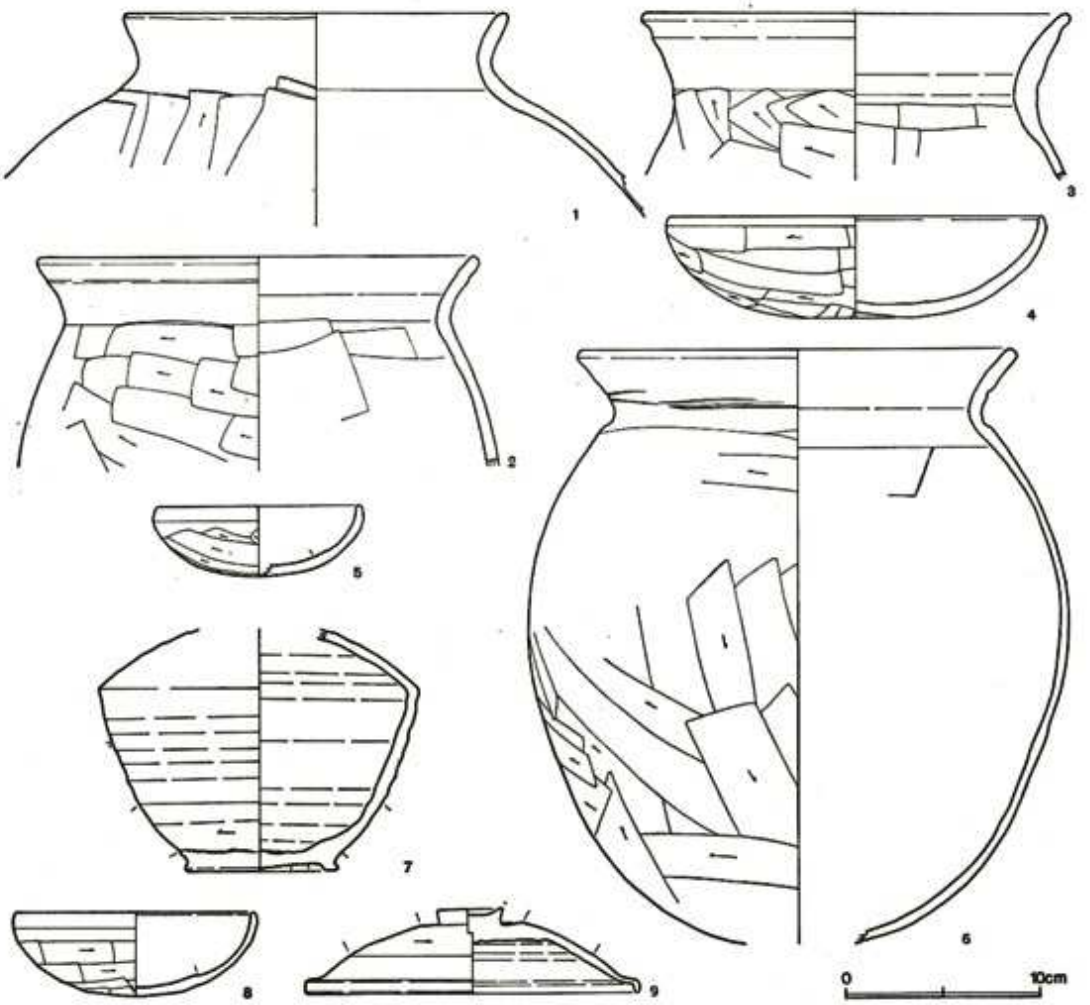
第52図　1～11号土壙



第53図　12号土壙

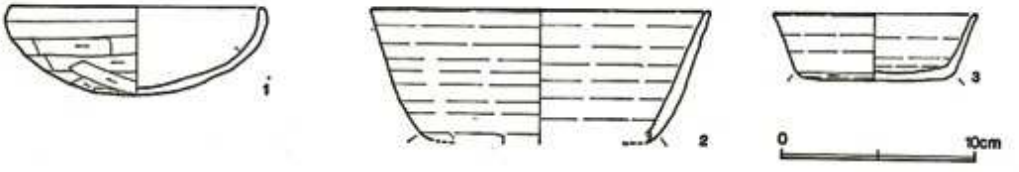
1～4・6号土壙出土遺物（第54図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師壺	1	(20.0)		(8.5)	F（少）ABCDE	橙褐色 1	胴部外面篦削り、内面磨滅。口縁部横ナデ。	土壙1。口縁部 2/20
壺	2	(22.3)		(11.0)	ABCE	橙褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	土壙1。口縁部 1/40
甕	3	(21.6)		(13.7)	ABCDE	褐色 2	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	土壙2No.1。口縁部 1/20
椀	4	(19.2)		(5.3)	BCDF	橙褐色 2	体部外面篦削り、内面磨滅。口縁部横ナデ。	土壙2No.2。1/50
坏	5	(10.4)		3.7	ABCD	褐色 2	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	土壙3No.2。1/20　内面は橙褐色。
甕	6	22.8		(31.0)	砂粒（多）。F（少）ABCD	茶褐色 1	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ、口縁部外面鋭利な工具痕あり。	土壙3No.1。口縁部 2/20 胴部 3/50
須恵瓶	7		7.8	(12.5)	CE（少）	灰色 2	胴部外面下位回転篦削り。底部外面周辺回転篦削り後高台貼付け。中央ナデ。	土壙4。底部完存。体部 1/60 釉がかかる。
土師坏	8	12.4		4.3	AB（多）CDE	橙褐色 2	体部外面篦削り、上位未調整。口縁部横ナデ、内面に及ぶ。	土壙6No.1。1/20
須恵蓋	9	17.2		4.5	ABCD	灰白色	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	土壙6No.2。1/20



第54図　1～4・6号土壙出土遺物

3.　B地点の遺構と出土遺物



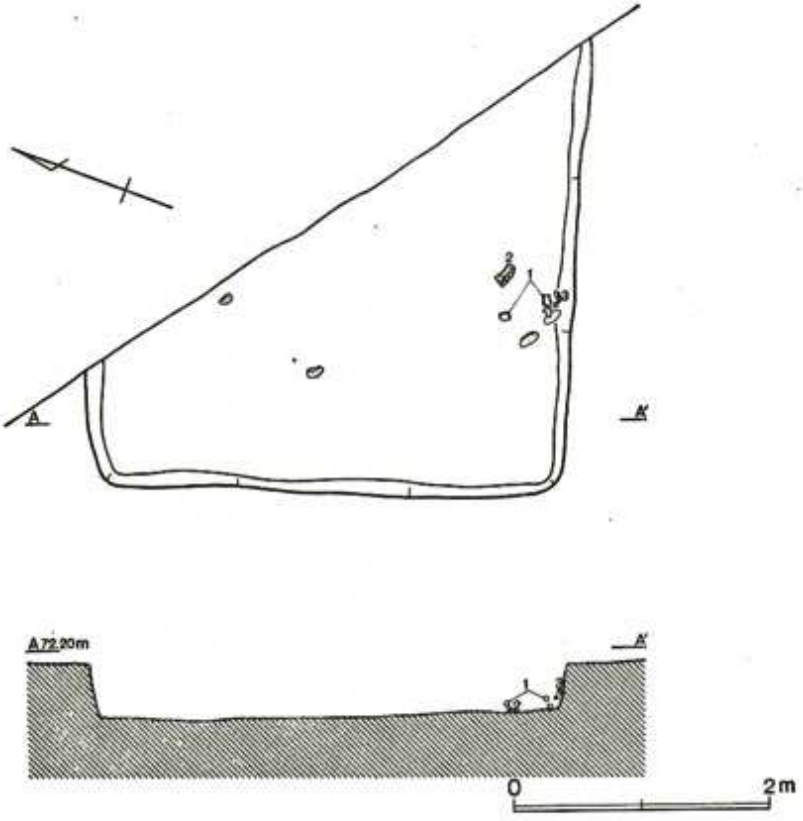
第55図　1号住居跡出土遺物

1号住居跡（第56図）

2A、2B区中心に位置する。住居跡の約1/2が調査された。規模は東西3.56＋αm、南北3.82m、深さ0.42m（北壁）を測り、方形プランを呈すると推定される。主軸方位はN—74°—Eを指す。

床面は平担で堅く踏み固められている。壁も垂直に近い角度で立ちあがる。カマドやピットなどの住居に付属する諸施設は、調査された部分からは検出されていない。

出土遺物は少ない。1～3は南壁際から検出された。



第56図　1号住居跡

1号住居跡出土遺物（第55図）

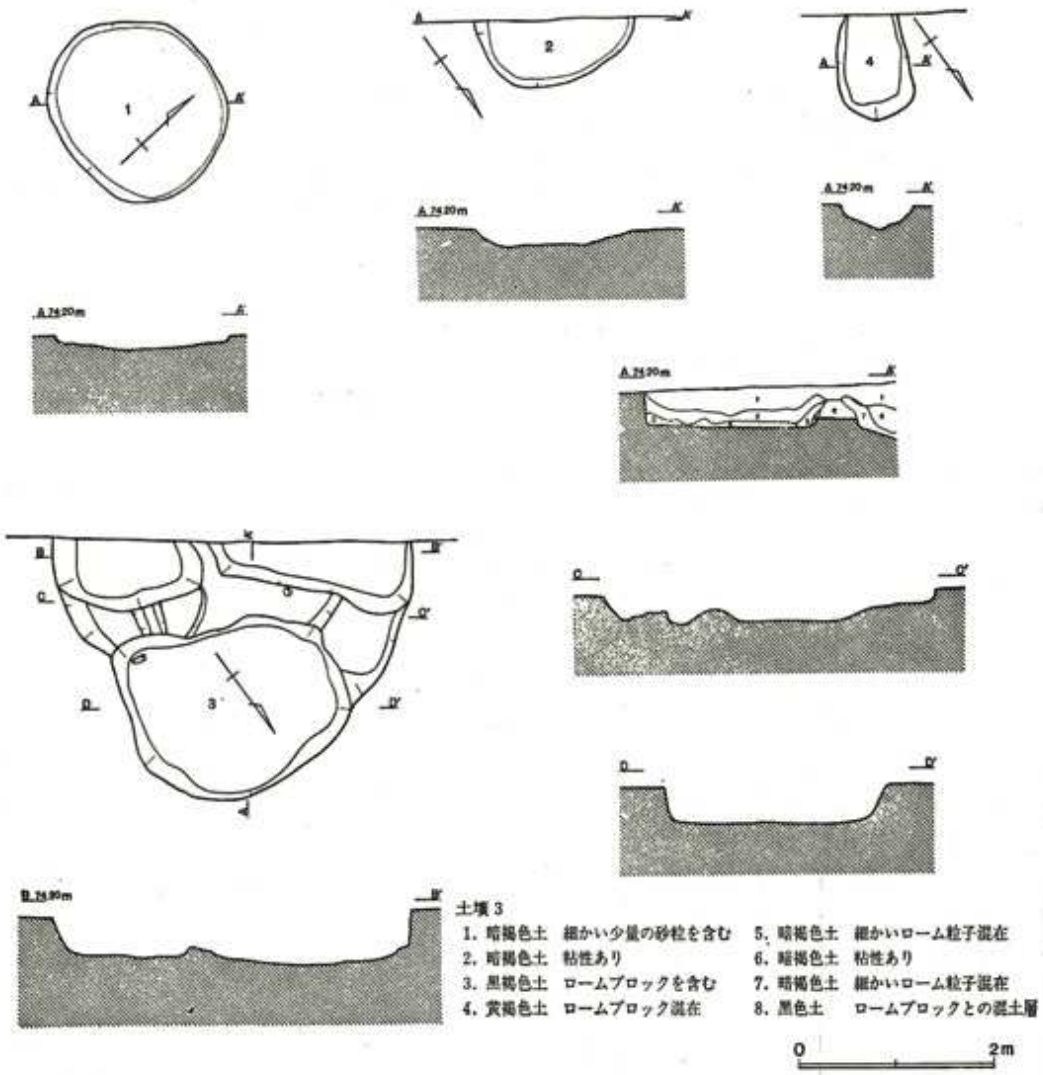
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	13.0		4.6	B（多）ACDE	橙褐色 3	体部外面箆削り、上位未調整。口縁部横ナデ。	№2，4。ほぼ完。
須恵坏	2	(17.5)		(6.9)	D（多、大粒）E	灰色 2	ロクロナデ。体部外面下位箆削り（手持ちか）。	№5。口縁部1/8。器肉色調赤褐色。
坏	3	10.4	7.5	3.5	E（多）D	青灰色 1	ロクロナデ。体部外面下位、底部外面回転箆削り。	№1。3/4。

1～4号土壙・ピット（第57図）

1～4号土壙は調査区中央部の3A、3B、4A、4B区にかけて相互に近接して営まれている。1号土壙は完存するが、2～4号土壙は調査区域外にかかるため全容は不明である。

1号土壙は長径1.92m、短径1.70mのほぼ円形プランを呈する。深さは15cmと浅く、底面の形状は舟底状を示す。2号土壙は1号土壙同様円形プランを呈すると考えられる。残存部径1.66m、深さ20cmを測る。

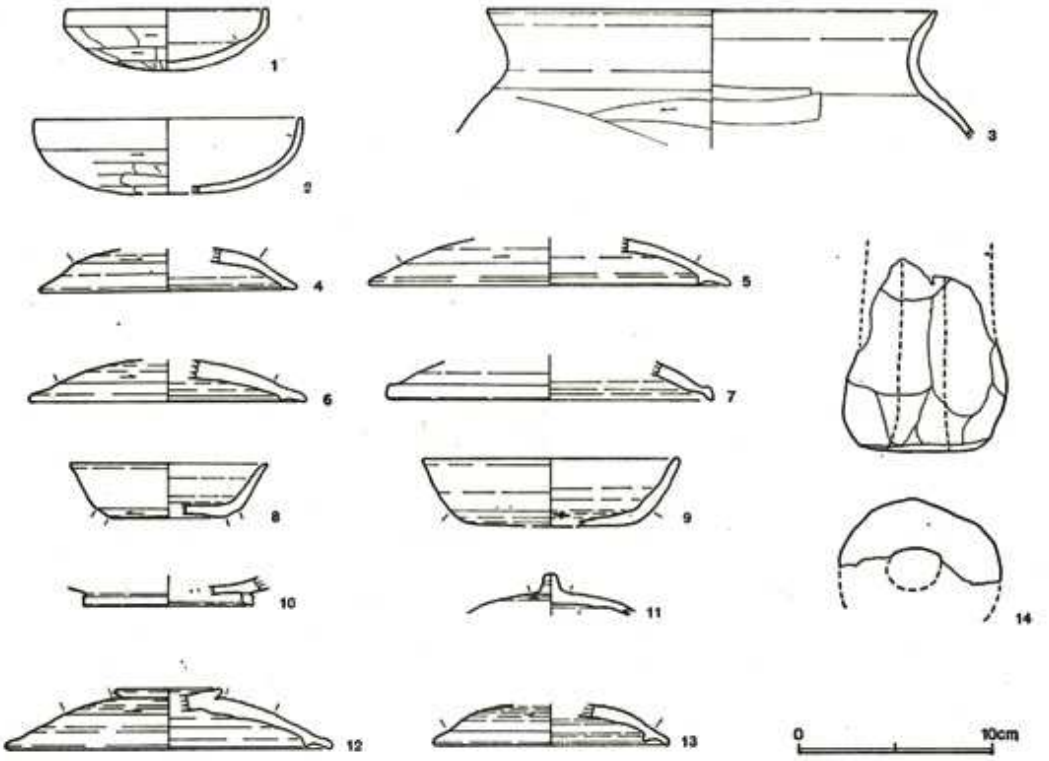
3号土壙としたものは底面の凹凸が顕著で、幾つかの土壙が複合した様な状況を呈する。残存部の規模は3.72m×2.66（＋α）m、深さは部分的に異なるが最深部で56cmを測る。平面形態は不整円形を呈するものと推定される。4号土壙は0.78m×1.10＋αmの楕円形を呈するものと思わ



第57図　1～4号土壙

れ、深さは24cmを測る。その他、1号土壙と住居跡の間に円形ピットが2本検出された。P_1は径28cm、深さ25cm、P_2は径34cm、深さ17cmを測る。

出土遺物は1号土壙から土師器坏、壺、須恵器蓋、坏など最も多く検出された。その他2号土壙から土師器高台付坏、須恵器蓋、4号土壙から羽口、P_1からは須恵器蓋が出土している。

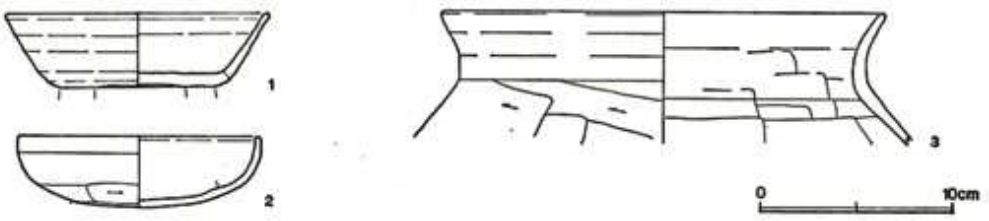


第58図　1～4号土壙、ピット1出土遺物

1～4号土壙、ピット1出土遺物（第58図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	10.4		3.2	ACEF	褐色 2	体部外面篦削り。口縁部横ナデ、体部内面に及ぶ。	土壙1c区。完存。
坏	2	(14.0)		(3.9)	BDEF	橙褐色 1	体部外面篦削り。口縁部横ナデ。	土壙1b区。1/3
壺	3	(23.3)		(6.6)	ABCDEF	褐色 1	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁部横ナデ。	土壙1a区。口縁部1/50。
須恵蓋	4	(13.4)		(2.2)	DE	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	土壙1b区。1/80。接地面は口縁部。
蓋	5	(18.6)		(2.4)	DE	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	土壙1d区。1/50。接地面は口縁部。

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵蓋	6	(14.3)		(2.2)	DE	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	土壙1c区。1/5。接地面は口縁部。
蓋	7	(16.8)		(1.9)	DE	灰色 2	ロクロナデ。	土壙1。1/9。
坏	8	(10.2)	(3.8)	(6.1)	DE	灰色 2	ロクロナデ。体部外面下端回転篦削り、底部外面回転篦起こし。	土壙1b区。2/5。
坏	9	(13.4)	(3.5)	(9.0)	DF	灰色 1	ロクロナデ。体部外面下端、底部回転篦削り。底部内面に「十」の篦書きあり。	土壙1a区。大溝西側砂利層下。1/8。
土師高台坏	10		(8.8)	(1.5)	BDEF（土師器の胎土である）	茶褐色 1	底部外面高台貼付に伴うロクロナデ。内面ナデ。須恵器様の手法を呈す。	土壙2。底部1/5。底部外面中央は磨滅により不詳。
須恵蓋	11			(2.1)	BDEF	灰褐色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。内面ナデ。ロクロ右回り。	土壙2。1/8。磨滅が著しい。
蓋	12	(16.8)		(3.1)	BDE	灰褐色 1	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	ピット1覆土。1/4。
蓋	13	(12.2)		(2.1)	BCDE	灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転（?）篦削り後ロクロナデ。	ピット1覆土。1/5。
鞴羽口	14	残長 (10.1)	外径 8.4	厚さ 3.0	BDF	橙褐色 2	ナデによる成形後、軽い篦削りにより器面調整を施す。	土壙4。1/2。孔径2.4cm



第59図　トレンチ出土遺物

トレンチ出土遺物（第59図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵坏	1	13.7	8.2	3.9	DEG、緻密。	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転糸切り後、周辺回転篦削り。	東トレンチ。3/4。
土師坏	2	(12.5)		3.7	BCEF	褐色 2	体部外面篦削り、上位は未調整。口縁部横ナデ、体部内面に及ぶ。	西トレンチ南方。1/5。
壺	3	(22.8)		(6.9)	ABCDEF	橙褐色 1	胴部外面篦削り、内面篦ナデ後、口縁部横ナデ。	西トレンチ南方。口縁部1/4。

Ⅵ　今井遺跡群の調査

1.　遺跡の概観

今井遺跡群は、本庄市大字今井字原屋敷1033―2他に所在し、熊野太神南遺跡と女堀川の沖積地にある一丁田遺跡とに狭まれた1km余りの間に存在する遺跡群の総称で、北廓遺跡（A地点）と、B～G地点の各遺跡が含まれる（付図1参照）。

地形的にみると、神流川の開析によって形成された洪積扇状地上に立地し、標高は最も高いG地点で73.5m、最も低い北廓遺跡で70m前後を測る。表土下にはローム層が発達し、各遺構はそれを掘り込んで構築されているが、水田面（一丁田遺跡）に接する北廓遺跡の東半部では、ローム層が削られ、暗褐色を呈する粘質の沖積土壌の堆積が認められた。

発掘調査は道路拡幅部の試掘調査結果に基づき、昭和57年度（北廓遺跡）から昭和58年度（今井遺跡群B～G地点）にかけて実施された。なお、遺跡名称に関しては、調査区が非常に長く、地形的差異が殆どないこと、また奈良～平安時代を主体とする遺構群が、調査区のほぼ全域に亘って分布しており、明確に区別し得ないことから、当初、便宜的に付したA～G地点の名称をそのまま使用した。但し、A地点は調査時に北廓遺跡の名を冠したため、それに従った。

調査区域は、西今井の集落内をぬける幅12m、長さ1kmに及ぶ生活道路を対象とするため、交通確保の必要上、道路幅の片側づつを数区域に分割して調査を実施するという変則的な調査を余儀なくされた。このため道路中央から両側に跨って検出された遺構は2度に分割して調査されている。

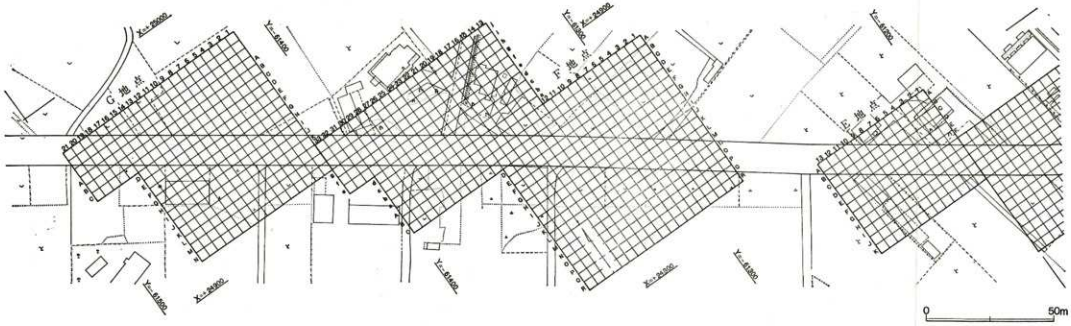
調査方法は、グリッド方式に基づく。北廓遺跡については、路線に平行する5×3mを基本とするグリッドを設定した。一方B～G地点においては、第Ⅸ系の国家座標に軸を揃えた4×4mのグリッド方眼を設定し、調査区全域をカバーした。

今井遺跡群（北廓・B～G地点）において検出された遺構には、竪穴住居跡35軒、掘立柱建物跡6棟、溝跡37条、粘土採掘壙3基、土壙56基、井戸跡1基などがあるが、調査区内に敷設されているガス管及び水道管、下水溝等の撹乱が激しく遺構の遺存状態は良好ではなかった。

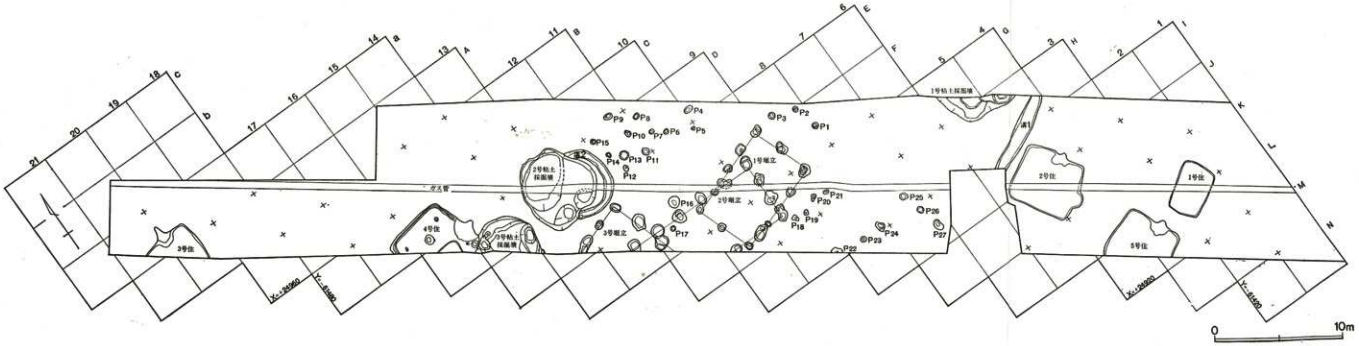
竪穴住居跡は調査区のほぼ全域から検出されたが、各住居跡は数軒程度のまとまりを示しつつも、全体的には散在的な分布傾向が窺える。時期的には、7世紀後半から10世紀にかけて営まれた集落の一部と推定され、掘立柱建物跡や井戸跡もそれに伴うと考えられる。これらの住居跡群のあり方は、その継続時期も含めて、児玉工業団地内の将監塚・古井戸遺跡で検出された奈良～平安時代の集落と共通する様相が認められる。

出土遺物は土師器、須恵器の日常什器が主体を占めるが、B地点1号住居跡から青銅製帯金具、D地点4号住居跡からは鉄製鍵と灰釉段皿が検出された。またG地点2・5号住居跡からは、かえりをもつ須恵器蓋など7世紀後半代に比定し得る土器群が鞴羽口や鉄滓とともに出土している。

その他、中世後期頃と推定される溝跡が北廓遺跡から検出されている。11号溝跡は直角に屈曲する規模の大きなもので、断定はできないが、館跡の一部である可能性も考えられる。



第60図　今井遺跡群E～G地点グリッド配置図



第61図　今井遺跡群G地点全測図

2. G地点の遺構と出土遺物

G地点遺跡は、今井遺跡群のなかで最も西寄りの本庄市大字共栄に所在し、熊野太神南遺跡B地点に隣接する。遺跡の標高は73.5m前後を測る。

調査によって検出された遺構は、住居跡5軒、掘立柱建物跡3棟、粘土採掘壙3基、溝跡2条の他、ピット群がある。

住居跡は1・2・5号住居跡と3・4号住居跡の2群に分けられるが、比較的近接した時期に営まれている。特に2号・5号の2軒の住居跡からは、須恵器坏・盤・かえりをもつ蓋と土師器坏・甕類などの土器がまとまって検出されている。

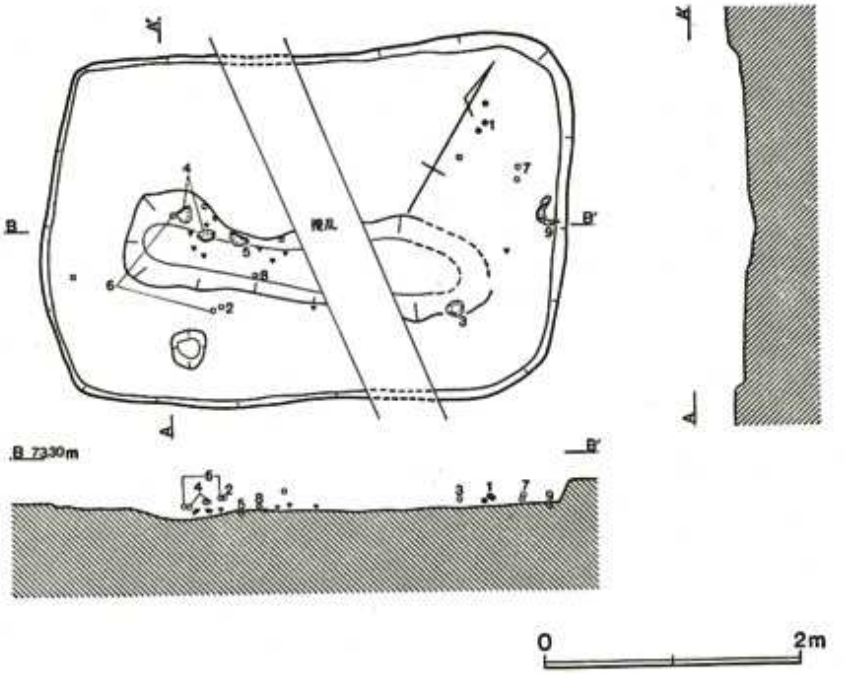
掘立柱建物跡は、調査区中央部より3棟重複して検出され、いずれも不整方形を基調とする、比較的大型の掘り方を有する。そのなかで3号建物跡は所謂「溝もち」掘立となる可能性がある。

粘土採掘壙と考えられる土壙は3基検出され、1基は住居跡の一部を破壊して掘られていた。

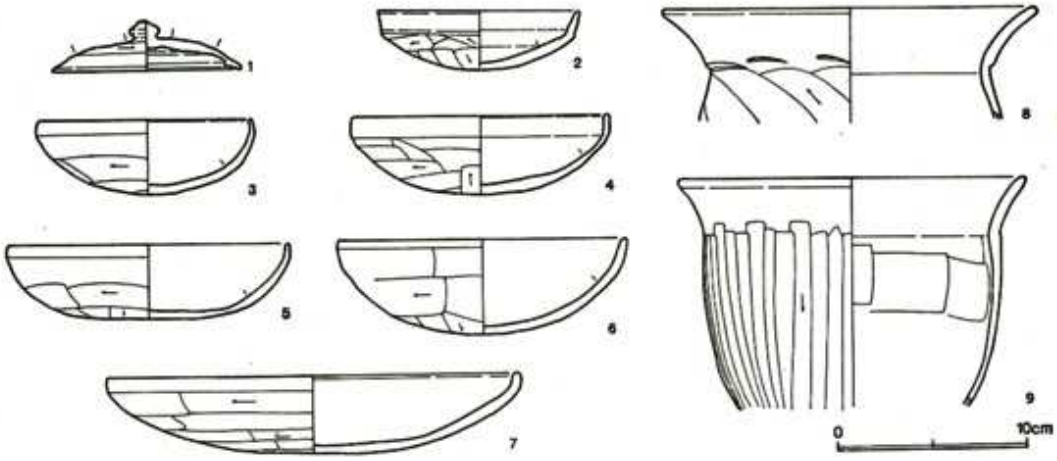
1号住居跡（第62図）

2K・2L区中心に位置する。4.15×2.9mのやや不整な隅丸長方形を呈し、壁高は東壁部分で18cmと浅い。主軸方位はN—58°—Eを示す。床面は比較的平坦だが、全体的に軟弱で堅く踏み固められた様な箇所はみられない。また、中央部に浅い溝状の落ち込みが認められ、遺物の多くは、その周辺より出土している。

この住居跡の特徴は、カマドが設置されていないことで、一般的な住居跡とは異なる機能を想定することも可能であろう。出土遺物には土器類の他、鞴羽口1点、鉄滓数点（462g）がある。



第62図　1号住居跡



第63図　1号住居跡出土遺物

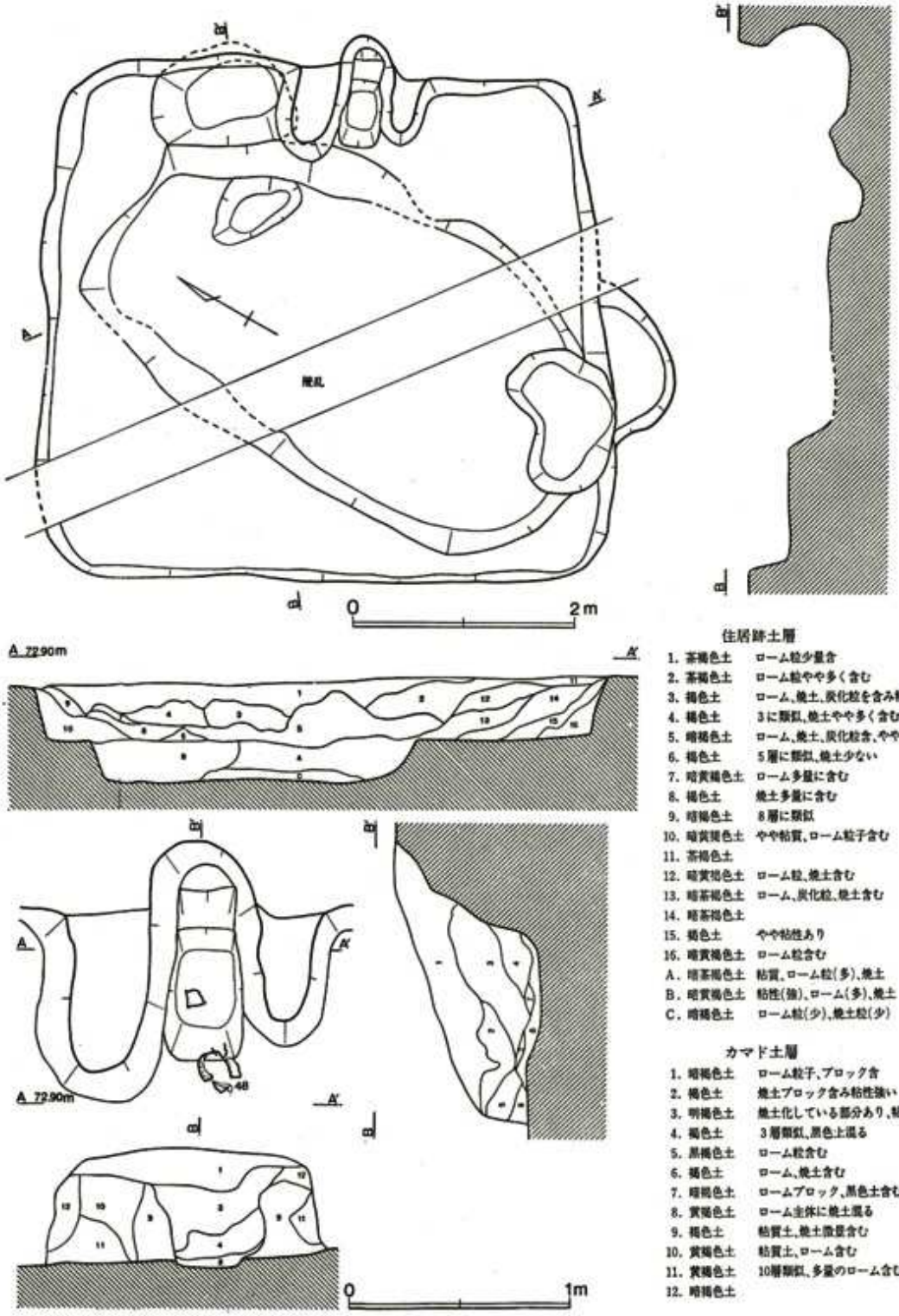
1号住居跡出土遺物（第63図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵蓋	1	(10.0)		2.6	ADE	青灰色 2	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№7。1/2。ロクロ右回り。
土師坏	2	10.5		3.2	BCF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№2。完存。
坏	3	11.1		4.9	ABCDF・砂粒	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№18。ほぼ完。
坏	4	(13.4)		4.2	BC	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№6，8。1/2。
坏	5	14.7		3.9	ABCDF	茶褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整、内面はナデ。	№5。2/3。
坏	6	(15.2)		5.0	ACF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№2，8。2/3。
皿	7	21.6		4.1	BC	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面は磨滅により調整不明瞭。	№4。2/3。
甕	8	(19.5)		(5.9)	BCDF	褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、内面は篦ナデ。	№3。口縁部1/3。
甕	9	(18.0)		(12.2)	ABCF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、内面は篦ナデ。	№2。1/2。

2号住居跡（第64・65図）

4J・5J区を中心に位置する。住居中央部をガス管により破壊されているが、ほぼ全体が検出された。5.08m×4.83mの方形プランを呈し、床面までの深さは、南壁部で54cmを測る。主軸方位はN—61°—Eを指す。

床面は全体的に軟かく、住居面積の大半を占める大きな楕円形の土壙が床面下に検出された。これは、5.3m×2.8m、床面からの深さ40～60cmを測り、焼土と炭化粒子混じりの褐色粘土層で充填されていた。また、カマド左側の土壙は、壁を抉り込んで掘られている。



住居跡土層

1. 茶褐色土　ローム粒少量含
2. 茶褐色土　ローム粒やや多く含む
3. 褐色土　ローム、焼土、炭化粒を含み粘質
4. 褐色土　3に類似、焼土やや多く含む
5. 暗褐色土　ローム、焼土、炭化粒含、やや粘質
6. 褐色土　5層に類似、焼土少ない
7. 暗黄褐色土　ローム多量に含む
8. 褐色土　焼土多量に含む
9. 暗褐色土　8層に類似
10. 暗黄褐色土　やや粘質、ローム粒子含む
11. 茶褐色土
12. 暗黄褐色土　ローム粒、焼土含む
13. 暗茶褐色土　ローム、炭化粒、焼土含む
14. 暗茶褐色土
15. 褐色土　やや粘性あり
16. 暗黄褐色土　ローム粒含む
A. 暗茶褐色土　粘質、ローム粒(多)、焼土
B. 暗黄褐色土　粘性(強)、ローム(多)、焼土
C. 暗褐色土　ローム粒(少)、焼土粒(少)

カマド土層

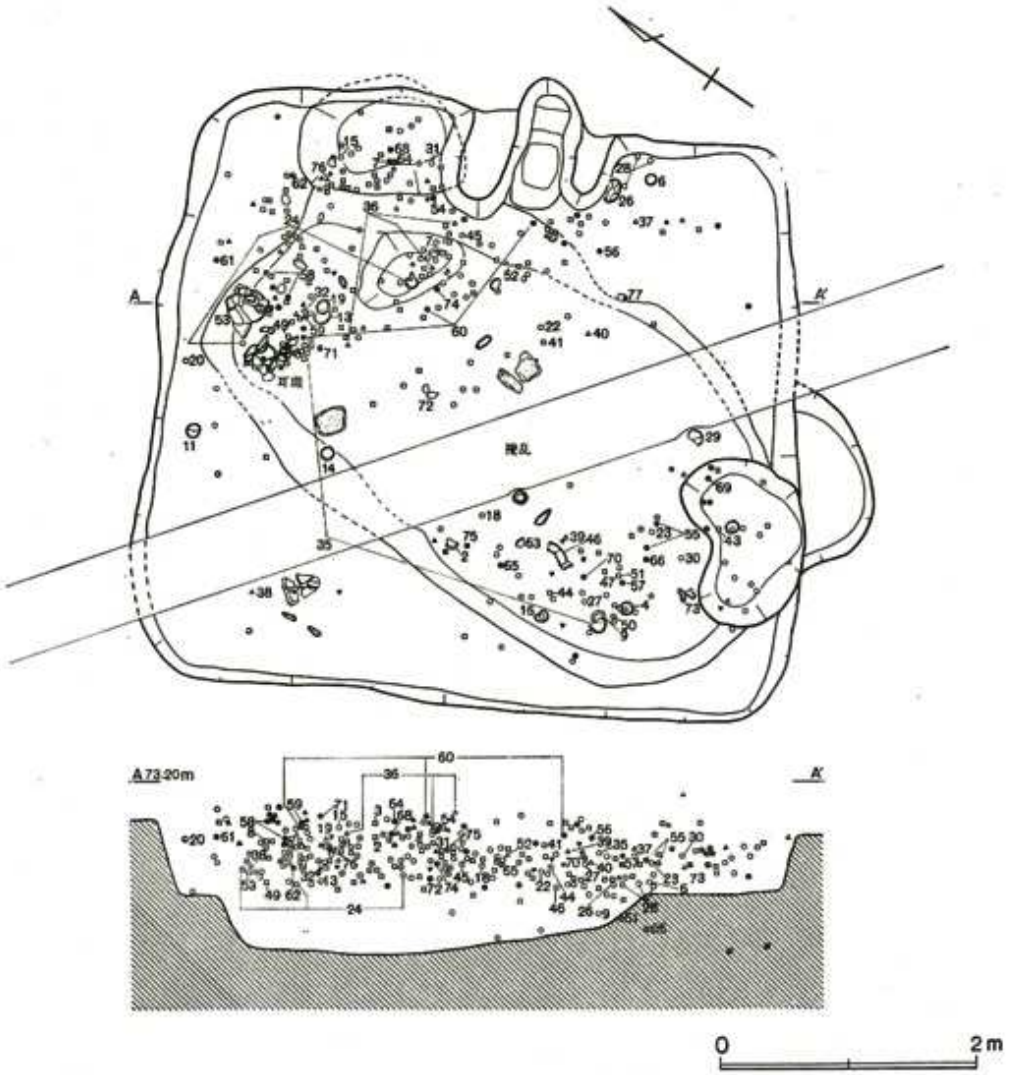
1. 暗褐色土　ローム粒子、ブロック含
2. 褐色土　焼土ブロック含み粘性強い
3. 明褐色土　焼土化している部分あり、粘質土
4. 褐色土　3層類似、黒色土混る
5. 黒褐色土　ローム粒含む
6. 褐色土　ローム、焼土含む
7. 暗褐色土　ロームブロック、黒色土含む
8. 黄褐色土　ローム主体に焼土混る
9. 褐色土　粘質土、焼土散見含む
10. 黄褐色土　粘質土、ローム含む
11. 黄褐色土　10層類似、多量のローム含む
12. 暗褐色土

第64図　2号住居跡・カマド

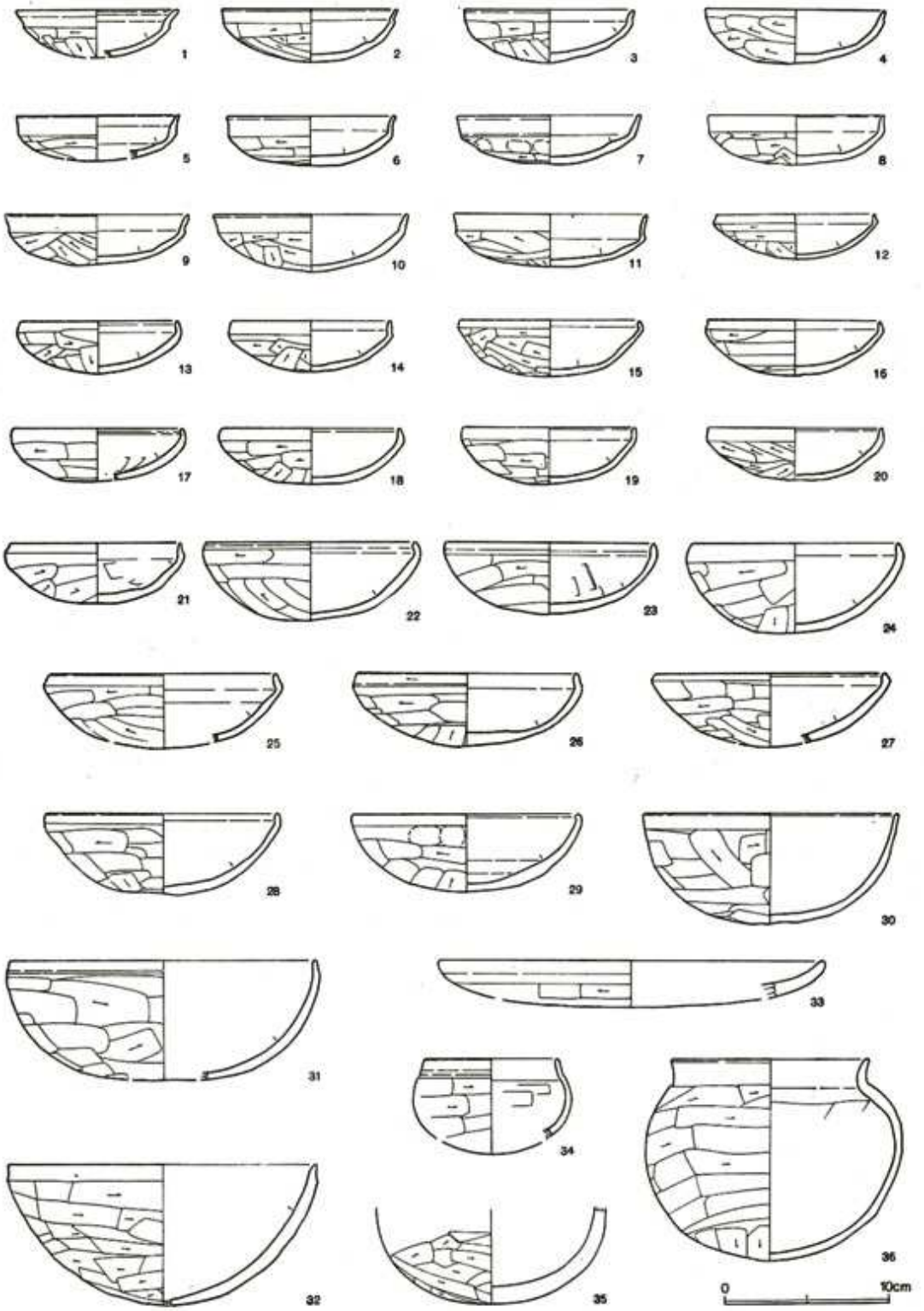
今井G

カマドは、東壁の中央より僅かに右寄りの位置に設けられる。壁外への掘り込みは、約60cmと比較的浅い。燃焼部は長方形に掘り凹め、煙道部の立ち上がり角度は急で垂直に近い。その他、柱穴や壁溝等の施設は確認されなかった。

出土遺物は、土師器坏・甕・甑、須恵器坏・蓋・盤・高坏・甕・瓶など多量に検出された。これらの土器群は、床面や床下土壙、一次堆積土からの出土は少なく、その殆どが覆土より検出されたもので、上層から下層まで万遍なく出土している。その平面分布をみると、北東壁と南西壁コーナーを結ぶ対角線上に多く分布する傾向にあり、かなり離れた位置のものが接合する例もある。他に鉄滓2610g、鞴羽口片960g、被熱した砂岩1670gと貝巣穴泥岩100gが土器群に混じり出土した。



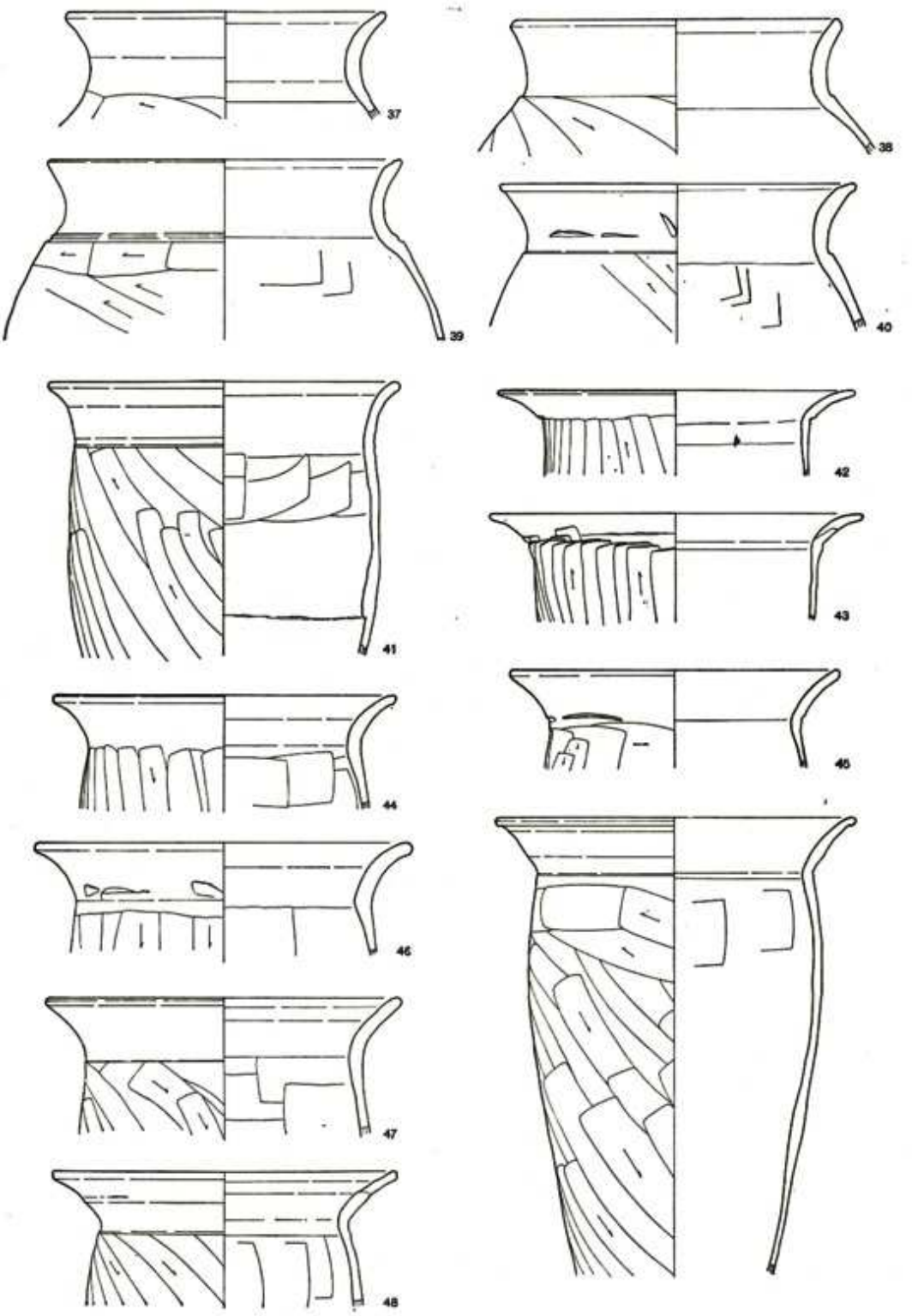
第65図　2号住居跡出土遺物分布図



第66図　2号住居跡出土遺物 (1)

2号住居跡出土遺物（第66～68図）

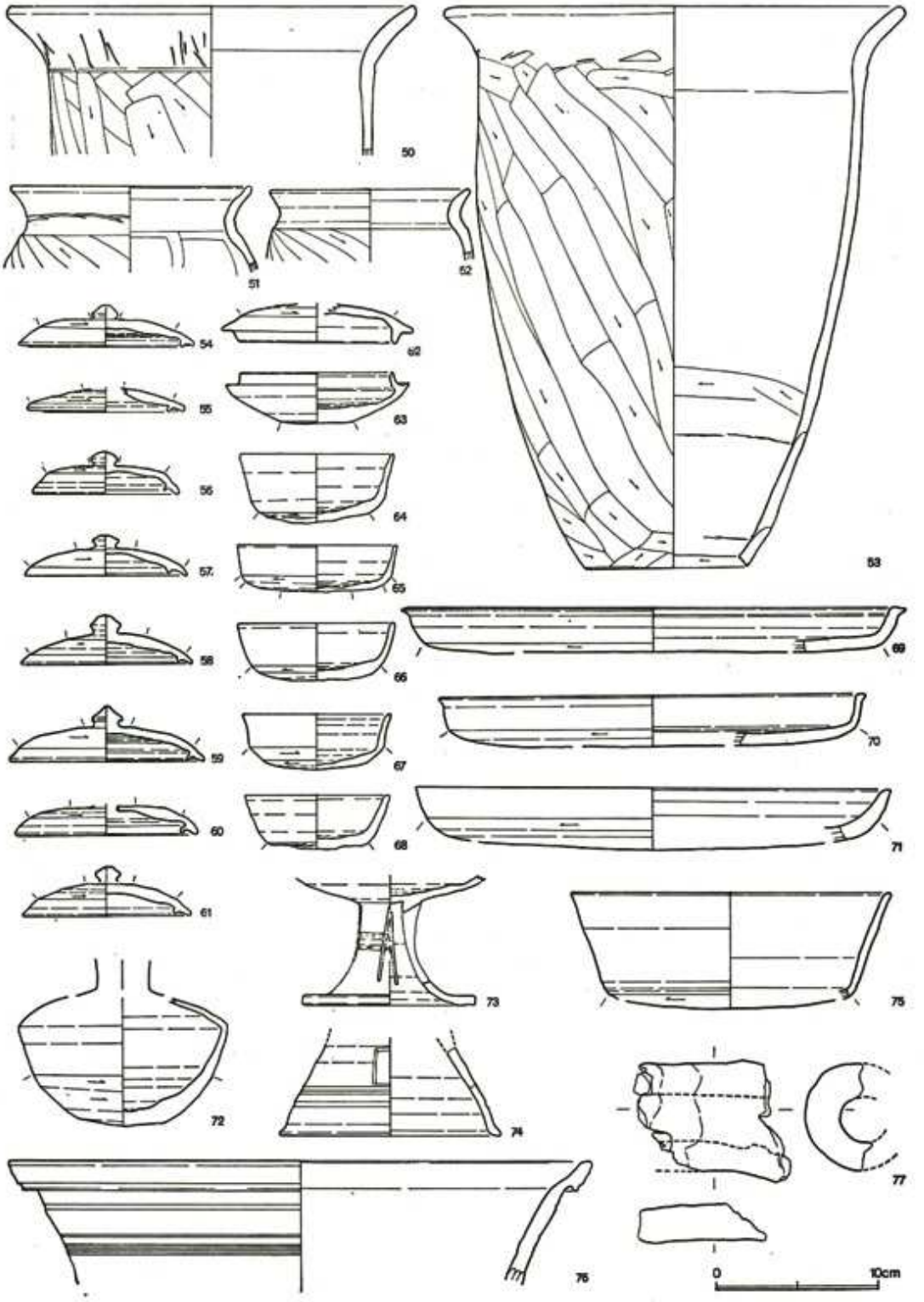
器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	(9.8)		(2.8)	BCDEF	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	覆土。1/5。
坏	2	10.6		3.3	ABCD	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面はナデ。	№312。4/5。
坏	3	(10.5)		3.0	ABD	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面はナデ。	覆土。2/3。
坏	4	10.9		3.5	ABCDE	茶褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面ナデ。	№235。完存。
坏	5	(3.7)		(2.8)	ABC	赤褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面ナデにより平滑。	覆土。1/5。
坏	6	10.1		3.0	BCF	赤褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№216。完存。
坏	7	11.2		3.0	BCD	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面下半のみ筆削り。上半は指頭痕を残し未調整。	№87。2/3。
坏	8	(10.5)		3.0	BCF	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	覆土。3/5。
坏	9	11.2		3.1	BCDF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№315。ほぼ完。
坏	10	11.8		3.5	B	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	覆土。ほぼ完。
坏	11	11.8		3.3	BCDEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面はナデ。	№269。完存。
坏	12	9.6		2.7	BCDF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	覆土。1/2。
坏	13	9.5		3.2	BEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№182。4/5。
坏	14	9.8		3.1	BCDF	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、上位は未調整。	№272。ほぼ完。
坏	15	11.2		3.9	BCDF	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№6。2/3。
坏	16	10.5		3.4	BCF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№314。ほぼ完。
坏	17	10.3		3.2	BCDF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面は筆ナデ。	覆土。2/3。
坏	18	10.8		3.3	BCF	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№263。1/2。
坏	19	10.5		3.5	BCEF	赤褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№63。完存。
坏	20	10.6		3.2	BCDF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№62。1/2。
坏	21	10.2		3.6	ABCDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、上位は未調整、内面筆ナデの後ナデ。	覆土。口縁部4/5。体部3/4
坏	22	12.7		4.8	BCF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№285。1/2。
坏	23	12.8		4.3	ABCE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、内面は横ナデの後、筆ナデ。	№223。3/4。
坏	24	12.5		5.5	BC	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	№173, 193, 212。。ほぼ完。
坏	25	(13.6)		(4.5)	BC・砂粒	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り。	覆土。1/3。
坏	26	13.5		4.4	BC	茶褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面筆削り、上位は未調整。	№215。4/5。



第67図　2号住居跡出土遺物 (2)

今井G

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
坏	27	(14.0)		(4.5)	BCF	褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№238。1/2。
坏	28	14.2		4.9	BCF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は未調整。	№215, 217, 218。。ほぼ完。
坏	29	13.7		4.7	BCD	褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は指頭痕を残し、未調整。	№292。3/8。
坏	30	15.5		6.7	BC・砂粒	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は一部未調整。内面磨滅により不明瞭。	№221。1/2。
坏	31	(18.8)		(7.3)	ABCF	茶褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、上位は一部未調整。	№75。1/4。
鉢	32	18.7		8.7	ABCDE	茶褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、内面はナデ。孔部周辺篦削り。	№113。完存、内面に煤付着。
皿	33	(23.3)		(2.8)	BCDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面は磨滅により不明瞭。	覆土。1/9。器内褐色。
小型壺	34	(8.0)		(3.9)	BCDG	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面は篦ナデ。	覆土。1/3。
小型壺	35			(5.8)	ABDE	橙褐色 1	胴部外面篦削り、内面ナデ。	№131, 237底部完。
小型壺	36	11.8		12.4	ABDE、緻密。	褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面は篦ナデ及びナデ。	№64、85、88。口縁部ほぼ完。胴部4/5。
壺	37	(19.2)		(6.5)	ABCF	褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面はナデ。	№109。口縁部1/5。
壺	38	(19.3)		(8.3)	ABCDEF	褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。	№266。口縁部1/5。
壺	39	21.6		(10.9)	ABCDE	茶褐色 3	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面は篦ナデ。	№245。口縁部3/8。
壺	40	(21.8)		(8.6)	ABCDEF	淡褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面は篦ナデ。	№287。口縁部1/8。
甕	41	(21.0)		(16.7)	ABCD・砂粒	茶褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面は篦ナデ。	№284。1/5。
甕	42	(21.8)		(5.1)	ABCDF	黒褐色 3	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。内面に指頭痕有り。	覆土。口縁部1/8。
甕	43	(22.6)		(6.5)	ABCDF, 非常に粗い。	茶褐色 2	口縁部横ナデ。胴部篦削り、内面ナデ。口縁部外面の一部に接合痕を残す。	№219。口縁部1/8。
甕	44	(20.8)		(6.8)	ABCDEF	褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面篦ナデ。	№243。口縁部1/8。
甕	45	(19.8)		(5.9)	B(多)ACDF	淡褐色 3	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。	№203, カマド内。口縁部1/8。
甕	46	23.0		(6.7)	ABCDEF	淡褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面篦ナデ。	№246。口縁部4/5。
甕	47	(21.7)		(8.2)	ABCDEF	茶褐色 2	口縁部横ナデ。胴部篦削り、内面篦ナデ。	№229。口縁部1/8。
甕	48	20.9		(8.2)	ABCD	橙褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面篦ナデ。	カマドNo.1。口縁部ほぼ完。
甕	49	22.7		(28.0)	ABCD	褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、上位は未調整。内面は篦ナデ。	№175。3/8。
甕	50	(24.7)		(9.3)	ABCDF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面はナデ。口縁部外面に篦キズ有り。	№236。口縁部1/8。
小型甕	51	(14.7)		(5.3)	ABCD	茶褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り、内面篦ナデ。	№316。口縁部1/8。
小型甕	52	12.2		(4.4)	ABCF	茶褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。	№95。口縁部1/8。
甕	53	(24.4)	孔径 9.9	34.7	ABCDE・2mm大小石(多)	褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。内面丁寧なナデ。孔端部篦削り。	№172。口縁部1/8。胴部ほぼ完。



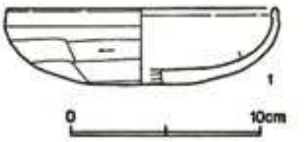
第68図　2号住居跡出土遺物 (3)

今井G

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
須恵蓋	54	10.8		2.6	ADE	灰色 2	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№80。4/5。接地面はかえり部。
蓋	55	9.4		1.5	DE。砂粒・小礫多し。	青灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。接地面はかえり部。	№226.302。2/3。
蓋	56	(8.8)		2.6	DE。砂粒・小礫多し。	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№106。口縁部1/5。
蓋	57	(10.0)		2.5	DEF	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№231。1/3。
蓋	58	(10.4)		2.0	D・白色粒子(多)E	暗灰色 2	ロクロナデ。天井部回転篦削り。接地面は口縁部。	№35, 127。口縁部1/4。
蓋	59	(10.0)		3.4	DE・砂粒子	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り、接地面は口縁部。	№48、1/5。
蓋	60	11.0		(1.8)	DE	黒灰色 1	ロクロナデ。天井部回転篦削り。接地面は口縁部。	№50、70、99。4/5。つまみ欠失。
蓋	61	10.1		(2.0)	D(多)E	灰色 2	ロクロナデ。天井部回転篦削り。	№32。口縁部2/5。つまみ欠失。
蓋	62	(8.8)		2.7	D(多)E	黒灰色 2	ロクロナデ。天井部外面回転篦削り。	№161。1/3。
坏	63	(11.2)		3.1	EF	灰褐色 1	丁寧なロクロナデ。底部外面中央、回転篦削り。	№247。1/3。
坏	64	9.6	7.4	4.2	DEF	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦起こし後ナデ。	№20。2/3。ロクロ右回り。
坏	65	(9.8)	(8.5)	2.9	BDE	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦起こし後底部周辺〜体部外面下端を回転篦削り。	№249。1/5
坏	66	9.7	7.0	3.5	E	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦起こし後ナデ。	№317。ほぼ完。ロクロ右回り。
坏	67	9.1	6.5	3.4	E	黒灰色 2	ロクロナデ。体部外面下端、底部外面回転篦削り。	覆土。1/3。ロクロ右回り。
坏	68	(8.9)	(6.2)	(3.3)	DE	黒灰色 2	ロクロナデ。底部外面回転篦起こし。	№17。2/3。ロクロ右回り。
盤	69	(31.0)	(28.4)	(2.8)	E(多)D	黒褐色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。口縁内内面上方に弱い凹線がめぐる。	№294。1/9。器面は気泡泡がみられる。
盤	70	(26.4)	(25.3)	(3.1)	DEF	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。	№232。1/5。
盤	71	(29.2)	(26.6)	(3.8)	DE	灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。口唇端部はやや磨滅している。	№51。1/9。
長頸瓶	72	肩部 22.9	5.2	(7.1)	DE・黒色粒子	灰色 1	ロクロナデ。胴部下半〜底部回転篦削り。肩部外面、胴部内面下端自然釉。	№277。胴部1/2。底部完。
高坏	73		10.8	(6.7)	DE	黒灰色 1	ロクロナデ。脚部四方に線状のスカシをもつ。	№217。脚部ほぼ完。
高坏	74		(13.5)	(5.6)	DE・黒色粒子	灰色 2	ロクロナデ、四角形様のスカシをもつ。	№142。1/3。
椀	75	(19.8)	(15.2)	(7.1)	DE	黒灰色 1	ロクロナデ。底部外面回転篦削り。	№259。11/5。
大型甕	76	(35.8)		(7.6)	DE。砂粒・小礫多し。	青灰色 1	ロクロナデ。	№9。1/4。
鵜羽口	77	残長 (8.2)	幅 7.2	厚さ 2.1	B(少)C・2mm小石スサ状植物	褐色 3	外面ナデ。スサ状の植物圧痕あり。内面はナデ、横方向の篦キズあり。	№228。1/2。外面片側黒灰色で表面気泡多数。

3号住居跡（第70・71図）

調査区西端の19a・20a区中心に位置する。住居の約半分は調査区域外にかかり全体の規模は不明だが、北壁3.82m、東壁3.58mが残存する。形態は方形プランを呈するものと推定され、主軸方位はN—7°—Wを示す。壁高は北壁で30cmを測る。床面は平坦で堅い。

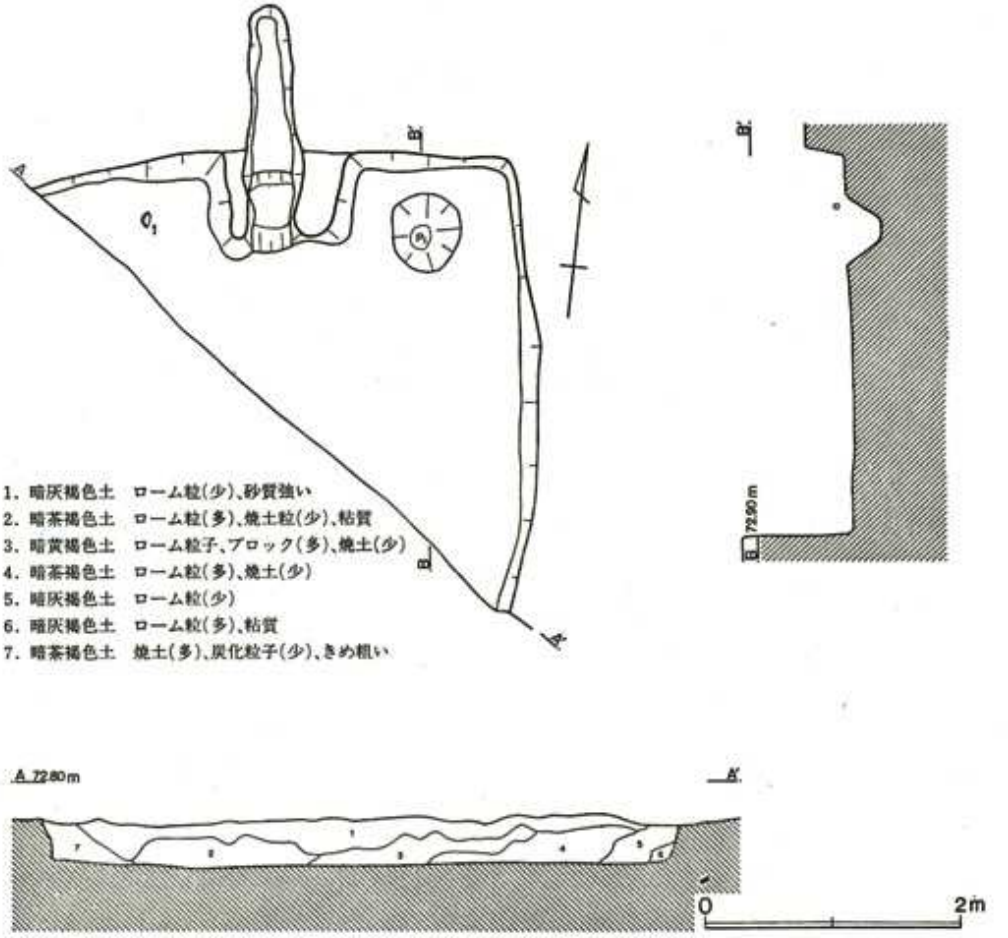


第69図　3号住居跡出土遺物

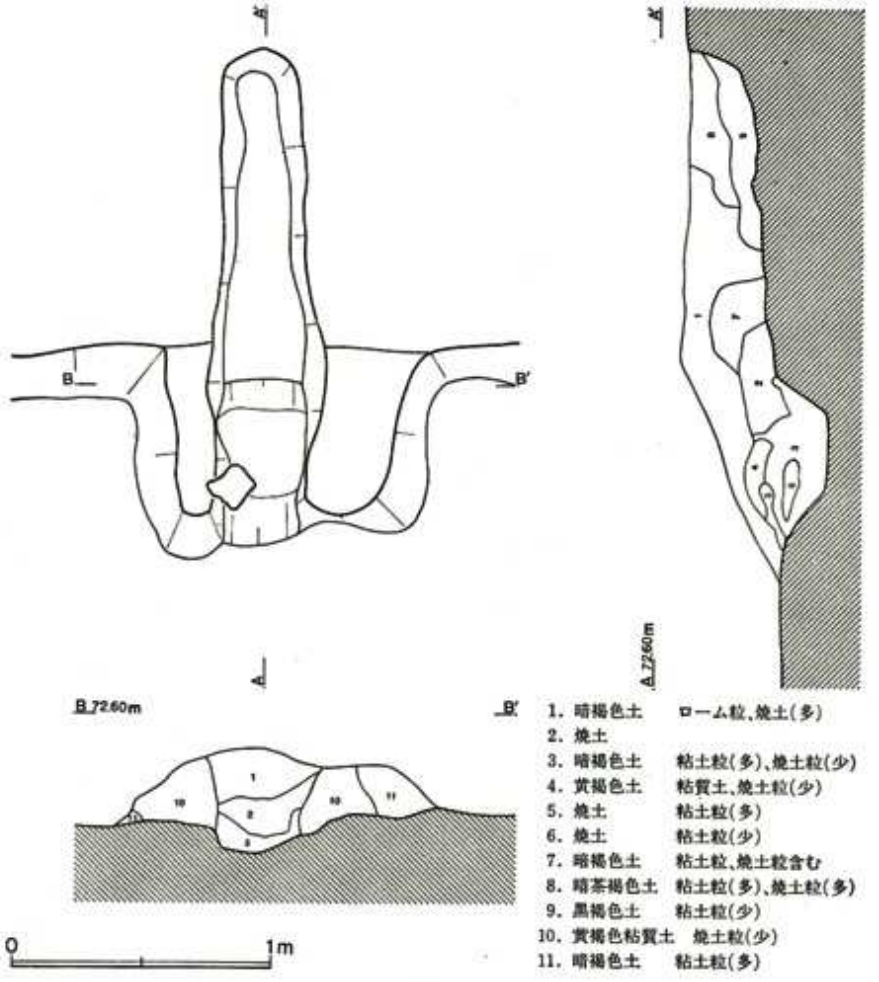
カマドは北壁に付設され、煙道は壁外に1.1m程延びる。またカマド右側のコーナー付近には、55cm×66cm、深さ26cmの円形を呈する貯蔵穴が検出された。出土遺物は極めて少ない。

3号住居跡出土遺物（第69図）

土師坏。推定口径14.0　器高4.0cmを測る。丸底の底部から体部立ち上がり口縁部やや内湾する。体部外面へラケズリ、口縁部横ナデを施す。胎土はＡＢＣＦを含み緻密。色調は褐色を呈す、焼成普通。⅔残存。



第70図　3号住居跡



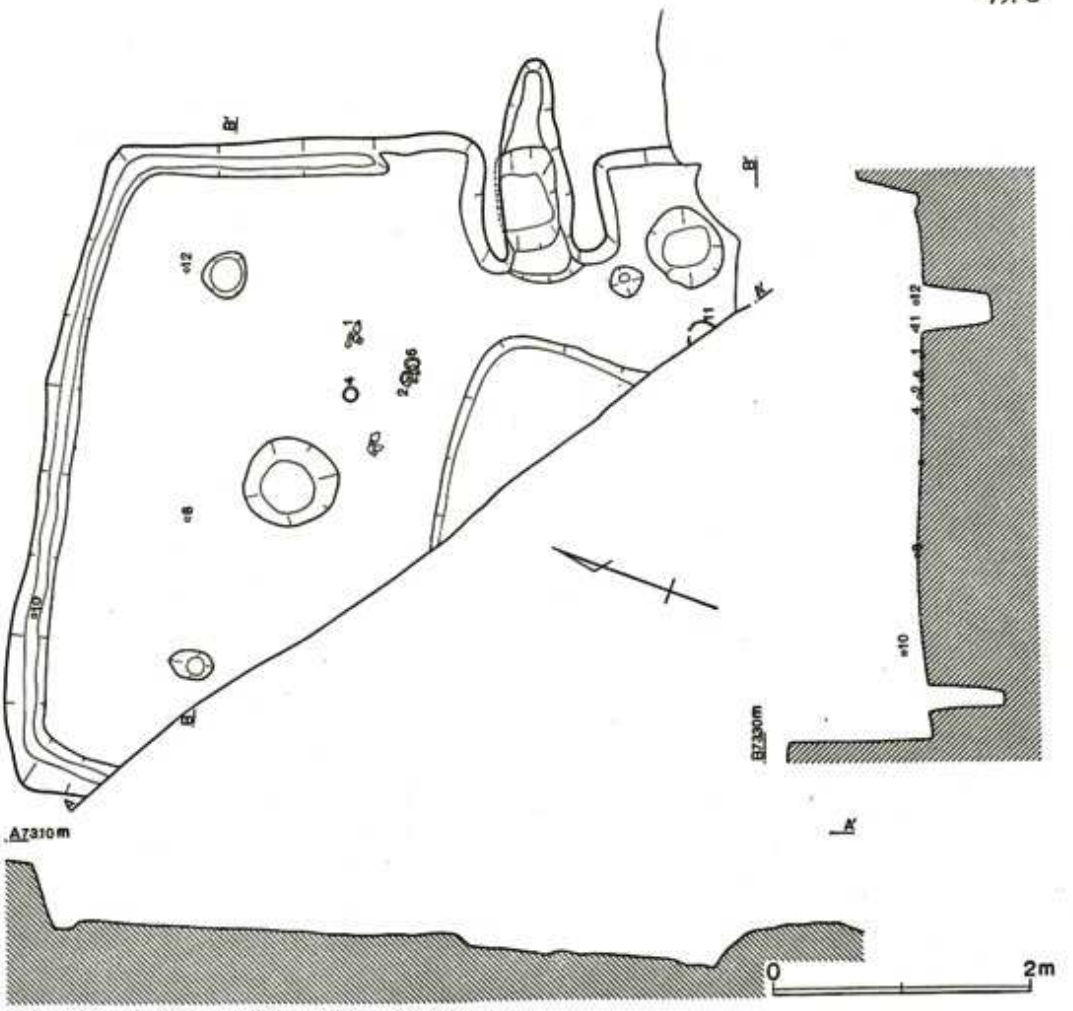
第71図　3号住居跡カマド

4号住居跡（第72・73図）

15D区を中心に位置する。調査区域外にかかり、住居のおよそ半分程が検出されたが、カマド右側のコーナー部分は、3号粘土採掘壙により破壊されている。

規模は北壁5.2m、東壁は4.46＋αm、深さ45cmを測り、平面形態は方形を呈するものと推定される。床面は平坦で堅い。また、カマド前面の調査区域外にかかる箇所に、土壙状の落ち込みが確認されたが、住居跡に伴うものではない。主軸方位は、N—72°—Eを示す。

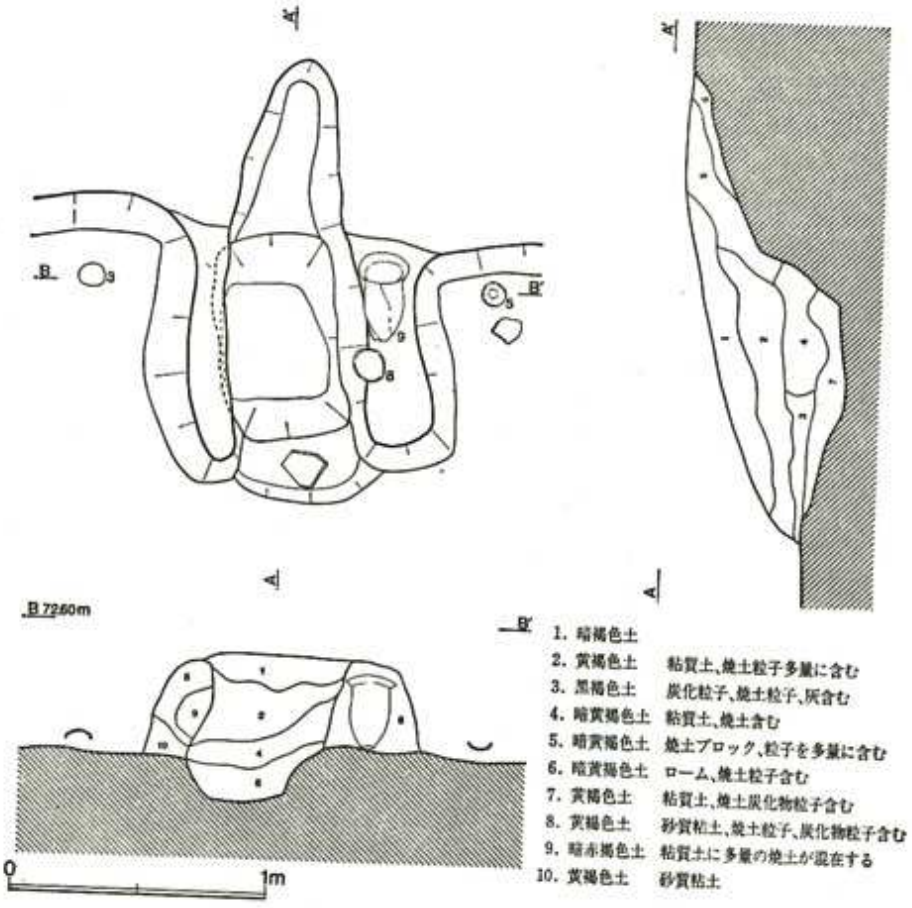
カマドは東壁に設置され、煙道は壁外に70cm程掘り込まれる。カマド右袖内より土師器甕・坏が各1点検出された。甕は壁に寄りかかる様な状況を呈し、袖部の補強に使用されたものと考えられる。その他、カマド右横に貯蔵穴（深さ30cm）が、また北壁から東壁にかけては壁溝が検出された。主柱穴は2本、北壁に沿った位置に穿たれている。出土土器のうち1・2・4・6・8は床直で、3・5は床面より若干高い位置から出土した。



第72図　4号住居跡

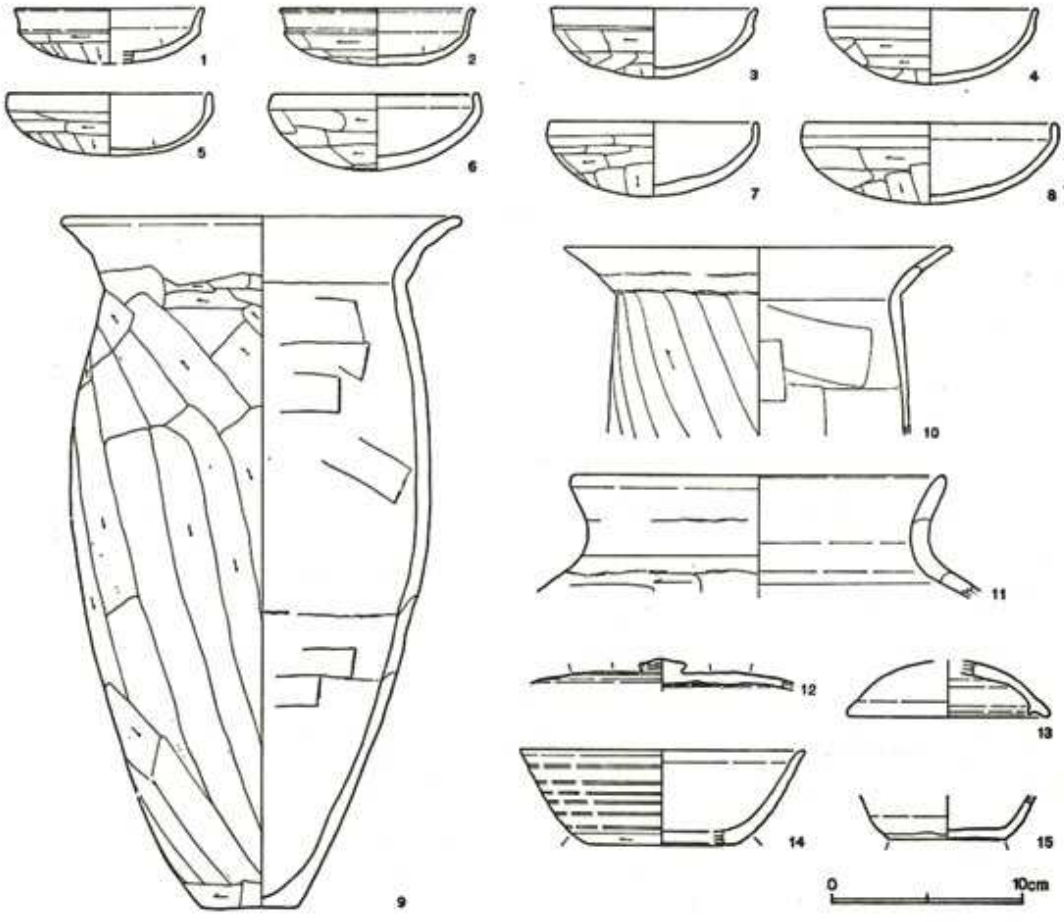
4号住居跡出土遺物（第74図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	10.0		2.9	ABC	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。	№6。1/2。
坏	2	10.1		3.0	ABC	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。外面口縁～体部の境に浅い沈線がめぐる。	№14。ほぼ完。
坏	3	10.7		4.6	BC・砂粒子	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。内面は磨滅により不明瞭。	№11。完存。
坏	4	11.0		3.9	ABCF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。上位は未調整。内面は磨滅により不明瞭。	№4。完存。
坏	5	10.5		3.3	BC	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。	№12。ほぼ完。
坏	6	10.7		4.0	BCDE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。内面は磨滅により不明瞭。	№7。完存。
坏	7	10.9		3.9	ABCF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面箆削り。内面は磨滅により不明瞭。	覆土。完存。



第73図　4号住居跡カマド

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	8	13.1		4.2	BCD。砂粒子多し。	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。上位は未調整。内面は磨滅により不明瞭。	カマドNo.2。完存。
甕	9	20.3	(5.0)	36.3	ABCDE。砂粒多し。	橙褐色 3	口縁部横ナデ。底部外面、胴部外面篦削り。内面篦ナデ。	カマド右袖内No.1。ほぼ完。
甕	10	(19.9)		(9.8)	ABCDEF	褐色 2	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。内面は篦ナデ。	No.1。口縁部 1/8。口縁部外面に輪積み痕残る。
壺	11	19.5		(6.4)	ABCDF	茶褐色 1	口縁部横ナデ。胴部外面篦削り。口縁部との境は指ナデ。	No.10。口縁部ほぼ完。
須恵蓋	12			(1.7)	ABD	灰褐色 3	ロクロナデ。天井部回転篦削りの後、つまみ貼付けに伴うロクロナデ。	覆土。1/80
蓋	13	(10.3)		(2.9)	AD	灰色 2	内面ロクロナデ。外面は遺存状態悪く調整痕不明瞭。	覆土。1/80
椀	14	(15.0)	(7.4)	(5.0)	E・砂粒子	白灰色 1	体部内外面ロクロナデ。体部外面下端、底部外面回転篦削り。	覆土。1/80
坏	15		6.0	(2.3)	AD	黒灰色 2	ロクロナデ。底部外面一定方向の手持ち篦削り及びヘラ状工具によるナデ。	覆土。底部 1/80



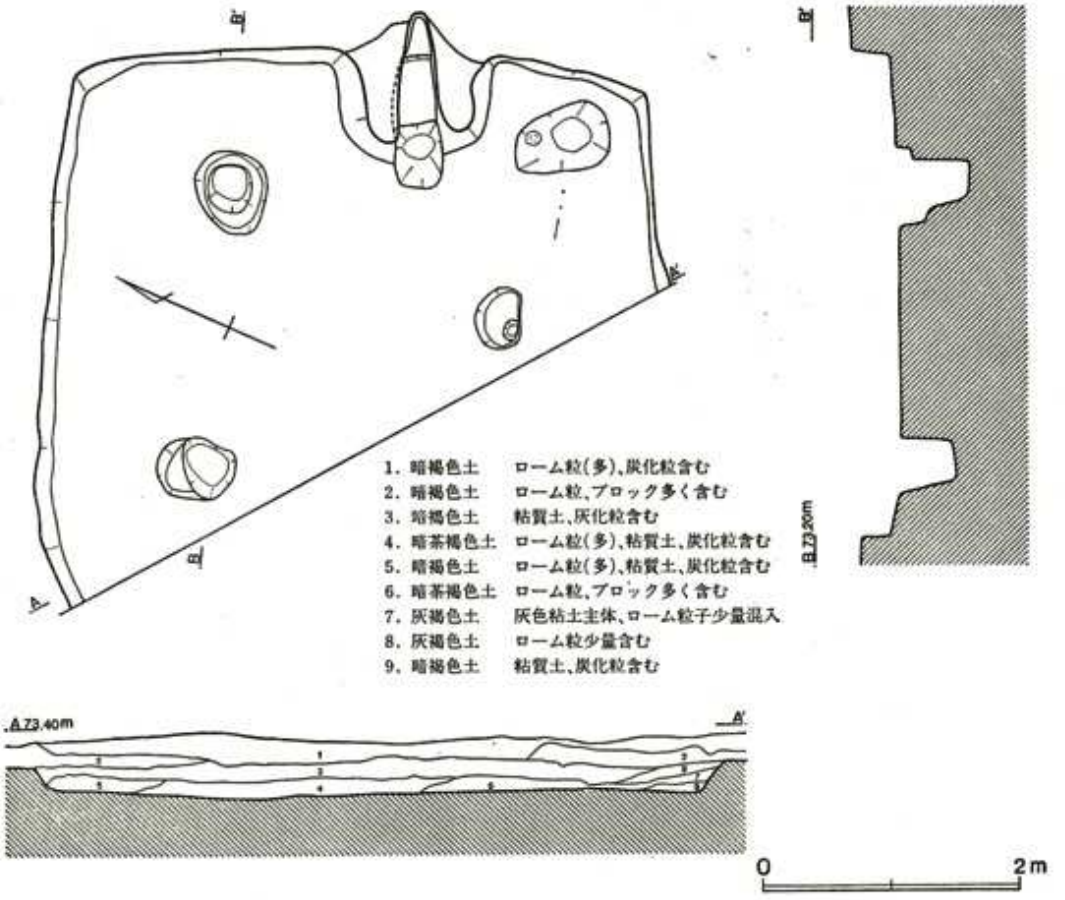
第74図　4号住居跡出土遺物

5号住居跡（第75～77図）

3L・4L区を中心に位置し、1・2号住居跡に近接する。調査区域外にかかるため、全体の$^2/_3$程が検出された。4.9×4.32m（＋α）、深さ30cmの規模をもつ方形プランの住居跡と考えられる。主軸方位はN—67°—Eを示す。床面はほぼ平坦であるが、全体的に軟かい。

カマドは東壁やや南寄りの位置にあり、壁を約30cm掘り込んでつくられていた。カマド両袖には倒置された土師器甕（25・26）が1個体づつ置かれていた。袖部の補強材と考えられる。また、カマド右横から深さ13cmの浅い貯蔵穴が検出された。その他、柱穴3本（深さ42～54cm）が伴う。

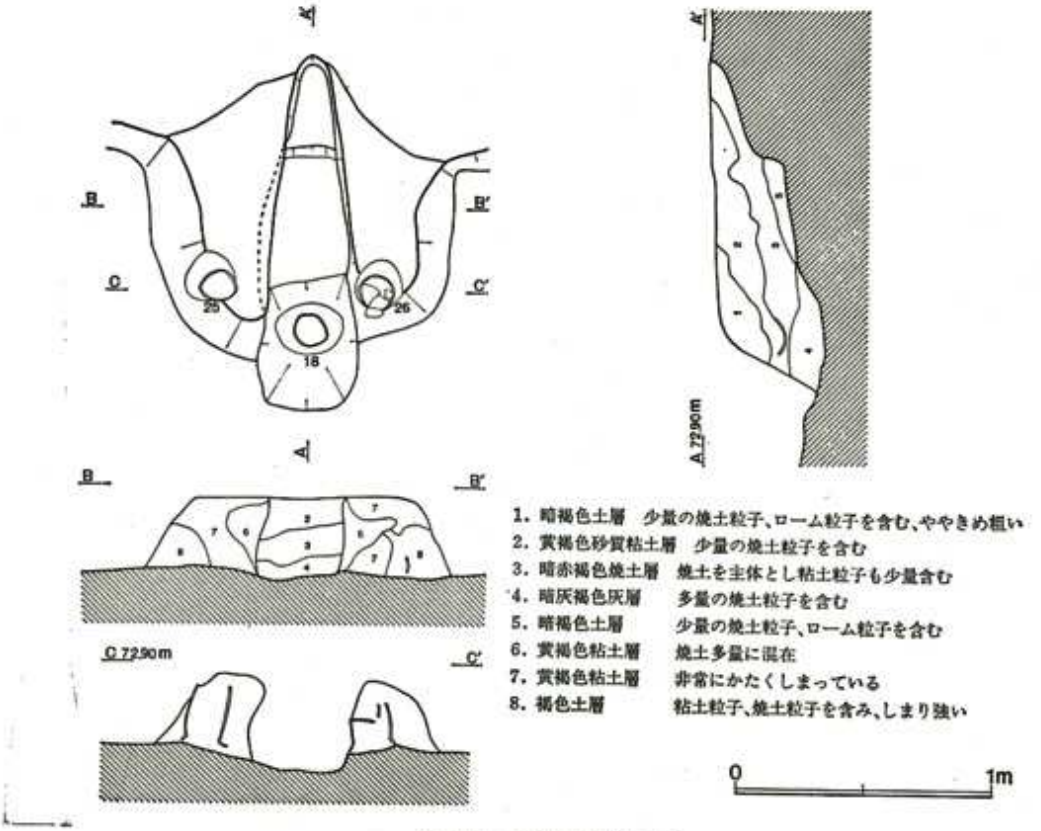
遺物は土師器坏・甕類、須恵器坏・蓋・盤・瓶などが多量に検出された。出土状況をみると、北壁側に多く、中央に向かうにつれて減少する傾向が認められる。また垂直分布を観察すると、北壁側の出土レベルが高く、南に行くに従い低くなる状況が窺われ、住居北側から投げ込まれたような感を抱かせる。その他の遺物として、鉄器・鉄滓885g、鞴羽口2片（225g）がある。



第75図　5号住居跡

5号住居跡出土遺物（第78・79図）

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	1	(10.0)		(2.2)	BCEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	No.17。1/9。
坏	2	9.7		2.5	ABDF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	No.54。口縁部 1/3。体部 3/4。
坏	3	(10.1)		(3.3)	BCDE	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。上位は未調整。	覆土。1/4
坏	4	(9.7)		2.8	BCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、内面はナデ。	No.56。口縁部1/3。
坏	5	10.6		2.9	BCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面はナデ。磨滅している。	No.29。覆土。4/5。
坏	6	(10.0)		3.2	BDEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	No.126。口縁部1/4。
坏	7	10.0		3.2	ABC	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	カマド、ほぼ完。



第76図　5号住居跡カマド

器種	番号	大きさ(cm) 口径	底径	器高	胎土	色調 焼成	手法の特徴	出土位置・残存率
土師坏	8	10.1		3.4	BCF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り、内面はナデ。	№140。4/5。
坏	9	10.0		3.4	BCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面は磨滅により調整痕不明瞭。	№8。完存。
坏	10	(11.5)		3.7	BCDEF	褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。上位一部削り残し有り。内面磨滅の為不詳。	№28。1/4。
坏	11	(12.1)		4.1	ABCF	茶褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。上位一部削り残し有り。	№58。1/4。
坏	12	10.7		3.6	BCDEF	橙褐色 1	口縁部横ナデ。体部外面指押えの後、篦削り。上位は未調整。内面はナデ。	貯穴№1。完存。
坏	13	12.2		4.1	BCE	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№105, 108。ほぼ完。
坏	14	(13.0)		(4.1)	BDEF	橙褐色 3	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。	№133, 150。口縁部1/4。器表面やや荒れている。
坏	15	14.0		3.8	BCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ、体部外面篦削り。内面は磨滅により調整痕不明瞭。	№84。口縁部1/4。
坏	16	12.8		4.6	BCDEF	橙褐色 2	口縁部横ナデ。体部外面篦削り。内面はナデ。	№134。口縁部2/3。